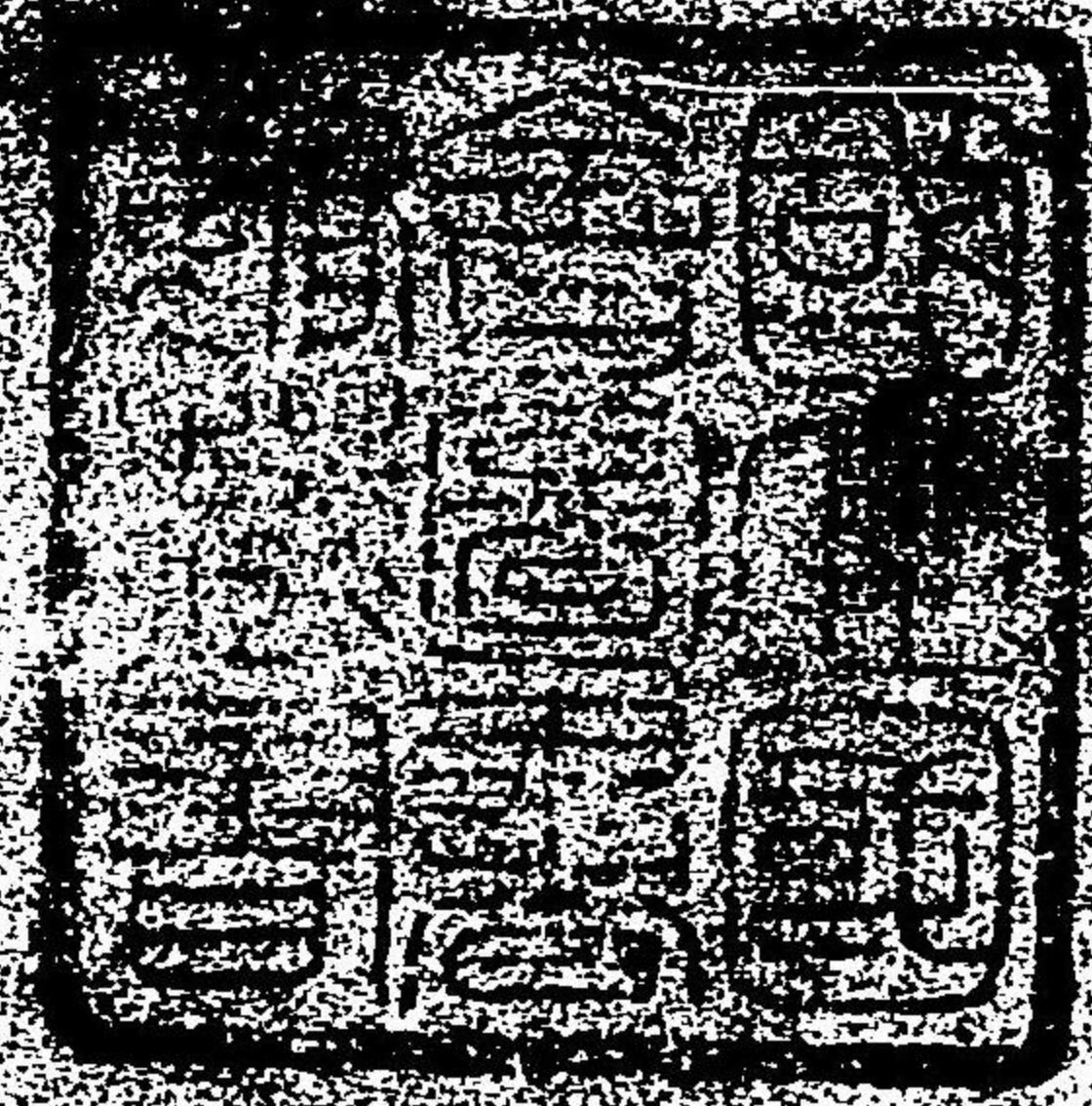


車倉
第四卷

三十八年六月



395
M178m

32853

滿洲軍倉庫業務報告

自明治三十八年六月
至同 年八月

滿洲軍倉庫業務報告第四卷

第一編 滿洲軍倉庫

第二章 滿洲軍本倉庫 (續)

六月一日 奉天橋元支庫長へ電報午前八時三十分大連發

貴地ニアル丸太ヲ二貨車丈ケ至急鐵嶺ニ送ルヲ要ス。之ガ爲メ貨車ノ都合ツカザル場合ニハ鐵嶺行ノ尋常糧秣ヲ二貨車丈ケ貴地ニ卸シ、其代リニ丸太ヲ積ムコトヲ其地鐵道掛員ト協議セヨ○返。

右ニ對シ左ノ返電アリ午後零時三十分奉天發

丸太二車今日送ル。今、積ミツ、アル。

同一日 對島警備隊經理部ヨリ電報午後二時二十四分大連受

貴庫へ轉任ノ柳本主計過日來博多地方へ出張中ノ處二十三日辭令拜受、二十

五日當地出發セリ。右出張ノ爲メ出發遅延セリ。念ノ爲メ通知ス。

六月一日 遼陽小野支庫長ヨリ電報。

本日當地第二軍兵站司令部ヨリ千草二十五萬八千貫、稗稈二萬三千貫、藁六萬貫引繼ギヲ受ケタルモ、内半数以上ハ給與ニ堪ヘザル見込ミ。詳細ハ整理ノ上報告ス。

同日 安東縣派出所黒田主計ヨリ電報午後零時四十分 安東縣發

當地通信所ハ當派出所ニ發信權ナシトテ電報ハ兵站部ヲ經由セザレバ受理セザル爲メ不便ニシテ且ツ差支ヲ生ズルコトアリ。依テ貴地臨時通信部長ヘ發信權ヲ認メラル、様交渉セラレタシ。當地碓泊場派出所ハ交渉ノ上發信權ヲ有スルニ至レリ。

右返電午後六時四十分 大連發

答、發信權ノコト通信部長ト協議済ミ。其地通信所ヘハ通信部長ヨリ電命アリシ答。取調べ返。

翌二日ニ至リ黒田主計ヨリ答、發信權認許セラルトノ返電アリ。

同日 安東縣派出所黒田主計ヨリ電報午後四時四十分 大連發

今日ヨリ機關車式鐵道ノ輸送ヲ中止ス。

同日 第六師團經理部長ヨリ電報午後二時五十分 大連發

先ニ請求シ置キタル足布一萬七千五百至急送付セラレタシ。若シ未着ナレバ綿メリヤス靴下送付ヲ乞フ。返待ツ。

右返電午後十一時三十分 大連發

答、足布一萬七千五百鐵嶺支庫ヨリ受取ラレタシ。

同時ニ鐵嶺支庫長ヘ電報。

足布一萬七千五百、第六師團經理部ヘ渡セ。

同日 鐵嶺前田支庫長ヘ電報午前十一時十分 大連發

鴨軍ノ主ナル補給ヲナス爲メ撫順ヘ出張所ヲ設クルニ付、貴地ヨリ一等主計一ヲ選ビ、至急予ノ許ヘ差出スベシ。後ハ成ル可ク早ク補充スル答。

右ニ對シ左ノ返電アリ午前九時三十分大連受三

撫順出張所員ニハ高橋一等主計ヲ充テラレタシ。同官ハ今奉天ニアリ。

右ニ付奉天橋元支庫長へ電報午前十一時三十分大連發三

撫順ニ出張所ヲ置ク計畫ニテ高橋ヲ其要員トス。右ニ付訓示スベキ件アリ。

直グ大連ニ來ル様同官へ傳ヘヨ。

右返電午後零時三十分大連受三

高橋ハ明日立チ、貴地ニ行ク。

六月一日 第三軍元、心臺子兵站司令部第七師團平井兵站司令部ヨリ電報午後五時

五分大連受

五月七日送狀四〇號ニテ菴梱包十三步兵第十八聯隊行トシテ送リシ夏衣袴

襦袢袴下九梱包ハ出征第十八聯隊行トシテ通江口兵站司令部へ至急返送ア

リタシ。

右返電午後六時四十分大連發四

答、御申越ノ追送夏服類ハ當倉庫ニ送リ來リシモノニアラザル故取調べ出來

ガタシ。

然ルニ同三日更ニ左ノ電報アリ午後七時十五分法庫門發五

夏襦袢袴下ノ件追送ニアラズ。還送品ニテ滿洲軍支庫預ケノ品貴部ニ送リ

タルニ付取調べタノム。

右返電四日午後一時三十分大連發

答、還送被服十三梱ハ何レノ支庫預リ品ナルヤ。當庫へ到着スレバ直ニ内地

へ送レリ。現今約壹萬梱アルモ取調べ困難ナリ。五月七日出ノ品ナレバ最早

内地へ送リ濟ミノ内ニ屬セシナラン。

同日 鐵嶺、奉天、遼陽、營口各支庫長へ電報午前一時大連發

分捕銃器輸卒隊ニ交付方稟申セントス。貴地ニアル倉庫附ノ輸卒隊ニシテ

銃器ヲ携帯スル隊號及其人員並ニ該隊ノ總人員ニ對スル銃器携帯人員ノ比

ヲ直グ電報セヨ。

右ニ對シ左ノ返電アリ。

遼陽小野支庫長ヨリ午前六時五十分大連受

答、輸卒隊第八師團第二隊ハ下士以下總員三百六十五名ニテ銃器一モナシ。

九ノ六隊ハ同四百九十名ニテ銃器五十アリ。故ニ約十分ノ一ノ比ニ當ル。

奉天橋元支庫長ヨリ午前八時三十分大連受

答、分捕銃ヲ持チ居ルハ第九師團第二隊ニテ總人員四百九十(幹部ヲ除ク)ニ對シ五十五挺ナリ。

鐵嶺前田支庫長ヨリ午後七時四十分大連受

倉庫附輸卒隊中銃器ヲ携帶スルモノハ九師團ノミニテ銃數五十五アリ。

遼陽ニテ守備軍司令部ヨリ分配セラレタルモノナリ。一隊毎ニ百總人員ニ對スル約五分ノ二ツツ交付セラレタシ。各隊長ノ希望ナリ。

營口金子支庫長ヨリ二日午後零時三十分大連受

答、銃器ヲ有スルハ第九師團ノ第四隊二十挺、五隊二十三挺、十八隊二十一挺

ニシテ總員ニ對スル携帶者ノ比ハ第四ハ二、二第五ハ二、八ナリ。銃器ヲ有セザルハ第十八隊二百八十一名、第七隊三百五十三名。右ニ付左記ノ如ク申請セリ。

六月五日滿倉第六〇九號

滿洲軍倉庫長 日 匹 信 亮

遼東兵站監 井 口 省 吾 殿

一小銃 七百六挺 一挺ニ付彈藥百發宛

但シ演習用ヲ含ム。

右當倉庫附輸卒隊總計十八隊ニ對シ一隊ニ付五十挺ツツ計九百挺ノ内現在數百九十四挺ヲ差引本文ノ通り御渡シ相成度申請ス。

六月一日 梶塚糧秣廠長ヨリ電報午後零時十分大連受

豫テ依頼アリシ技手代用雇員赤沼五八郎管原榮吉ノ二名其地ニ送ル。辭令

ニ代ハルベキ電報ヲ本人ニ與ヘラレ度シ。月給二十五圓ナリ。此ニテ跡ハ送ラヌ。

六月一日 鐵嶺前田支庫長ヘ「元天津ニアリシ大草壽太郎ナルモノ其地ニアリト云フ。通譯ニ備入レタシ。取調べ返」ト電報セシニ、同三日大草ハ當地ニ在リ三、四日中ニ送ル」トノ返電アリ。

同日 鐵嶺前田支庫長ヨリ電報午後七時二分大連受

滿倉ノ引込線九分通り出來上リ、本日十一時着ノ列車ヨリ運轉ヲ實施セリ。

武内副提理ヘハ貴官ヨリ特ニ宜敷○本日前十一時兒玉閣下御巡視ノ上、後二時半奉天ニ歸還セラレタリ。

同日 鐵嶺前田支庫長ヨリ電報午後七時十分大連受

味噌現在高約三萬貫アリ。約一週間追送見合セラレタク○此ノ期ヲ利用シ味噌ヲ十分成熟セシメラレタシ○營口遼陽ヘ御下命ヲ乞フ。

右ニ付遼陽營口兩支庫長ヘ其旨電報セリ。

同日 遼陽ニ於ケル味噌、醬油製造場修繕ニ關シ在安東縣石井建築部長ニ交渉シタルニ左ノ返電アリ午前十一時十分安東縣發

遼陽ニ保管ノ煉瓦ナシ。大連ニアルモ輸送困難ナリ。板類多數ナルヲ以テ修理工事下命ナル様貴官ヨリ經理長官ヘ上申アリタシ。

右ニ付、更ニ左ノ如ク電報ス午後三時十分大連發

答、此際其筋ヘ申出ヅルトキハ事六ツカシクナリテ時機ノ遷延センコトヲ恐ル。一方デハ補給ノ關係上急ヲ要スル故半分丈ニテモ宜シ。貴官ノ取計ヒニテ修繕願ヒタシ。返待ツ。

右ニ對シ左ノ電報アリ午後五時十五分安東縣發

答、當部ニテ半分丈修理スルトキハ残り半分ハ如何ニスベキヤ。

右返電午後十時五十分大連發

答「アンベラ」等ヲ集メテ一時ノ間ニ合セル積リ。

斯クテ後漸ク同部ニテ修理セラル、コトヲ得タリ。

六月二日 新民屯米田主計ヨリ電報午前四時三十分大連受

大江部長ヨリ左ノ電アリ。買入差支ナキヤ○支那馬車荷物防雨ノ爲メ支那雨覆約三千枚至急入用ナリ。貴地ニテ得ラル、ヤ得ラルレバ價ト寸法聞キタシ○左ノ如ク返電シ置ケリ○答適當ノモノアリ。巾四尺四分長サ七尺ニテ一枚壹圓參拾五錢。木綿ニ油ヲ引キタルモノ當地ニハ千五百枚アリ。尙ホ天津ニハ二千枚アル見込ミ。今照會セシム○是ハ露軍ニ納ムル目的ニテ送リタルナラン。所有者ハ獨逸人ナリ。輕便線ノ搭載場ニ「アンペラ」ノ屋根ヲ葺キタル雨覆小屋二個(約二百坪)造リタシ。御許可ヲ乞フ○「アンペラ」ハ汽車ノ覆ニナシ來ルモノニテ足ルモ木材ハ土人ヨリ立木ヲ買ヒ伐採シテハ如何。

右返電午後八時大連發

答、木綿ニ油ヲ引キタル雨覆大江部長ヨリ三千枚買入ノ件承知ス。内若干ハ其出張所ニモ買入レ置ク必要アラン○輕便線ノ搭載場ニ雨覆「アンペラ」小屋

二個造ルコト承知ス。木材ハ貴地ニテ調辨スベシ。

同日 金子營口支庫長ヨリ電報午前九時四十分大連受

明日ヨリ三百七ノ一列車増加セラレタリ。之ニハ麥ヲ送ル考ナルガ他ニ御計畫アリヤ。

右返電午後六時四十分大連發

答、明日ヨリノ三百七列ニハ建築材料(亞鉛板等)又ハ壓搾干草ヲ積ムベシ。

同日 鐵嶺前田支庫長ヨリ電報午前八時三十分大連受

昨午後ヨリ雷雨ノ爲メ大范河ノ橋梁破壊シ、汽車不通トナレリ。目下同地以南ノ各驛ニハ糧秣列車停止シアリ。此等ノ列車ハ一時皆奉天ニ引返ヘシテ荷ヲ卸シ、開通ノ時期ヲ待タシメラレタシ○此意見御採用ノ上ハ提理部へ御交渉ヲ乞フ○此理由ハ心臺子附近ニハ總テノ設備無ク、之ガ前送ニモ汽車ノ運轉不便ニテ水路ニ出ダスモ車馬ニ依ラザルヲ得ズ。奉天ナラバ輕便鐵道モアリ。又諸準備モ出來アリ。汽車ノ臨時輸送ニモ便ナリ。

右返電午前八時五分大連發

答途中ノ糧秣ヲ奉天ニ卸スコト同意。今提理部へ聞合セ中。

右ニ付奉天橋元支庫長へ電報午前九時十分大連發

大范河架橋破損シ汽車不通トナル。鐵嶺行ノ糧秣(他ノ倉庫品共)一時ハ其地へ收容スベシ。○收容物件ニ就テハ其時々報告スベシ。

同時ニ鐵嶺前田支庫長へ電報。

糧秣汽車奉天ニ卸スコト提理部ノ同意ヲ得タリ。鐵道關係者ニハ同部ヨリ夫々電達アル筈。○奉天支庫長へハ電命濟ミ。

次デ橋元支庫長ヨリモ左ノ電報アリ午前九時二分奉天發
午前十時大連受

大范河(心臺子附近)ノ鐵橋全部流失シ、本日午前三時ヨリ運轉中止。開通ニハ約二週間ヲ要スル見込ノ由當停車場司令部ノ話。爲メニ上リ列車モ運轉ヲ中止シアルモ此列車ノ運轉開始ハ午前中ニ分ル筈。

同日又橋元支庫長ヨリ電報午前十一時四分大連受

鐵嶺行ノ糧秣ハ殘ラズ當地ニ卸スコトニ停車場司令部ヨリ通知ニテ今卸シツ、アリ。就テハ雨覆五百枚ト下敷用トシテ薪五十貨車至急送ラレタシ。

鐵嶺前田支庫長ヨリモ又左ノ電報アリ午前十一時十分大連受

奉天ニ卸スコトニ御決定ノ上ハ同支庫へ其旨命令アリタシ。○昨午後ヨリ徹夜防雨ニ盡力セシモ糧秣ニ若干ノ損害アリ。但シ大シタコトニハアラズ。今朝ヨリ全力ヲ注ギ整理中。○當地臨時建築班ニテ建設中ナリシ避病室ノ屋根ハ剝ガレテ約二十丁ヲ離レタル山ノ中腹迄飛び去リタリ。其他ニモ土屋根等ノ崩レ戸障子ノ破壊夥シ。

次デ又橋元支庫長ヨリ電報午後零時二十分大連受

鐵嶺行ノ糧秣其他ヲ當地ニ卸スコトニナリタルニ就テハ營口ヨリ來ル生牛ハ當地ニ卸シテモ前途ハ出來ズ。又當地ニテ給與スベキ部隊モ無キニヨリ、當分送ルコト見合ス様命令アリタシ。

同日營口金子支庫長へ電報午後零時十分大連發

準備用トシテ特別ニ保管ヲ命ジ置キタル雨覆五百枚最近便ニテ奉天ニ送レ。
之レガ爲メ糧秣貨車ヲ用ユベシ。

斯クテ奉天橋元支庫長へ電報午後零時五分大連發

答、雨覆五百營口ヨリ送ルコトヲ電命シ置ケリ。下敷用薪ハ日々發送シアル

故本日ヨリ着ノ分ヲ入用丈ケ使用スベシ。

六月二日、遼陽小野支庫長ヨリ電報午後零時五分大連受

提理部ヨリ范河橋梁流失ノ爲メ本日三百五列ヨリ糧秣ハ凡テ此地ニ卸スト
ノ通知アリ。右報告ス。

右ニ付、直ニ鐵道提理部へ問ヒ合セタルニ遼陽以北ノ運行ハ遼陽出張所長ニア
ラザレバ分ラヌガ蓋シ糧秣ハ若干遼陽ニ卸スコト、ナルナラン。取調べテ返
辭ス。鐵橋ノ修理ハ減水セバ四、五日間ニテ終ル筈ト。

同日、午後二時五分奉天橋元支庫長ヨリ電報

上リ列車ハ本日十列ヨリ復舊ノ筈。

同日、營口金子支庫長へ電報午後四時十分大連發

昨今大連倉庫へ送ル生牛肉ハ腐敗ノ徵アリ。爾今送附ヲ停止スベシ。○奉天
以北汽車不通ニ付、鐵嶺行ノ生牛肉モ同様送付ヲ停止スベシ。

同日、遼陽鐵道提理部出張所岡野少佐へ電報午後七時十分大連發

鐵嶺行糧秣ハ全部奉天ニテ卸スコトニ取計ハレタシ。返待ツ。

同時ニ小野遼陽支庫長へモ其ノ旨電報セリ。

右ニ對シ、岡野少佐ヨリ返電午後八時十分大連受

答、明日ヨリ營口發車ノ糧秣ハ全部奉天ニ卸スコトニセリ。

同日、尙奉天橋元支庫長ヨリモ左ノ電報アリ午後九時大連受

遼陽岡野少佐ヨリ左ノ電アリ。○明日ヨリ營口發糧秣ハ奉天ニ卸ス故其手配
アリタシ。但シ三百十三列ヨリ始ム。○然ルニ今日ヨリ既ニ卸シツ、アリ。

同日、午後十時十二分營口金子支庫長ヨリ電報

答、生牛肉ハ腐敗ノ徵アル故一昨日以後送付ヲ見合セタリ。生牛ハ貨車ナキ

爲メ未ダ輸送スルコトヲ得ズ。依テ新民屯ニ廻ハサシメ、當地ニテ買入レハ中止セリ。第三軍ヨリモ要求アリ。薪至急廻サレタシ。

六月二日 三等主計柳本鶴三郎着任セリ。依テ奉天支庫附ヲ命ジ、三日朝八時出發赴任セシム。

右ニ付、橋元支庫長へ其旨電報スルト共ニ左ノ書面(摘要)ヲ送付ス。

- 一 俄ニ鐵嶺行ノ軍需品ヲ悉皆其地ニ卸下スルコトニナレリ。十分ノ盡力ヲ希望ス。
- 二 柳本主計ヲ當分貴支庫附トナシタルハ之ガ爲メナリ。
- 三 輸卒隊ノ不足ハ一時地方人夫ヲ雇入レテ辨ゼラレタシ。此事ニ付テ詳細ヲ聞キタシ。
- 四 雨覆ハ營口ヨリ送ラシム。下敷薪ハ輸送品ヲ使用セラレヨ。
- 五 第四軍兵站經理部へノ糧秣殊ニ干草ハ到着品ト在庫品ヲ以テ渡スコト
- 六 大范河架橋ノ狀況ニ付テ新報ヲ得ル毎ニ電報アレ。

同夜零時四十分、橋元支庫長ヨリ電報。

本日當地ニ卸シタル倉庫品ハ糧秣百四十八、衛材一、建築材十三、被服雜品十五、合セテ百七十七車ナリ。

同日 安東縣派出所黒田主計ヨリ電報正午大連受

長甸河口行米百五十噸積ミノ船本月一日午後四時頃當地ヨリ三十清里ノ上流、アイボセンニテ颶風ノ爲メ轉覆セル旨届ケ出ヅ。詳細ハ取調ノ上報告ス。右直ニ遼東兵站監へ報告セリ。

同日 此度倉庫附トナリシ三等主計横井卯三郎ニ遼陽支庫附ヲ命ジタルニ付、曩ニ一時助勤トシテ遼陽支庫へ派遣シタル辻三等主計ヲ本倉庫へ歸還セシムベク電命セシニ、小野遼陽支庫長ヨリ左ノ返電アリ午後零時五分大連受

横井ハ今着イタ○辻ハ四日立タシム○山内ハ本日後送トナル。病名神經衰弱。同日、金山第四軍兵站經理部長ヨリ電報午後四時十分大連受

割麥四日、漬物六日、エキス四日、砂糖五日分奉天ニテ渡サレタシ○奉天ニテ卸

サレタキ旨去ル二十六日電報請求セシ干草八千貫何時發送セラル、ヤ○奉天兵站倉庫閉鎖セリ。依テ今後奉天ニテ所要ノ糧秣ハ同地兵站司令部ニ渡サレタシ○遼陽支庫ニハ粟稗澤山アルヤニ聞ク。奉天迄汽車輸送ノ上渡サル、コトハ出來ザルヤ。

右ニ付奉天橋元支庫長へ電報午後五時三十分大連發

金山部長ヨリ請求ノ割麥四日、漬物六日、エキス四日、砂糖五日分ト干草八千貫貴地在庫品ト昨今到着品ノ内ヨリ渡シ得ベキ丈ケ渡スベシ○遼陽ニ在ル粟稗ニ付テハ金山及ビ遼陽ノ小野ニ協議シ輸送ノ都合ツカバ交付方取計フベシ○生牛送付停止ノコトハ金子へ電命セリ。

同時ニ金山部長へ返電。

答糧秣交付ノ事ハ奉天支庫長へ電報シ置キタリ。

六月二日 安東縣派出所黒田主計ヨリ電報午後七時三十分大連受

水陸ノ輸送一時中止ニ付鴨軍糧餉部員ハ前進ノ命ニ接シタリ。依テ山口主

計ハ旭(主計)ト井原(主計)ハ新任ノ太澤(主計)ト交代セシム。目下業務上差支ナキモ旭ハ近々鴨綠江ノ偵察ニ出張スルコト、ナルベケレバ、主計ノ増員至急詮議アリタシ。

同日 倉庫員増加ノ件竝ニ滿洲軍倉庫安東縣出張所ヲ支庫ニ改メラレタキ件ニ付兵站監へ左ノ議案ヲ提出セリ。

兵站監ヨリ總司令官へ稟申電案(其二)

滿洲軍倉庫營口及ビ鐵嶺ノ兩支庫ハ業務繁劇ノ爲メ配屬セラレタル人員ノミニテハ不足ナルニ依リ本倉庫及他ノ支庫ヨリ一時繰合セ助力セシメツ、アリシガ本倉庫等ニ於テモ之レガ爲ニ差支少ナカラズ實際長ク繰合セ置キ難キニ付此際主計六(内半數ハ一等主計)計手八、獸醫二、蹄鐵工長四名本倉庫へ至急増加セラレ度稟申ス。

同上(其二)

滿洲軍倉庫安東縣出張所ニハ現ニ黒田一等主計及計手四アルノミ之ニ鴨軍

兵站部及當兵站經理部ヨリ一時人員ヲ加ヘテ實際ノ要務ヲ辨シアリ此際出張所ヲ支庫ニ改メ編制表備考第二ニアル主計及計手ノ人員ヲ置クコトニセラレ現在員ト差引キ不足ノ二三等主計三計手一ヲ配屬セラレ黒田ヲ支庫長ニ任命アル様至急稟申ス。

六月二日 兵站監部會報事項(摘要)

一 撫順ニアル倉庫ヲ讓リ渡サル、時ハ同時ニ輸卒隊ヲモ轉屬セシメラルルナラン。

二 第九師團ハ通江口ノ西方ニ移轉シ、第三軍管區三家子通江口、馬家荒地ニ亘ル線以西ニ移レリ。

六月三日 鐵嶺前田支庫長ヨリ電報午前十時五分大連受十

當地へ直送ヲ要スル建築材料ト特別依託購買品ハ途中ニ散在シテハ却テ遲着ノ恐レアリ。故ニ鐵道開通スル迄營口ノ發送方ヲ中止セシメラレタシ。途中ニ卸スモノハ普通糧秣ニ止メ、其他當地へ直送ヲ要スルモノハ成ルベク

右ノ御取計アリタシ。

右ニ付、金子營口支庫長へ電報午後一時五分大連發

昨日大范河ノ鐵橋破壊シ、鐵嶺行ノ糧秣ハ總テ奉天ニテ卸スコトニナレリ。今後鐵嶺へ直通スル迄ハ建築材料及委託購買品並ニ衛生、獸醫諸材料其他特種品ノ積込ヲ停止シ、汽車積ハ凡テ尋常糧秣ニ限ルコトニスベシ。是レ途中ノ間違及散亂ヲ防グ爲ナリ。

同三日 第四軍兵站經理部長ヨリ「當部ハ明日當地(奉天)出發陸路鐵嶺ニ向ケ前進ス」トノ電報アリ。

同三日 三等主計正今泉源次郎神經衰弱症ニテ大連兵站病院ニ入院セリ。

同三日 營口金子支庫長ヨリ電報。

藤原計手着イタ。明日八家子ニ遣リ、利根川計手ト交代セシム。

右藤原計手ハ昨二日本倉庫ヨリ營口支庫附ニ轉屬セシメタルモノナリ。

同三日 正午撫順支庫設備員トシテ召致シタル一等主計高橋豐太郎奉天ヨリ

到着セリ。依テ左ノ訓示ヲ與フ。

口達訓示 於六月三日

- 一 撫順ニ滿洲軍倉庫支庫ヲ設置セラルベキニ付貴官ハ其設備員トシテ同所ニ至リ兵站ノ官憲及鐵道提理部ノ職員等ト協議シ左ノ件々ヲ處辨スベシ。
- イ 撫順ニ於ケル支庫ノ任務ハ鴨綠江軍ニ對スル一個月分ノ糧秣ヲ同地ニ集積シ又同軍ノ一部ニ對スル日量ノ補給ヲナスニアリ。
- 但、日量補給ニ對スル給養兵額ハ別ニ示ス所ニ依ル衛生、獸醫ノ兩材料及蹄鐵ニ對シテハ同軍ノ約三個月分ヲ標準トシテ準備スルニアリ。
- 糧食以外ノ給養品、被服陣具ノ準備ニ就テハ特ニ示ス所ニヨル。
- ロ 右ニ基キ撫順ニ準備ヲ要スル倉庫ノ數及容積等ハ計算シ得ベシ現在同地兵站部ニ所有スル倉庫及糧秣ハ鴨軍ヨリ我倉庫ヘ引渡サシムベキ旨兵站總監ヨリ我兵站監ニ達セラレ其引渡ノ方法ニ至リテハ貴官ガ撫順ニ着セル後傳命シ得ルコトニナルナラン鴨軍ヨリ讓受ケタル倉庫ノ容積ト

右任務ニ要スル容積トノ差額ハ新ニ同地ニ設立ヲ要スベキ倉庫ノ容積トス。倉庫建設地ハ其地ヘ到着ノ上圖面ニ依テ案ヲ立テ申出ツベシ。

ハ 仙金寨ノ鐵道端末ヨリ撫順ノ倉庫ニ至ル輕鐵ハ其臺車ト共ニ我倉庫ニ讓受クルコトニ達セラル而シテ其輕鐵ハ明日頃ヨリ着手シテ複線ニ改メラル、筈完成ノ時期ハ着手後一週間ノ豫定ナリト。

輕鐵ノ使用ハ專ラ我倉庫品ノ輸送ニアルハ勿論ナレドモ鴨軍ノ爲メニセラルベキ左ノ諸件ハ之ヲ我倉庫ニ擔任スルコト。

追送品、還送品、兵器彈藥、患者及郵便物ノ輸送

二 貴官ハ明日午前ノ内ニ汽車ニテ撫順ニ向ヒ直行スルヲ要ス。

支庫設備員トシテ貴官ニ附屬セシムベキ人員ハ貴官ニ近接シテ出發セシメ得ベシ。

三 現在撫順ニ輸送シアル糧秣ハ平均毎日四個師團分ノ割ナリ。但此平均數ヲ若干超過シツツアリ。

李石寨ニハ第一軍ノ爲メ一個師團ノ糧秣ヲ日々補給シアリ撫順ニ於テ支
庫完成ノ上ハ其ノ管理ヲ撫順ニ屬セシム。

四撫順ニ到着後ハ相談進行ノ狀況ヲ予ニ電報スベシ。

六月三日 遼陽小野支庫長ヘ電報午後九時三十分大連發

其支庫ヨリ計手一庫手一ヲ撫順出張所要員トシ明日朝大連ヲ發シテ同地ニ
行ク高橋一等主計ト同行セシメ得ル様準備スベシ。

六月四日 第十一師團經理部長ヨリ電報午前十時五十分大連受

當師團定員超過ノ爲メ夏衣袴九百八十、夏襦袢袴下千九百八十、垂布一千不足
ス○就テハ貴倉庫在庫品ヲ以テ一時繰合セ前送頼ム○返電待ツ。

右返電五日午後一時大連發

答、夏服ハ貨物廠ヨリドコソコ行幾何ト割リ當テ來リ已ニ夫々送り濟ミニテ、
倉庫ニハ一品モナシ。故ニ其筋ヘ請求セラレタシ。

同四日 遼陽小野支庫長ヨリ電報午後零時十分大連受

醬油製造用器具類在營口上野武兵衛所持スル由適當ノ價格ヲ以テ買入レタ
シ。金子ニ買入並ニ當地ヘ輸送ノコトヲ電命セラレタシ○當地ニ着シアル職
工ハ營口ニテ雇入レタルモノナリ。此儘當地ニテ使用スルコトニシタシ○
醬油醸造技手トシテ永岡榮ヲ日給壹圓貳拾錢庄野武雄ヲ日給壹圓ノ雇トシ
テ雇入レタシ。認可ヲ乞フ。右兩人ハ何レモ營口ニアリテ職業ヲ求メツ、
アリシモノナリ。技能身元ハ確實ナリ。

右ノ件ニ付テハ其後矢野主計本倉庫ニ到着ノ上詳細報告スルトコロアリ。依
テ左ノ如ク返電ス九日午後四時四十分大連發

矢野着イタ○味噌製造ニ要スル道具ト職工ハ同官ヨリノ傳言ノ如クナラバ
差支ナシ。買入レ及備入ルベシ。

六月四日 奉天橋元支庫長ヨリ電報午後五時四十分大連受

新民屯ヨリ今生牛百頭着イタ。第二第四軍ヘ半數ヅ、渡シテヨキヤ。返。

右返電午後七時五十分大連發

第四軍金山兵站經理部長ノ依頼ニテ買入レタル生鹽鯛千貫本日九列ニテ送
ル。金山部長ニ通報シ、交付取計アレ。

新民屯ヨリノ生牛百頭ハ總・經理部ニ申出テ適宜交付シ電報アレ。

然ルニ翌五日橋元支庫長ヨリ電報午後四時二分大連受

新民屯ヨリ着イタ。生牛百頭ハ第二ト第四軍ノ兵站經理部ニ五十頭ヅ、交
付セリ。

次デ又左ノ電報アリ午後七時大連受

第二第四トモ生牛ハ奉天ニ受取ル分ハ今後入用ナシトノコトニ付送ラヌ様
御命令アリタシ。

依テ金子營口支庫長及新民屯米田主計ヘ其旨電報セリ。

翌六日奉天橋元支庫長ヘ電報午前十時五分大連發

生牛ヲ二軍ト四軍ヘ渡シタハ總・經理部ノ要求ナルヤ○鹽鯛ハドクナリシ
ヤ。

右ニ對シ左ノ返電アリ午前十一時十分大連受

管生牛ハ兵站經理部ニ協議ノ上渡シタリ○牛疫發生ノ恐レアリ。早ク始末
ヲ要シタル故○鹽鯛ハ今着イタ。第四軍兵站ニ渡ス○第四軍兵站經理部モ
陸路鐵嶺ニ前進セリ。

依テ又生牛ノ分配ハ總・經理部ノ意見ヲ聞キテ渡ス様電命セシナリ。兵站經理
部デハナイト電報セシニ生牛ハ其・經理部ニ申出テ適宜交付シ電報アレトノ御
指圖ニ付兵站經理部ニ協議シテ渡シタル次第委細書面トノ返電アリ。

後書面ニテ右電文中ノ總・ト其トノ間違ナリシ旨申來レリ。
倉庫長ハ如何ナル繁劇中ト雖電信ヲ發スルニハ大抵自ラ之ヲ認メ、又時トシテ
部下ノモノニ筆記セシムルコトアルモ、必ス自ラ之ヲ點檢スル如クセリ。又來
信ヲ譯スルニ就テモ電信紙ニハ極メテ迅速ニ筆記セラレアルヲ以テ卒讀ノ際
事ノ大體ヲ呑込ミ居ラザレバ時トシテ重大ナル過誤ニ陥ルコトナシトセズ。
此等ノ事ハ常ニ倉庫員一般ニ注意シタルゴトナレドモ、尙ホ今後一層深ク注意

ヲ加ヘ万一ノ過誤ナキヲ期スベキ旨訓未セリ。

六月四日 是ヨリ先キ安東縣滿洲軍倉庫出張所ニ於ケル人夫雇入ノ件ニ付、同所長黒田一等主計ヨリ報告アリ。同伴ニ就テハ遼東兵站經理部長ニモ委細ノ事情ヲ申出デ置キタルガ本日又報告アリ。依テ左ノ如ク電報セリ十午後十時四分大連發

度々ノ電報ト又綿密ナル報告ニヨリ本職ニ於テ貴官ノ處置ニ付満足セリ。

今其出張所ヲ支庫ニ改ムルコト、並ニ貴官ヲ支庫長ニ上申シ置ケリ。此後

一層盡力アラシムコトヲ希望ス。

右ニ對シ翌五日左ノ返電アリ十午前九時五分大連受

答、不肖賞詞ニ當リ難キモ旭主計(遼東兵站經理部派出員)ノ熱心且ツ有力ナル補助ニヨリ今日ニ至レリ。尙、整理スベキモノ多シ。貴命ノ如ク努力スベシ。旭ノ進級當所ヘノ專屬ハ特ニ御配慮ヲ願フ。

同日 關外鐵道使用ニ關スル特別支拂ノ件ニ付左ノ通り申請セリ。

滿倉發第六一一號

明治三十八年六月四日

滿洲軍倉庫長

日

匹

信

亮

遼東守備軍司令官臨時事務取扱男爵兒玉源太郎殿

豫テ御訓示ニ基キ關外鐵道使用ノ關係ヨリ職員ニ變裝セシメタル被服品代及同鐵道職員ニ特別贈與ニ要セシ金額總計別紙ノ通ニ候間支出御認可相成度及申請候也

但本條ニ依リ買入レタル被服類ハ特別ノ出納簿ヲ製シ嚴重ニ取扱ハセ居候又贈與金額ニ對シテモ詳細ナル區別ト説明ヲ爲致置候ニ付爲念申添候追テ本件ニ關シテ今後必要ノ經費ハ通常前以テ可伺出ハ勿論ニ候得共緊急ノ場合ニ於テハ下官ニ於テ便宜支出取計ヒタル後報告スルコトニ豫メ御認可相成度申添候也

(別紙)

一金五千貳百貳拾五圓拾錢

內譯

金九百拾六圓九拾錢

變裝服代

金四千參百八圓貳拾錢

贈與金

右ニ對シ左ノ如ク認可セラレ

遼守監副第二六一號

滿倉發第六一一號關外鐵道使用ニ關スル費用支出ノ件

認可

明治三十八年六月九日

遼東守備軍司令官臨時事務取扱 男爵 兒玉源太郎

六月五日 金子營口支庫長へ電報午前一時大連發

新民、高力間ノ輕便鐵道ヲ倉庫ニテ確實ニスル必要アル故其地ヨリ更ニ半隊ノ輸卒ヲ増加シタキ意見綜合セ付カザルカ○新民屯、高力屯ニ主計一計手ニヲ増加シタジ。其支庫ヨリ佐野ヲ綜合セ出シ得ザルヤ。意見聞キタシ○總經理部ヨリ申來レル次第アリ。毎月生牛一萬頭ヅ、買收シ奉天以北ニ送ラ

ントス。之ニ對スル意見聞キタシ。此ノ件ハ極秘密ニナスベシ。

右返電午前十時五分大連受

生牛ハ多數ノ事故調査ノ上ナラデハ確答シカネマス○ヨシ調辨シ得ルトスルモ長ノ道中故缺損多キヲ恐ル○調辨スルトセバ山東省ヨリ引カネバナラヌ故極淡キ鹽漬トシテ輸入セシムレバ廉價ニシテ輸送モ便利ナリ。此レナラバ行ハレ易カラシ。

次デ又左ノ電報アリ午前十時四十分五分大連受

輸卒隊ハ目下分遣シアル二個小隊ヲ此地ニ返ヘシ四個小隊編成ノ一隊ヲ高力屯ニ派遣シタシ○第三師團ヨリ來ルベキモノハ未ダ來マセヌカ。着イタラ一隊増加ヲ乞フ。

同五日 鐵嶺前田支庫長ヨリ電報午後一時大連受

薪ハ途中ノ荷卸シ驛ニテ必要ナケレバ送ルコト一時中止シ、當地ニ鐵道開通後下敷用トシテ送ラレタシ○衛生材料、獸醫材料モ途中驛ニテ必要ナラバ兎

モ角然ラザルモノハ開通後送付セラル、ヲ便利ナリト思考ス。

六月五日 在法庫門吉田第三軍經理部長ヨリ電報午後三時五分大連受

着用替ノ冬服及携帶獻納毛布等夏期ニ必要ナキモノハ其大部分ヲ鐵嶺支庫

ニ保管依托シタシ。差支ナキヤ。返待ツ。

右返電六日午前九時大連發

答、冬服以下依托保管ノ件承知ス。

同時ニ鐵嶺前田支庫長へ電報。

冬服携帶獻納毛布等鐵嶺支庫ニ保管依托シタキ旨吉田部長ヨリ照會アリ。

承知ノ旨答へ置ケリ。

同五日 近衛師團經理部長ヨリ電報午後八時三十分大連受

着裝替冬衣袴ニシテ再用ニ適スルモノヲ當師團ハ貴庫へ保管依托シタキニ

ヨリ、何レノ倉庫へ宛テ送付シ然ルベキヤ、折返シ何分ノ御指示相成度。

右返電午後九時大連發

答、冬衣袴ハ鐵嶺支庫へ送ラレタシ。

同五日 金山第四軍兵站經理部長ヨリ電報午後十一時五分大連受

精米師團ノ四日分、割麥二日分、漬物三日分、エキス四日分、砂糖五日分、茶七日分、

大麥七日分ヲ奉天兵站司令部へ渡サレタシ。

加給品ノ酒百八十石、煙草三百六十萬本鐵嶺ニテ渡サレタシ。

右返電六日午前十時五十分大連發

精米以下奉天兵站司令部へ交付ノ件同地支庫長へ命ジ置ケリ○鐵嶺ニテ御

入用ノ加給品ノ事ハ前田支庫長ト相談セラレタシ。

同時ニ奉天橋元支庫長へ電報。

精米師團四日、割麥二日、漬物三日、エキス四日、砂糖五日、茶七日、大麥七日分、第四

軍渡トシテ奉天兵站司令部へ現品ヲ交付スベシ。

同五日 井口兵站監午後二時半ヨリ上田參謀厚東副官ヲ隨へ倉庫本部並ニ滿

倉停車場等ヲ巡視セラル。

六月五日 遼東兵站經理部ヨリ左ノ通報アリ。

電報 六月五日午後六時四十分陸軍省發
九時二十六分大連着

部長宛

野戰經理長官ヨリ

滿倉糧秣現在高旬報ハ爾今揚陸地(大連、柳樹屯、營口、安東縣)ノ外ハ當部ヘ電報ヲ要セズ其旨指示アレ。

右ニ付奉天、遼陽、鐵嶺各支庫長及新民、高力屯ノ各出張所長ヘ其旨電報セリ。

同五日、一等主計岡本興明着任ス。依テ遼陽支庫附ヲ命ジ、即日出發セシメタリ。

六月六日 安東縣出張所黒田主計ヨリ電報 午後一時二十
五分大連受

昨日永陵濱名部長ヨリ左ノ通り依頼アリ○當地方物資ナシ。鹽魚類、鷄、玉子等外察マデ水路輸送アリタシ。代金ハ外察派出員ニテ仕拂フ○之ニ對シ承諾ノ旨返電ス○目下當地方魚類少ナカラズ。漁業者ハ朝鮮及龍巖浦近海ニアリ。日本人ノ漁業組合等ニテ代金一貫匁壹圓半ヨリ參圓位鷄多カラズ。一貫匁貳圓内外。

同六日 第三軍兵站經理部長ヨリ電報 午後二時三十
五分大連受

豫テ御協議濟ノ不用被服ハ鐵嶺及奉天兩支庫ニ預ケル事ニシタシ。内、野戰隊ノ全部及兵站ノ一部ハ鐵嶺ニ兵站ノ殘部ハ奉天ニテ保管サレタシ。但先ニ御通知シタル被服ヲ三等ニ區分シ、二三等ヲ還送スルコトハ總經理部長ノ指示ニヨリ。取り止メ、三等ノミ還送スルコト、ナレリ。御承知アリタシ。右不用被服保管依托ノ件ハ同十日承諾ノ旨返電シ、且ツ鐵嶺支庫長ヘモ其旨通報セリ。

同六日 木村第二軍兵站經理部長ヨリ電報 午後九時三
十分大連受

總司令部ノ意圖ニヨリ當軍ニテハ約一個月分ノ糧秣ヲ兵站倉庫ニ蓄積スルコトニ定メラル。然ルニ現在糧秣ニテハ約六十個師團分不足ニ付日々三個師團分ヅ、二十日間開原ニテ受領シタシ(目下受ケツ、アル鐵嶺三個師團古城子二個師團南老邊一個師團ノ外ナリ)計畫ノ都合アリ。至急返電アリタシ。

右返電 午後十一時
十分大連發

答、日糧以外六十日分ヲ貴軍へ交付スルコトハ倉庫ノ任務上差支アリ。併シ
貴兵站監ヨリ總兵站監へ上申セラルレバ別ノ詮議ニナルカモ知レヌ。

六月六日 遼東兵站監部ヨリ左ノ通報アリ。

電報 六月六日午後五時三十分奉天發
同午後十七分大連着

井口兵站監宛

奉天總兵站監ヨリ

撫順ニ滿洲軍倉庫支庫設置ニ就テハ同地ニ在ル倉庫及集積糧秣ハ鴨軍ヨリ
同支庫ニ引渡サシム其方法等ハ直接鴨軍ト協議サル可シ。

同六日 鐵嶺前田支庫長ヨリ電報午後十時大連受

跡ノ八千坪ノ計畫案ハ御承認ナリタルヤ。又石井部長トノ交渉ハ何レマデ
進ミ居ルヤ。當地ニハ同部ノ材木皆無ニシテ「プラット」ノ留メ板ニモ差支居
レリ。材料ノ送付ト前田工學士派遣ノコト至急御取計ヒヲ乞フ。返。

右返電七日午後二時
五十分大連發

答、六千坪ノ計畫ハ大體ニ於テ承知セリ。○安東縣ニアル石井部長ヨリノ返電

左ノ如シ○鐵嶺ノ倉庫建設ハ成ルベク貴官ノ希望通り執行ノ筈ナリ。又佐
澤班長へハ建設ニ付テハ協議スル様電命セリ。

○予ノ希望トハ柱ハ長サ二十四尺モノヲ用ヒ軒ノ高サ約二十尺ト爲スニ在
リ別紙第二期鐵嶺倉庫建築設計圖參照○熟練ノ建築家岡田技師大連ニ着シ
今相談中。同人ハ受取人ノ側ニ立テテ鐵嶺ノコトヲ擔任セシムル筈。汽車
開通次第貴地ニヤル○總兵站監ヨリ兵站監へ指示セラレタル主旨ニ依ラバ
八千坪ノ内幾分ハ小塔子ニ建築スル必要アリ。調査ノ上意見申來レ。
右八千坪ハ後チ戰地陸軍建築部ニテ左ノ如ク實施セラレタリ

プラットホーム

千五百坪

四連棟倉庫四棟

五千三百七十六坪

但 一棟ハ長二十八間幅八間軒下高二十尺ヨリ成ル四連棟ニシテ
屋根及周圍共亞鉛鐵板ヲ用フ

馬峰溝倉庫

千坪

右殘除ノ坪數ハ小塔子ニ建築ノ計畫ナリシモ戰局ノ變化ニヨリ中止セリ
六月六日水産講習所卒業者雇員岩崎熊太到着ス。依テ翌七日倉庫員ヲ集メ罐詰類及鹽乾魚ノ件ニ付同雇員ヲシテ講話ヲナサシメタリ。

六月七日 小野遼陽支庫長ヨリ電報午前九時三十分大連受

本日三百十一列車ヨリ鐵嶺マデ汽車開通トノコト。

同七日 奉天橋元支庫長へ電報午前十時十分大連發

大連發昨十五列ヨリ鐵嶺ニ開通スル筈。

同七日 第十一師團經理部長ヨリ電報午前十時十分大連受

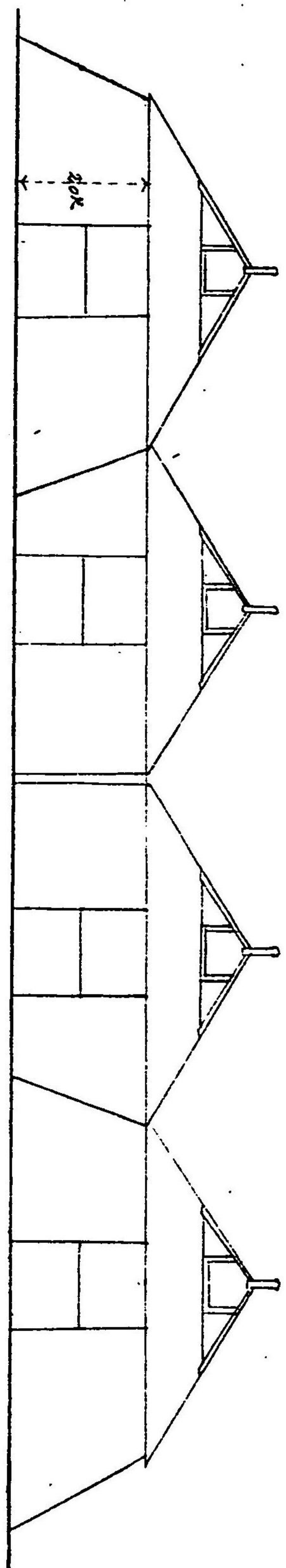
當師團補充兵夏服類携行セザル爲メ夏衣袴防蚊覆面垂布各千五百七十五、襦袢袴下三千百五十不足ス。右貴庫ヨリ補給ヲ受ケタシ。御都合如何。返待ツ。

右返電八日午後三時三十分大連發

答、追送夏服類ハ各師團分ケニ現物ニ札ヲ付ケテ送り來リシモノ故倉庫ニハ

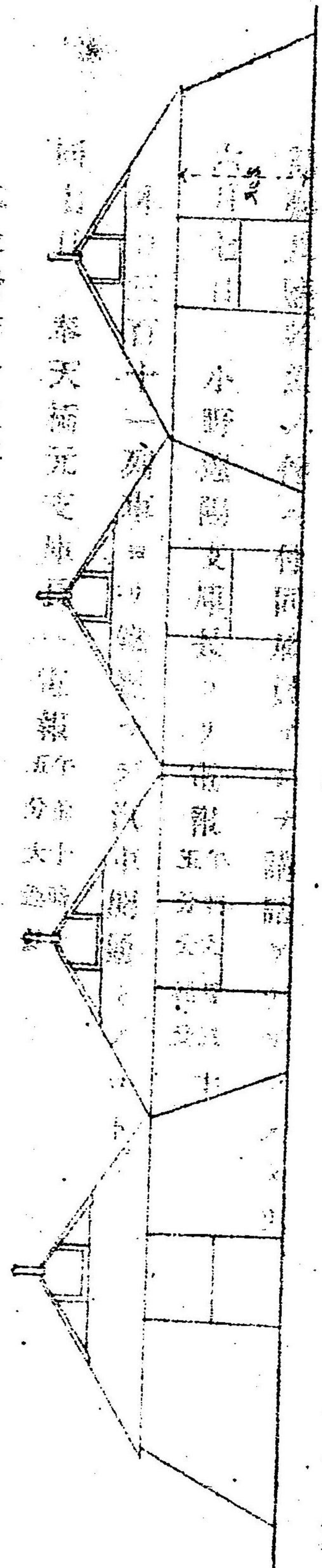
(一) 圖計設築庫倉嶺鐵期二第

日一月六年八十三



圖面正
1
800

前編修ノ打敷ハ小汚子ニシテ、計畫ナク、戦時ノ變化ニヨリ中止セリ
 六月六日水産講習所卒業生修業證書授与式、夜八時七日倉庫員ヲ集メテ



大正發時十五時ヨリ鐵道ニ開通スル迄

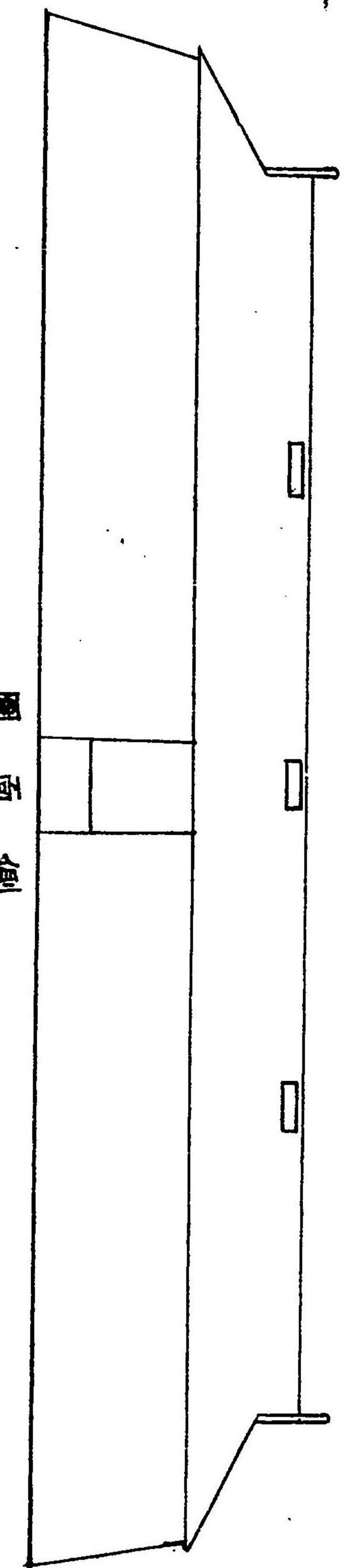
同七日 第十一師團經理部員ヨリ電報十分大正發時

當師團補充兵夏服類携行セザルハ爲メ夏衣袴防敵襲而配布各ノ直前上ノ大正發時
 其時至三千百五十不足ス

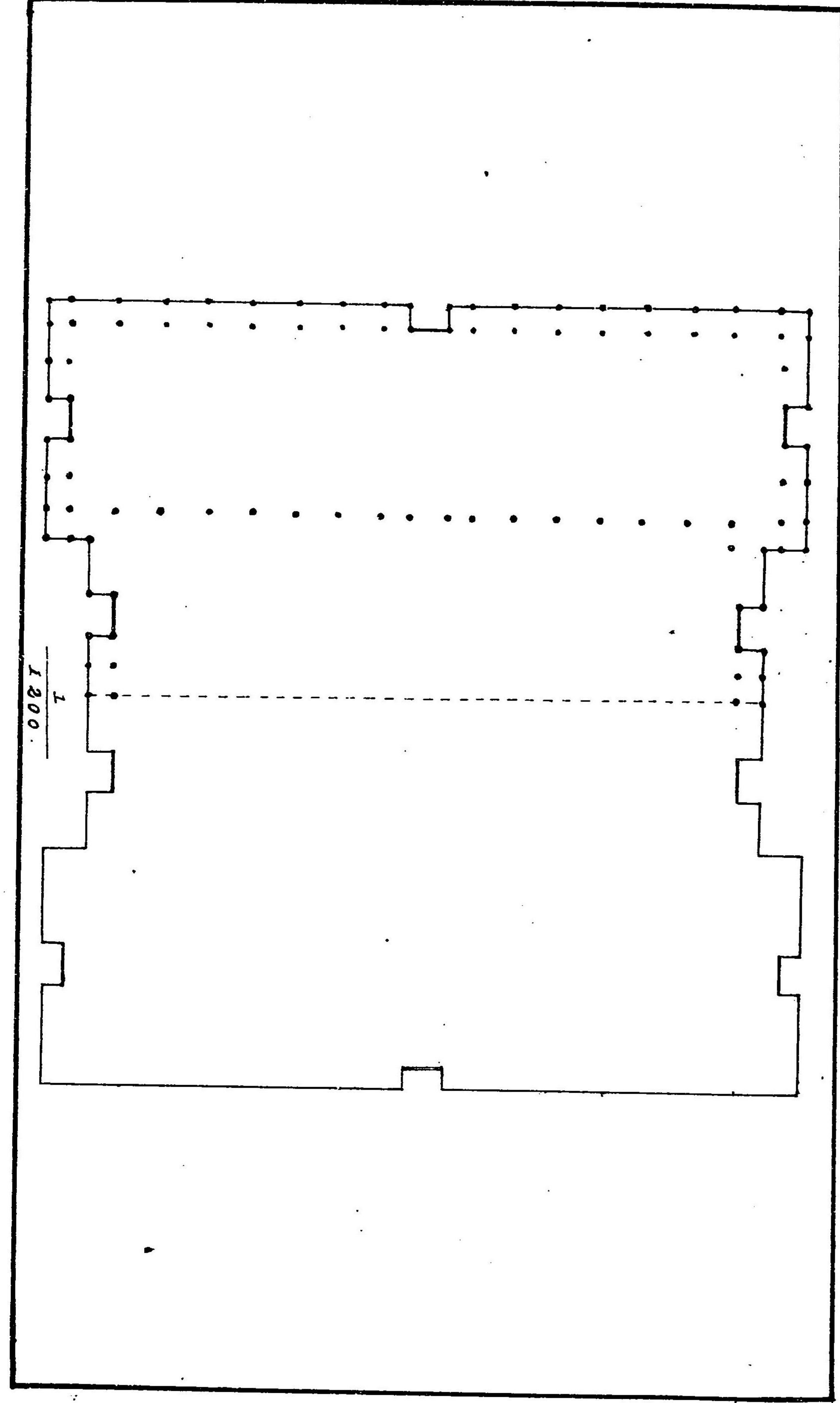
右邊電三十分大正發時

春運送夏服類ハ各師團分クニ現物ニ付テ送リ奉リ、此ノ如ク、

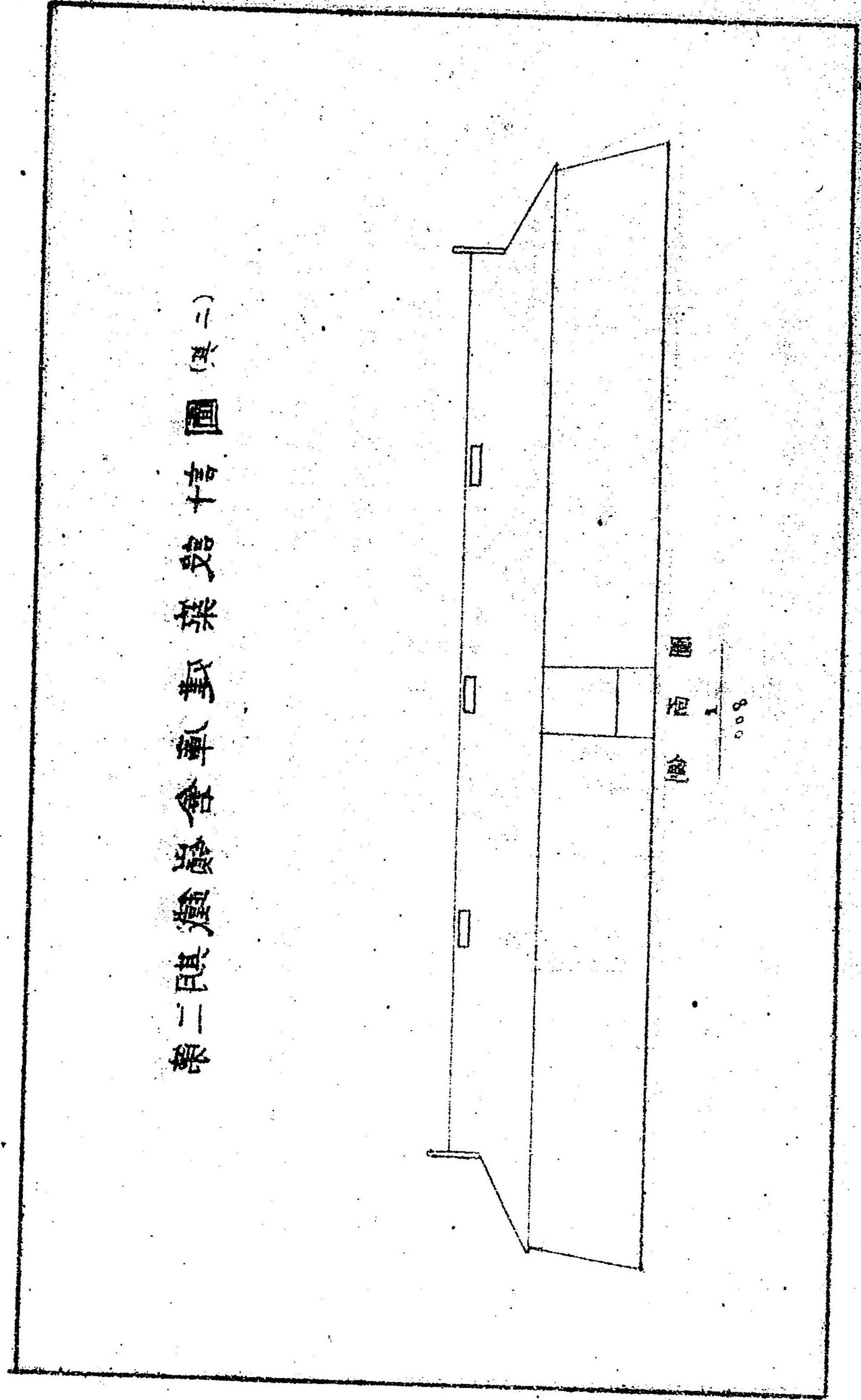
(二期)圖計設築建庫倉嶺鐵期二第



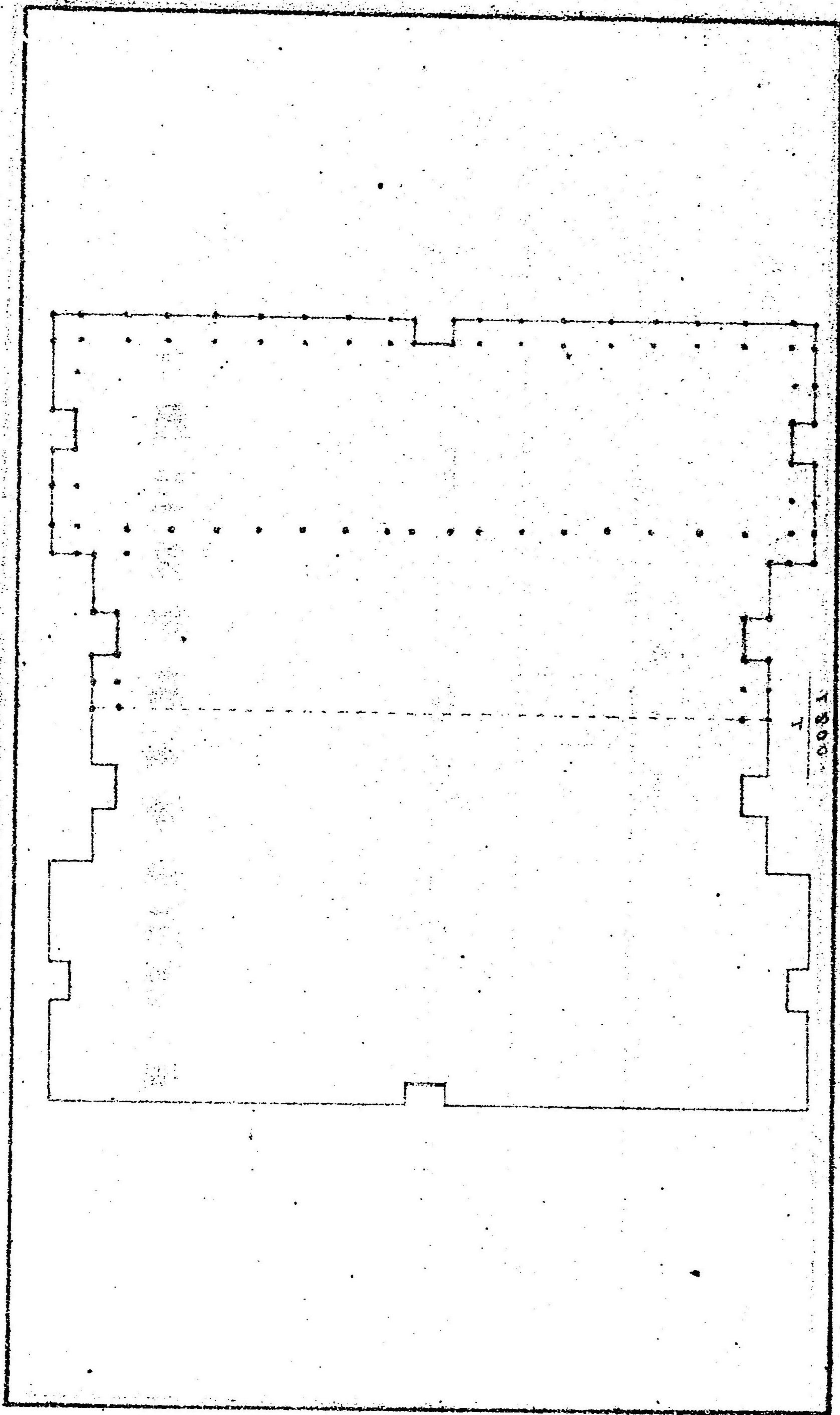
圖面側
 1
 800



(三) 第二期鐵嶺倉庫建築設計圖



(二) 第二期車站對面倉庫建築設計圖



鐵嶺前田支庫長ヨリ電報連正午大

一 柵モナシ。餘リアル所アルカモ知レヌガ、倉庫ニテハ繰合セノ仕方ガナイ。

同七日 鐵嶺前田支庫長ヨリ電報連正午大

明八日十五列ヨリ當地へ全通ノ筈。漬物砂糖、加給品、牛罐、携帯罐共品少ナシ。送ラレタシ。

同七日 金子營口支庫長ヨリ電報午後零時五分大連受

新民屯ハ苦力ノ集リ方悪シキ模様ニテ品物ノ停滯ヲ恐レ、勢イ高キ賃錢ニテ苦力ヲ募集セントス。之レガ請負者ハ當地ニテ幾分ノ募集ヲ圖ル爲メ目下當支庫ノ苦力ヲ減ズル傾キヲ呈セリ。之ガ救濟策トシテ過日御下問ニ答ヘタル如ク輸卒隊ヲ早ク派遣シタシ。

同七日 金子營口支庫長ヨリ電報午後一時大連受

遼陽支庫長ヨリ味噌箱用板材一千坪購買依託アリ。兼テ伺ヒ置キタル分(山本唯三郎ノ所持セル一枚參拾八錢五厘ノ板四万枚ノコト)ヲ購買シ然ルベキヤ。伺フ。

右ニ對シ左ノ如ク返電セリ午後二時五分大連發

答、味噌箱用板材購買差支ナシ。

六月七日 奉天橋元支庫長へ電報午後二時五分大連發

汽車鐵嶺へ開通ノ上ハ柳本主計ニ左ノ通り傳達シ成丈ケ早ク大連ニ送レ〇

柳本主計ノ奉天支庫附ヲ免ジ本倉庫附ヲ命ズ。

同七日 法庫門第三軍兵站經理部長ヨリ電報午後五時二分大連受

昨六日調ニテ當兵站管内ニ在ル精米二百六十日、副食物百二十二日ニ對シ、調味品九十二日分ナリ。肩ヲ揃ヘル様關外ニテ前送頼ム。

右返電

答、副食物ハ主食物ノ約三分之一ノ積リナル故送ル必要ナシト思フ。調味品丈ヲ精米ト肩ヲ揃ヘル様ニシテハ如何。返。

右ニ對シ、翌八日左ノ電報アリ。

答、御意見ノ通り調味品丈ニテ差支ナシ。其割リニテ御協議セシ積リナリ。

同七日 奉天橋元支庫長ヨリ電報午後六時二十五分大連受

生牛百十七令着イタ。直グ總經理部ニ其事ヲ申出デ置キタリ〇鹽鯛ハ金山部長マダ入用トノコトニ付着イタラ直グ渡ス積リ。

同七日 遼東兵站監ヨリ左ノ命令ヲ受領ス。

遼兵監參第六一號第三

命令

第十師團第十九補助輸卒隊ハ自今大連兵站司令官ノ指揮ヲ脱シ貴官ノ指揮ニ屬セシム。

三十八年六月七日

遼東兵站監 井口省吾

滿洲軍倉庫長 日匹信亮殿

同七日 遼東兵站監ヨリ左ノ通報アリ。

其一 電報六月四日午後十一時三十分奉天發

井口兵站監宛

總兵站監ヨリ

全軍(鴨軍ヲ除ク)ノ爲メ鐵嶺及小塔子ニ合計一ヶ月分鴨軍ノ爲メ撫順ニ約一
個月分全軍ノ爲メ遼陽ニ約半月分糧秣諸品ヲ成ル可ク七月下旬迄ニ集積
スベシ○右ニ付倉庫ノ増築ヲ要スルモノアレバ速ニ之ヲ請求スベシ。

其二 電報同 六月五日午後七時二十五分奉天發

井口少將宛

落合少將ヨリ

仙金寨撫順間ノ輕鐵輸送行程ヲ増加スルタメ複線トナスコトニ決セラレ來
ル八日頃ヨリ着手シ一週間ニテ敷設ヲ終ル筈。

六月七日 遼東兵站經理部長ヨリ左ノ通牒アリ。

電報同 五日午前六時三十分安東縣發
午後一時 大連着

經理部長宛

黑田(安東縣滿倉派出所長)ヨリ

昨日ノ電見タ。直グ司令部ト協議シ、業務ノ差支ヘザル様供給ヲ受クルコト
、シ、從來ノ通り今日ヨリ司令部ニ請求ス(四日記事苦力備入ノ件參照)

同七日 倉庫長ハ大連倉庫本部内ニアル當番助手等勤務ノ輸卒ヲ集メ、茶果ヲ

與ヘテ平生ノ勤勞ヲ慰メ、尙將來一層奮勵スベキ様左ノ如ク訓示セリ。

訓示ノ要旨

- 一 我倉庫業務ノ大部分ハ全ク輸卒ノ力ニ依テナサレツ、アリ。
- 二 輸卒ノ勤勞ハ戰線ニ立チテ奮闘スルモノト毫モ輕重ナシ。
- 三 故ニ輸卒タルモノ自ラ重ンジ國家人道ノ爲ニ十分貢獻センコトヲ期セ
ザルベガラズ。

六月八日 奉天橋元支庫長ヨリ電報 午前十一時二
十分十五分大連發

昨日着シタル生牛百十七頭ハ總經理部ノ命ニヨリ全部第二軍兵站經理部ニ
渡スコトニナレリ○今後尙引續キ來ル計畫ナリヤ。總經理部ニテモ其概數
知リタキ旨申來レリ。豫メ御示シアリタシ。

同八日 午後三時二十五分、又左ノ電報アリ。

生牛九十三頭今着イタ。直グ總經理部ニ申出デ置ケリ。

同八日 片山總經理部長ヨリ電報 午後七時十
三分奉天發

當地支庫へ新民屯方面ヨリ生牛昨日百十九頭本日九十三頭到着セシ由。右ハ何レニ交付スルモ差岡ナキモノナルヤ。且ツ今後約幾頭來ル見込ナルヤ。

右ニ付金子營口支庫長新民屯米田主計へ電報午後十二時大連發

生牛今後其地ニテ毎日調辨シ得ベキ見込數大略至急電報アレ○直段モ。

翌九日 橋元支庫長ヨリ電報午後四時五十分大連受

昨日着イタ生牛分配方命令ナキ故支庫ニ繋蓄シ置キタルニ九十三頭ノ内一頭炭疽熱ニ罹リ斃レタルニ付キ直グ燒捨テニ取掛リ、此ノ外二頭牛疫ニ罹リ、獸醫ノ意見ニテ直グ撲殺シ、殘リノ分ハ他ニ移シテ繋蓄ス○以上總經理部へ報告濟ミ。

六月八日 近衛師團經理部長ヨリ電報午後七時二十分大連受

着裝替ノ爲メ一時不用トナリタル外被ヲ洗濯ノ上鐵嶺倉庫へ保管依託致シタシ。承諾ヲ乞フ。追テ本件ハ差掛リ居ルニヨリ折返シ何分ノ返待ツ。

右返電午後十二時大連發

不用外被鐵嶺へ保管ノ件承知ス。

同八日 鐵嶺前田支庫長ヨリ電報午後十一時五分大連受

大倉庫土臺用材木二百五十本末口六寸乃至八寸長サ二間モ至急送付アリタシ。建前ニ差問へ居ル○前田工學士ハ當分當地ニ派遣セラレザル都合ナルヤ。

右返電同夜零時四十分大連發

答、土臺用材木ハ奉天ニアルモノヲ使用スルコトニ先日電報セリ。輸送ハ鐵嶺行糧秣ノ一部ヲ奉天ニ卸シ其代リニ右ノ材木ヲ積ムコトニスベシ○前田工學士ハ明晩頃出發セシムル筈。

同八日 遼陽兵站監部ヨリ左ノ通牒アリ。

電報 六月七日午後十時四十五分永陵發

井口兵站監宛

古谷兵站監ヨリ

撫順倉庫及在庫糧秣ハ貴官ニ引渡スコト、ナレリ何日引渡スベキヤ又滿洲支庫ハ何日頃設置セララル、ヤ返。

之レニ返電案起草アリタシトノ附箋アリ。

右ニ付同夜零時五十分遼陽支庫長小野主計正へ電報。

貴官ハ撫順ニ於ケル倉庫ト糧秣仙金樂撫順間ノ輕便レール(臺車共)並ニ輸卒
隊一隊ヲ鴨軍兵站ヨリ受領シ續イテ該地ニテ倉庫業務開始ノ爲メ至急撫順
ニ至ルベシ○高橋ニハ貴官ノ指揮ヲ受クベキ旨電報シ置ケリ○高橋ニ與ヘ
タル訓令ハ貴官之ニ遵フベシ○撫順ニ於ケル倉庫業務ノ順序著ク迄貴官ハ
同地ニ止マルヲ要ス○此ノ汽車ニテ立ッベシ。
同時ニ撫順高橋主計へ電報。

小野主計正ニ其地へ出張ヲ命ジタリ。貴官ハ其ノ指揮ニヨリ業務ニ服スベ
シ。

而シテ翌九日左ノ返電案ヲ送付ス。

遼東兵站監ヨリ古谷兵站監へ返電案。

答撫順ノ引繼ノ爲メ滿洲軍倉庫長ヲシテ三等主計正小野運八以下ヲ同地ニ

派遣セシメアル故總テ同主計正へ引繼ガレタシ○引繼ギ終リ次第業務ヲ開
始セシム。

是ヨリ先キ撫順ニ向ヒ出發セシ高橋主計ヨリ電報九日午前八時四十分撫順發

昨夜十二時仙金樂ニ着キソレヨリ古城子出張所ニ至リ今七時當地兵站司令
部ニ着ク。通信ハ當分兵站司令部宛ニ。

次デ又左ノ電報アリ九日午後二時大連受

宿舍ト事務室ハ南門外元兵站司令部全部ヲ受クルコトニ今協議濟。十一日
移轉ノ豫定其迄ハ兵站司令部一號宿舍ヲ事務室ト宿舍ニ充ツ。

六月八日 遼陽支庫長へ電報午後七時五分大連發

第二輸卒隊長ニ左ノ命ヲ傳ヘヨ○其隊ハ高力屯奉天ノ西十三里出張所ニ轉
屬ヲ命ズ。其業務ニ就テハ出張所長藤田一等主計ノ指示ヲ受クベシ○同隊
ハ奉天マデ汽車奉天ヨリ高力屯マデ陸路行軍トス○汽車輸送ニ付テハ至急
岡野少佐ト協議シ報告セヨ。

同時ニ金子營口支庫長へ電報。

遼陽ニアル第八師團第二隊ニ高力屯へ轉屬ヲ命ゼリ。出發セバ通報ス。○現在高力屯ニアル輸卒二小隊ハ引續キ同所ニ在ルヲ要ス。

同時ニ高力屯村岡主計へ電報。

遼陽ニアル第八師團第二補助輸卒隊ニ其出張所附ヲ命ジ一兩日中ニ奉天マデ汽車、夫レリ陸行ノ筈。宿舍ノ準備アレ。返。

右ニ對シ、村岡主計ヨリ返電午前九時高力屯發

増員ノ輸卒隊ハ何名ナルヤ。○二、三個小隊ナラバ諸給與宿舍ノ關係上目下分遣ノ本隊ヲ派遣セシメラレタシ。○宿舍ハ目下不足ス(部落少ナキ爲メ)依テ、バラツク兵舎ノ建築御詮議ヲ乞フ。

然ルニ其後高力屯兵站司令部附タリシ輸卒隊五隊ノ内一隊ヲ我倉庫ニテ使用スルコト、ナリシヲ以テ遼陽支庫長へ其旨電報シ、第二隊ノ出發ヲ見合サシメタリ。

右ニ付、尙ホ高力屯村岡主計へ左ノ如ク電報セリ十日午前一時大連發

答、第八師團ノ第二隊増員ノ事止メトシタ。○高力屯兵站司令部附タリシ輸卒隊五隊ノ内一隊(新民間ヲ輸送シアルモノナラン)ヲ我倉庫ニテ使用スルコトナル。○此隊ハ業務ニ付テ藤田主計ノ指揮ヲ受クルコト、ナル故ニ貴官ハ藤田ノ名義ニテ輸卒隊ヲ指揮スベシ。

同時ニ金子營口支庫長へ電報。

高力屯ニハ元司令部附ナリシ第三軍ノ輸卒一隊(多分高力屯、新民間ノ輕鐵ニ從事シ居ルモノ)我倉庫ノ使用ニ供セラル、コト、ナリシ故遼陽ヨリ送ルコトヲ止メタリ。○第九ノ半隊ハ當分其儘。

六月八日 總經理部長ヨリ左ノ通牒アリ。

總經理發第二〇號六月六日付

滿洲軍總經理部長 片 山 中 行

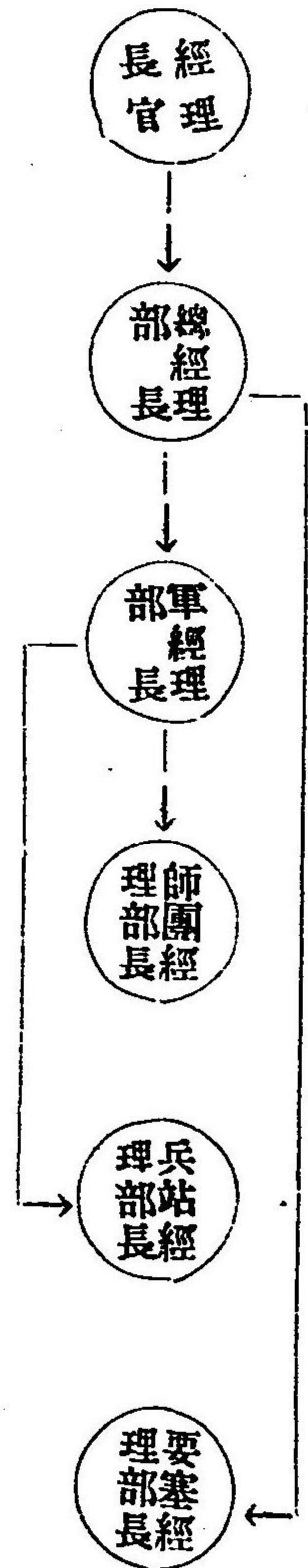
滿洲軍倉庫長 日 匹 信 亮 殿

通牒

當部ト軍師團兵站及要塞等經理部並ニ滿洲軍倉庫トノ經理上諸般ノ關係ニ就テハ追テ詳細規定可相成等ナルモ差當リ別紙經理系統表ニ依リ處理スルコトニ其筋ト協定濟ニ付右承知有之度。

經理系統

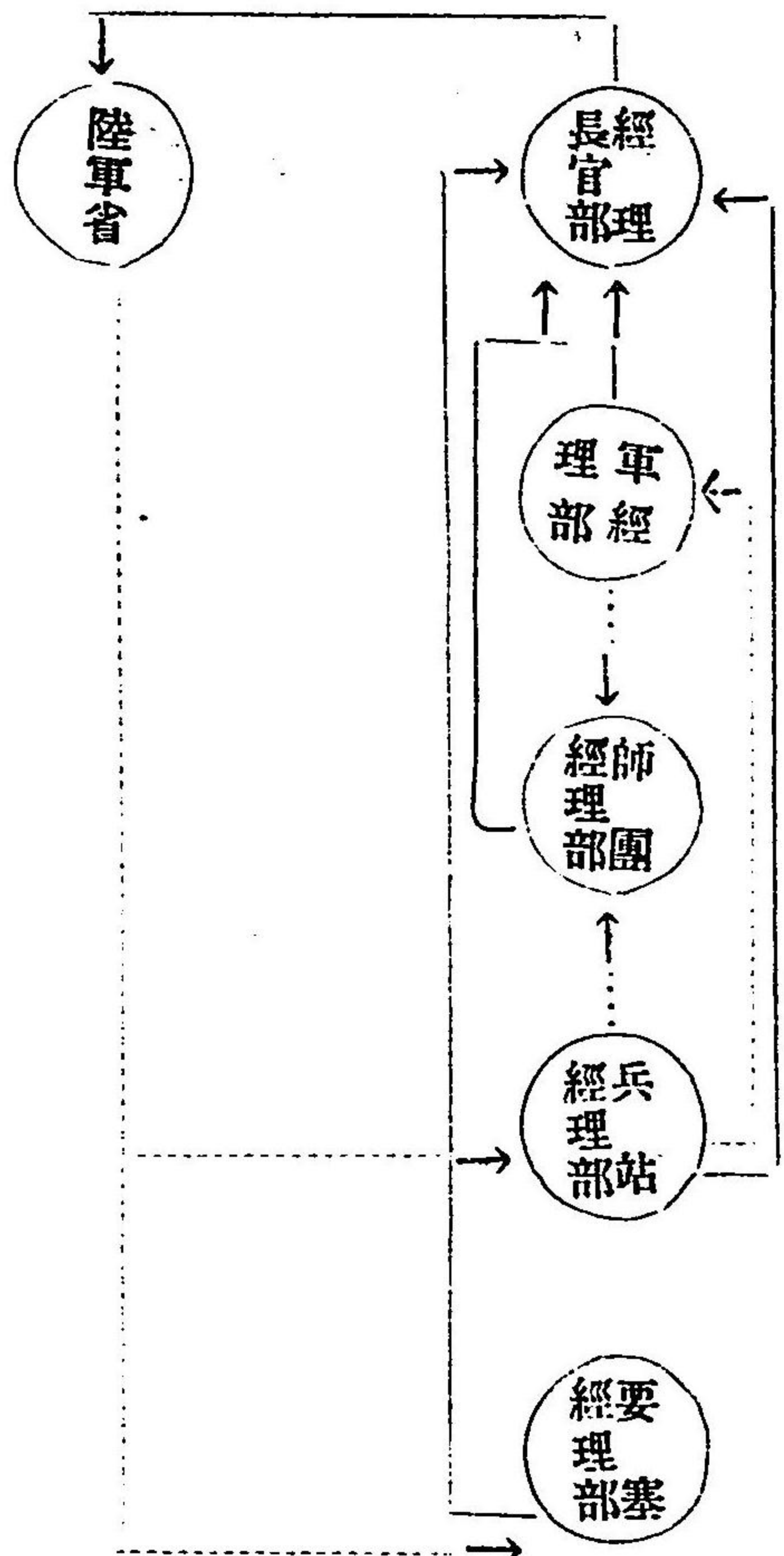
一般系統



右圖ノ如ク達通牒等ハ經理長官部ヨリ總經理部ニ發シ總經理部ハ之レヲ各軍ニ傳達スルヲ順序トス故ニ通牒照會等ニシテ經理長官部ヨリ軍若クハ兵站へ直接發送スルモノアリタルトキハ總經理部ノ分へハ必ス軍若シクハ兵

站へ直接發送濟ノコトヲ附記スルコト諸報告等經理長官部へ提出スルモノハ此順序ノ反對トス。

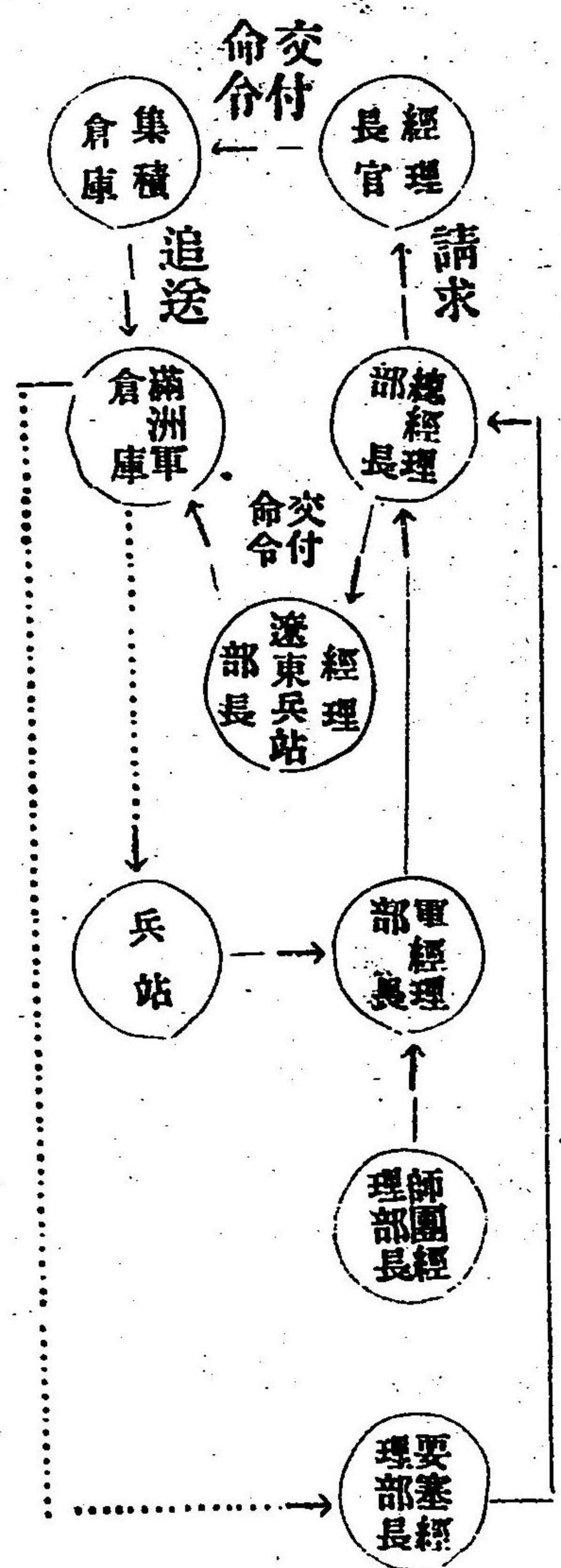
軍資金請求系統



兵站ニテ軍師團ノ分取纏メ請求スルハ妨ナシ。

右圖ノ如ク軍資金ノ請求及決算證明事務ハ總經理部ニハ關係ナシ。

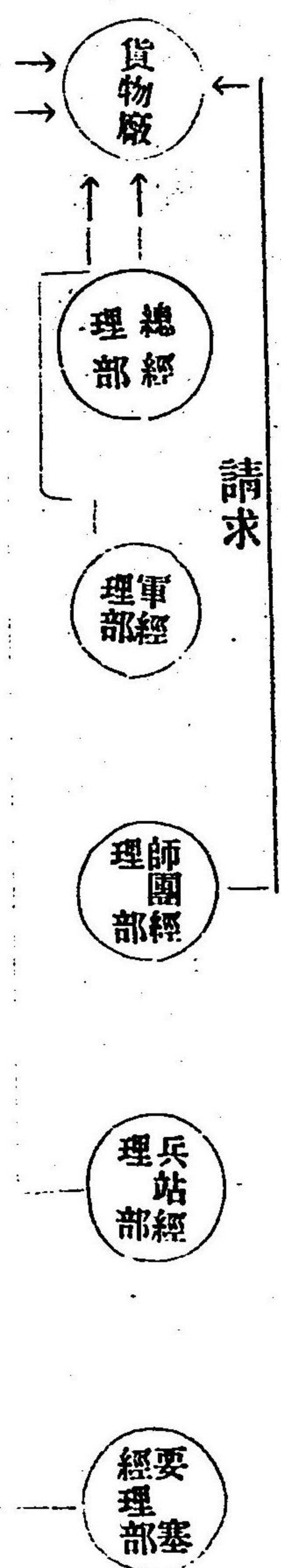
糧秣追送系統



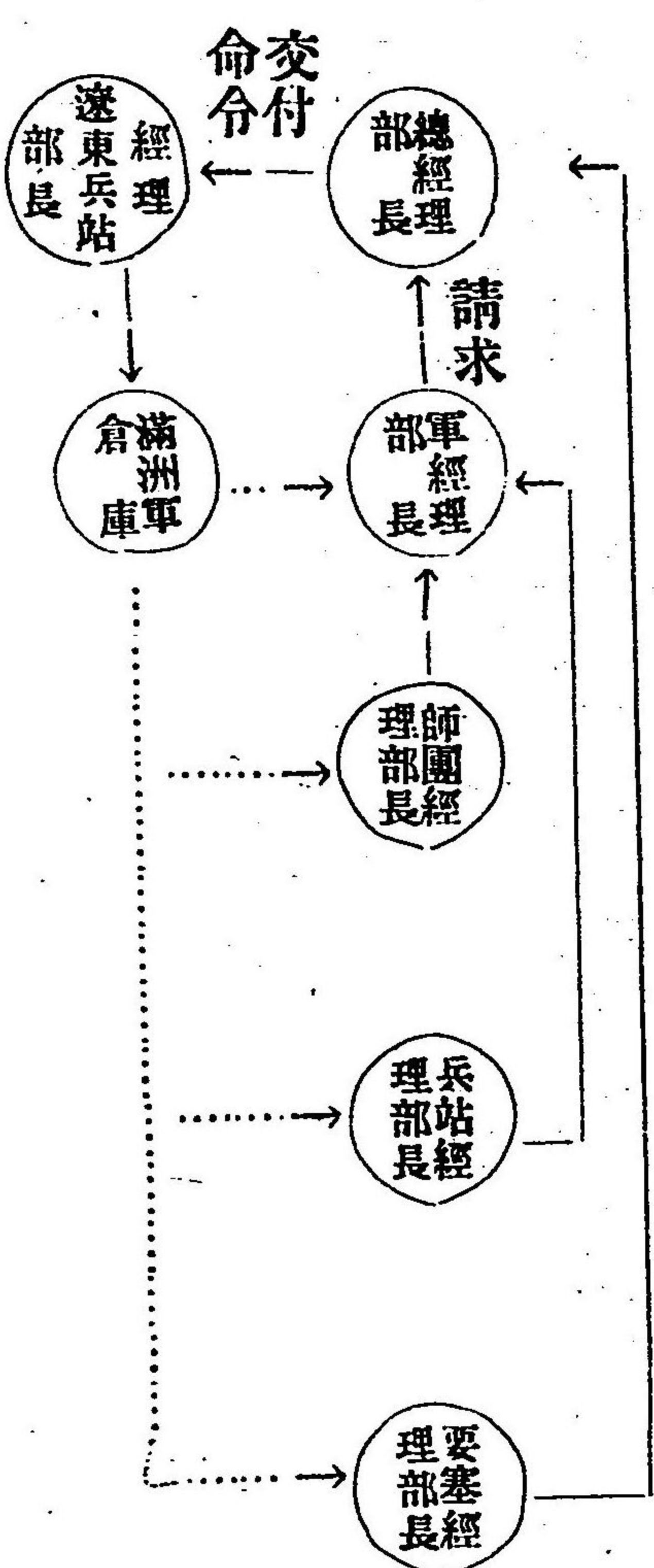
糧秣ハ常ニ追送シ置ク計畫ナルヲ以テ殆ンド請求ノ要ナシ特ニ必要アリタルトキハ總經理部長ヨリ經理長官ニ請求ス。

被服補充系統

其一 現品貨物廠ニアルモノ



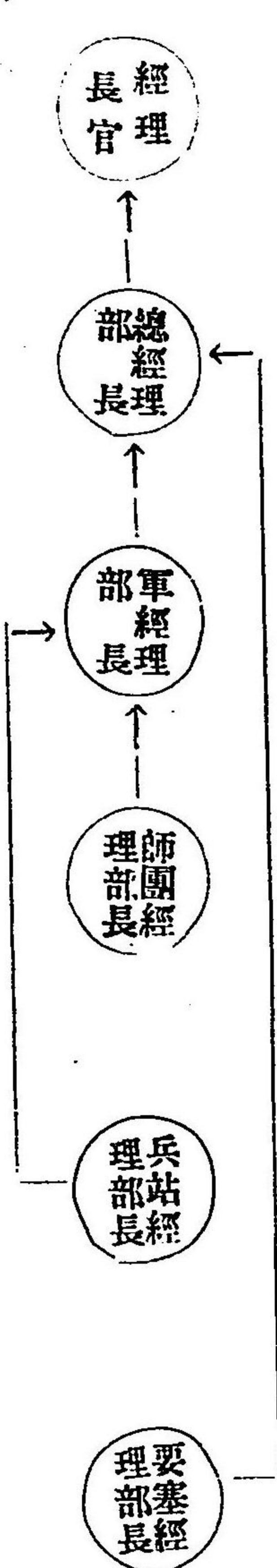
其二 現品滿洲軍倉庫ニアルモノ



器具材料補充系統

器具材料ノ請求及追送系統ハ被服ニ同シ

規定以外ノ物品請求系統



但兵站業務ノ爲メ時ニ要スルモノニシテ軍經理部長ニ於テ統一上ノ顧慮ヲ

要セザルモノハ兵站經理部長ヨリ直チニ總經理部長ニ請求シ軍經理部長ニ報告スルヲ得。

六月九日 第八師團經理部長ヨリ電報午前九時二分「ダイバタイシ」ノ秣ハ其後幸、鴨綠江軍ヨリノ請求ニヨリ引繼グコト、セリ。

薪、石炭ニ就テハ然ル可ク御配慮ヲ乞フ。

同九日 第四軍兵站經理部ヨリ電報午前九時五分當部ニテ夏衣袴五百組不足セリ。貴庫ニ於テ都合付ケバ幾組ニテモヨシ。

至急交付セラレタシ。返待ツ。

右返電午前十時四十分大連發

答、追送夏服類ハ各師團分ケニ現物ニ札ヲ付ケテ送り來リシモノ故倉庫ニハ一梱モナシ。餘リアル所アルカモ知レヌガ倉庫ニテ繰合セノ仕方ガナイ。

同九日 金子營口支庫長ヨリ電報午後三時二十分大連受

大本營參謀長ヨリ(一)ノ電アリ(二)ノ如キ狀況ナリ。之ニテ差支ナクバ貴官ヨ

リ御返電ヲ乞フ

(一)目下遼河ノ水運ハ一日平均幾何ナリヤ。將來増加ノ見込アラバ何日ヨリ幾何何地ニ送り得ルヤ(二)五月第三旬平均約一万三千個、六月第一旬平均約一万五千七百梱ヲ輸送セリ。營口支庫ノ輸送區域ハ高力屯迄ニシテ其以北ハ第三軍ニ屬ス。目下ノ所高力屯迄ハ一万九千梱ハ輸送シ得ル見込ニテ實行中ナリ。

今後右等ノ場合ニハ返電シ置キテ報告シテヨキヤ。

右返電十日午前十時大連發

左ノ通り大島參謀長へ答へヨ○五月第三旬平均約五個師團分、六月第一旬平均約六個師團分ヲ輸送セリ。品サへ有ラバ約八個師團分ハ輸送シ得ル見込ミ○今後ハ直接ニ答へヨ。

斯クテ同日午後零時四十五分、大島兵站總監部參謀長へノ返電急グ發セシヤト電報セシニ、同日午後六時三十五分、牛家屯發ニテ「大島參謀長へハ返濟ミ」トノ

返電アリ。

尙ホ同參謀長ヨリ遼東兵站參謀長へモ東清鐵道ノ輸送力ニ關シ問合セアリタル旨通牒アリ。依テ同十日左ノ如ク返電セラレタキ旨回答セリ。

答、來月一日ヨリ八日マデ糧秣ノ爲メ貨車數毎日平均大連ヨリ百四十九、營口ヨリ百三十五車、其他ノ倉庫品及薪炭等ノ爲メ毎日大連ヨリ十五車、營口ヨリ九車ノ割ニテ使用セリ。

六月九日 在永陵濱名鴨軍兵站經理部長ヨリ電報午後十時三分大連受

其筋ヨリ突然ノ通牒ニテ當部付永松主計ガ貴庫ニ轉任シタルヲ承知ス。同人ハ馬車徵集ノ爲メ遼陽、海城、蓋平間ヲ往復シ、地方官民ト複雑ナル關係ヲ結ビツ、アリ。今急ニ同人ヲ失ハ、馬車徵集ニ大頓挫ヲ來シ、我軍ノ行動ニ大影響ヲ生ズ。併シ他人ヲシテ代ラシメ成ルベク速ニ赴任シ得ル様取計フベキモ事情右ノ如キニ付當分ノ内赴任延期セシメラレタシ。御承諾ヲ乞フ。

右返電同便一時大連發

答、委細承知セリ。當方ニモ人少ニテ非常ニ因リ居ル故成ル丈ケ早ク赴任セシメラレタシ。

同九日 遼東兵站經理部ヨリ電話ニテ左ノ如ク照會アリ。

第三軍兵站經理部長ヨリ遼東兵站經理部長宛電報

高力屯兵站倉庫ニハ倉庫長以下當部ヨリ派遣シアリ貴部ニテ御差支ナケレバ水路輸送引繼ギト同時ニ引揚グントス御都合如何返。

右兵站倉庫長以下ハ高力屯ノ滿倉出張所ヨリ糧秣ヲ受領ノ爲メニ來リアルモノナリ。即チ倉庫ハ糧秣ヲ直接兵站へ渡スコトヲ避ケ、軍兵站經理部へ渡ス主義ヲ取り居ル故此倉庫長以下ノ派遣セラレアルナリ。然ルニ今後ハ上流へ直送ニナルコト故此兵站倉庫ハ不用トナル。依テ左ノ如ク回答セリ。

遼東兵站經理部長宛

答、高力屯倉庫長以下ハ輸送業務引繼ギト同時ニ引揚ラレタシ。

同九日 遼東兵站監部會報要領

開原迄汽車開通シ、同地ニ兵站司令部ヲ設ケラレ、停車場司令部ヲ兼ヌ。

六月十日 新民屯米田主計ヨリ電報午前三時 新民屯發

昨日兒玉閣下外四名松川少將、尾野中佐、鶴淵主計、鷺見副官、高力屯ヨリ來リ、市中ニ一泊、今朝奉天ニ立タレタ。○貴官ニ提出セントテ調製シタル五月分統計表皆差出セリ。○再ヒ拵ヘテ送ル。○閣下ハ行カレザリシガ尾野參謀變裝シテ、ヲ停車場ニ案内セリ。

同日 鐵嶺前田支庫長ヨリ電報午前四時三十分 鐵嶺發

新倉庫地構内鐵道引込線ノ東側延線上北方ニ、去ル八日荷卸シシタル儘ナル第五師團第四野戰病院酒保今井助次郎保管中ノ酒保品ヨリ今前一時三十分發火。同二時鎮火ス。倉庫ノ糧秣ニハ異狀ナシ。失火ノ原因ハ監視人今井ニ糺シタルモ要領ヲ得ズ。多分煙草火等ヨリノ過ナラン。○各軍ノ貨物及兵器彈藥類ヲ悉ク新倉庫地構内ニテ荷卸シ及積込ミスルコトノ不可ナル理由ハ曩キニ總司令部へ意見具申セシモ今ニ實行ヲ見ズ。今又總參謀長ニ右

報告ト共ニ再ビ上申シ置キタリ。貴地提理部ニ各軍ノ貨物ヲ糧秣線ニ引込マザル様交渉アリタシ。○遼東兵站監へハ貴官ヨリ報告ヲ乞フ。

右ニ付、同日滿倉庶第六二三號ヲ以テ左ノ通り井口兵站監へ報告セリ。

鐵嶺倉庫地構内ニ於テ第五師團野戰病院酒保品失火ノ件別紙ノ通り前田支庫長ヨリ報告アリ。

別紙前項電報ノ通り

同日 新民屯米田主計ヨリ電報午前三時 新民屯發

答(八日ノ電報ニ對シ)生牛ハ目下ノ景況ト各地ヨリ來集セル牛屋ヲ調べタルニ今後毎日約三百頭ヲ買入ル、コトヲ得。○時機ヲ失スレバ又集ムルニ困難ナリ。○七月ハ炎熱ト雨期トニヨリ少カラシ。價ハ一ポンド拾貳乃至拾參錢ナリ。○稍、高キモ蒙古産ハ始メヨリ買ハザリシ故肥大ナル山東、山西省ノ産ノミトナレリ。一頭平均一千ポンドアリ。○此頃毎日約百頭買入レ第三軍ノ分ハ高力屯ニテ出張員ニ渡シ第二軍ノ分ハ兵站部送リトシテ遞送シアリ。○

此ノ買入レ殘リハ鐵嶺方面ニ行クモノナリ。

六月十日 金子營口支庫長ヨリモ亦左ノ電報アリ午後零時十分

答、生牛ハ芝罘ヨリ集ムル目的ニテ買入レモ着手セバ初メ一週間ハ二十カ三
十頭ヨリ集マテザルモ一週間ノ後ニハ一日百頭ヲ集メ得。

右ニ付、金子支庫長ヘ電報午後零時四十分

新民屯ニテ日々三百頭ノ、調フ由。米田ヨリ報告アリ。芝罘ニテ買入レタ
ル牛ハ如何ニシテ前送スル覺込ナルヤ。又運搬費ヲ加ヘタル價額返。

右ニ對シ左ノ返電アリ午後六時三十分

答、生牛ヲ輸送スルコトハ汽車ニ依ル外手段ナシ。寧口淡鹽漬ノ箱詰トシテ
ハ如何。此地迄ノ運賃ヲ加ヘテ一ポンド拾貳錢五厘ナラバ一日約百頭ハ集
メ得ベシ。鹽漬トセバ皮代拾圓ヲ引去リ、一ポンドノ肉代貳拾參錢トナル。

同日 奉天橋元支庫長ヨリ電報午前十時四十分

生牛九十第四軍兵站ニ渡セリ。○總經理部ノ指示ニ依ル。

同日 鐵嶺前田支庫長ヨリ電報午後二時五十分

生牛毎日三百頭前送シ得ル旨、米田ヨリノ電アリ。適宜各軍ヘ補給シ差支ナ
キヤ。

右返電午後七時

答、生牛三百頭各軍ノ請求ニ應ジ渡シテ差支ナシ。尙ホ此件ニ付テハ總經理
部ト打合セ置カルベシ。

同日 金子營口支庫長ヨリ電報午後四時二十分

提理部ノ計畫ニテハ十二日三百五列ハ李石寨行ニシテ糧秣二十七ヲ當地ヨ
リ發車スルコトニナリ居レリ。右ハ御承知ナリシヤ。又何品ヲ積ムベキヤ。
夜間ノ積込ミ故成ルベク米麥ニシタシ。折返シ御指示ヲ乞フ。

右返電午後六時

答、提理部ヘ開合セタルニ貴地ヨリ李石寨行ノ計畫ハ間違ナリトノコト。○李
石寨行ハ目下不用ナリ。

同時ニ遼陽小野支庫長へ電報

六二

自今李石寨へハ糧秣ヲ全ク送ルニ及バズ。

六月十日 金子營口支庫長ヨリ電報午後九時五分發

「ボイラ」一個ノ修繕完成。今日午後七時ヨリ搗精ヲ始ム。

一日ノ搗精高目下ノ處六百石ノ見込ミ。委細跡ヨリ。

同日 金子支庫長ヨリ電報午後十一時二十分發

麥ノ前送ハ水陸共多數ナルヲ以テ品切レトナル恐レアリ。至急追送ヲ乞フ。

同日 主計職務取扱木崎甚藏ニ鐵嶺支庫附ヲ命ジ、即日出發赴任セシム。

右ニ付前田主計正ニ左ノ如ク傳言セシム。

甲、酒保品類ノ依托購買ニ就テ。

一 品物ノ範圍

依托者ノ望ム品物ノ内追送品中ニアルモノハ追送品ヲ渡セバヨキ筈ナリ併ナガラ同一名稱ノ下ニ其實物ニ於テ大ニ相違スルコトアリ斯ノ如

キモノハ依托購買ニ應ズル方ガ軍隊ノ利益ナラン。

二 又食料品以外ノモノ酒保品以外ノモノデモ場合ニヨリ世話ヲ要スルコトモアラン本業ヲ妨グザル限り多少ノ世話ヲナスコトハ寧ロ公務執行上彼我ノ間ヲ圓滑ニスル益アラン此等ハ豫メ究窟ナル内規ヲ設クルコトノ出來ルモノデナイ戰線ニ近ヅクニ從ヒ適當ノ處置ニ出ヅル必要アルベシ各自其責ニ任ジテ軍ノ共同利益ヲ圖ルヲ要ス。

乙、輸送ノ方法ニ就テ

總司令部ヨリ依托ノ品ハ總テ同部ヨリ貨車ノ請求ヲ爲ス約束ナリ但シ些少ノ物品ハ糧秣貨車ノ一隅へ入レテ送ルヲ便利トスルコトモアラン。通常依托物品ハ特別ニ貨車請求ノ道ヲ講ジ置クヲ要ス是レ糧秣貨車ノ内ヲ取ルトキハ終ニ計畫ノ補給ニ妨グヲ來ス恐レアルヲ以テナリ。

同日 撫順小野主計正ヨリ電報午後十一時十分大連受

輕鐵運轉ノ輸卒ハ一時兵站司令部ヨリ出スコトニ相談纏マル。當地ヨリ營

六三

盤マデ輕鐵敷設終レバ此輸卒ヲ使フコト出來ヌ。別ニ配屬ヲ要ス。倉庫八
百坪(四棟在庫品共)何時ニテモ引繼ギ出來ル。右ニ付、倉庫職員現在ノ外主計
三、計手四、庫手二、從卒二、通譯一、技手一、輸卒一隊亟急配屬セラレタシ。宿舍ト
雨覆用トシテ、アンペラ三、千、雨覆五百、板二百坪、丸太六百本、チマコ板六百枚、釘
大小二槍、丸匙百、十字鐵五十、据風呂二、至急補充ヲ乞フ。○倉庫増築計畫ハ郵送
ス。

六月十日 撫順及小塔子ニ支庫ヲ設置セラル、ニ付、右要員増加ノ件左ノ如ク
稟申セラレタキ旨遼東兵站監部へ申請セリ。

稟申電案

滿洲軍總司令官宛

遼東兵站監ヨリ

撫順及小塔子ニ滿洲軍倉庫ノ支庫ヲ設置セラル、ニ付テハ右兩支庫要員ト
シテ滿洲軍倉庫編成表備考第三項ノ人員ヲ二個分本倉庫ニ増加相成度稟申
ス。

尙ホ滿洲軍倉庫主計、計手増員ノ件ニ關シ、總經理部長ヨリ遼東兵站經理部長へ
電報アリ。依テ是亦左ノ如ク返電セラレタキ旨回答セリ。

片山總經理部長宛

辻村兵站經理部長ヨリ

答滿洲軍倉庫へ主計六、計手八増加ノ件ニ付目下主計等缺乏ノ際ニテ詮議セ
ラレザル其筋ノ意見ナリトノコトナルモ倉庫ニテハ實際差支ヲ生ズル故何
トカ繰合セノ上此際増加セラル、様取計ハレタシ。若シ缺乏ノ爲メ理由ノ
如何ニ拘ラズ配屬出來ズトアラバ何日頃ニナレバ補ハル、見込ナルヤ聞キ
タシ。

同日 第十師團第十九補助輸卒隊ニ撫順支庫附ヲ命ズ。同隊ハ午後四時大
連ヲ出發セリ。

出發ニ際シ同隊長ニ與ヘタル口達訓令左ノ如シ。

- 一 貴官ハ此汽車ニテ撫順ニ至リ同地ニ於ケル我倉庫業務ニ從事スベシ。
- 二 撫順ニ於ケル倉庫設備ノ爲メニ小野三等主計正ヲ出張セシメアリ業務

ニ就テハ同官ノ指示ヲ受クベシ。

三 宿舍ハ古城子附近ニ設備シアル筈ナリ。

四 本日ノ列車ニ於テ輸送シ能ハザル車輛及人馬ハ出發後其員數ヲ認メ本職ニ報告スベシ此ニ對スル後ノ輸送ハ追テ相達ス。

右ニ付撫順小野主計正ヘ電報同夜一時大連發

撫順支庫附トシテ第十師團第十九補助輸卒隊ヲ本日午後四時大連發ニテ其地ヘ輸送セリ。宿舍ノ用意アレ。宿舍ハ渾河ノ以南ハ遼東兵站管區ニ屬スルヲ以テ輸卒隊ノ宿舍ハ貴官ノ隨意ナリ。其上不要ノモノハ司令部ノ使用ニ供シ差支ナキコト、ナレリ。○總司令官ノ命令ニヨレバ仙金樂ヨリ撫順ニ至ル。輕鐵及所要ノ運搬材料竝ニ補助輸卒隊一隊ヲ撫順兵站部ヨリ引繼ギヲ受クベキナリ。相談ニヨリ一時兵站部ヨリ出シテ貫ウノデハナイ○建築ニハ衛生、獸醫材料ノ爲メニ各百坪ヲ加フルヲ要ス。
斯クテ同隊ハ十一日午後十一時半撫順ニ到着セル旨報告アリ。

右輸卒隊ノ出發及到着ノ都度遼東兵站監部ヘ報告セリ。

六月十一日 鐵嶺前田支庫長ヨリ電報午前九時四十分大連受

當支庫ニハ獸醫部ノモノ一名モナシ。今出張中ノ鈴木工長ヲ附屬セシメラ

レタシ○獸醫ハ未ダ着カヌカ。

右返電午前九時五十分大連發

答、引當テノ獸醫未ダ着セズ。着次第配屬ス。

同十一日 鐵嶺前田支庫長ヨリ電報午前十一時七分大連受

業務ノ都合ト警戒上ノ必要ヨリ倉庫以外ノ貨物ハ成ルベク倉庫線以外ニテ荷卸シヲ要スル故専用糧秣貨車以外ニ積込ミノ必要アル時ハ成ルベク或ル列車ニ取纏メ輸送スル様貴地及營口ヘ御命令アリタシ。

右ニ付大連停車場掛ヘ其旨命令シ、猶營口、遼陽各支庫長ヘモ同様電報セリ。

同十一日 奉天橋元支庫長ヨリ電報午前十一時十分大連受

金山第四軍兵站經理部長ヨリ繰替請求ノ夏衣袴ハ總經理部長ヨリ渡シテヨ

シトノコトニ付今日渡セリ○即チ本月七日業務報告ニ載セアル第三師團經理部ヨリ返納ノ三百十三組ナリ。

六月十一日 撫順小野主計正ヨリ左ノ電報アリ午後一時十分撫順發

當倉庫ハ撫順南門外元兵站司令部跡へ本日ヨリ事務所ヲ開ク。右報告ス。

同十一日 撫順小野主計正へ電報午後六時十分大連發

鴨軍ヨリ引渡サルベキ輸卒隊ハ其地ニアル第六師團第二十二號ナリ○撫順仙金樂間ノ電話線ハ之ヲ倉庫ニ譲リ受クル爲メ掛合フ筈。

同十一日 新民屯米田主計へ電報午後七時大連發

- 一 新民高力間ノ輕鐵ハ保線輸送共總テ滿倉ガ擔任スルコト。
- 二 新ニ配屬セラル、輸卒一隊ハ藤田主計ノ指揮ヲ受クルコト、ナシアリ。故ニ貴官ガ同隊ヲ使用スル場合ニハ同主計ノ名ニヨリテ使用スベシ。
- 三 新民附近ニアル後備旅團ノ給養ハ直接滿倉ニテナスコト其地業務開始ノ當時ニ於ケル如クスベシ○末永ノ如キモ此際殘ラズ其地ヲ引揚グ新民

屯ノ地ニハ軍務署ト我倉庫ノミ居ルコト、ナル。

要スルニ遼河以西ノ業務ニハ我倉庫ノ外一步モ踏込ヌコト、ナリタルナリ。夏服ノ爲メニ二百圓ノ支出ヲ認可ス。其他運動費トシテ一個月五百圓以内ノ出費ヲ認可ス但シ其支出ニ就テハ最モ慎重ヲ要シ、其費途ノ明細ハ報告スベシ。

右ニ對シ左ノ返電アリ十二日午後九時新民屯發

答、電命ヲ拜ス○勢力範圍ノ確定ニ就テハ輸送上多大ノ便宜ヲ得タルコトヲ賀ス○昨日電セシ現在品ハ今朝前送シ終リ、目下一品モナク、貨車ノ到着ヲ待チツ、アリ。

六月十一日 糧秣交付手續ニ關シ、總經理部今井主計正へ左ノ書面ヲ送付ス。
拜啓

第三軍ニ割麥不足ノ趣ヲ以テ兵站經理部ヲ經テ御申越ニ候へ共高力屯本日現在高ハ三十六個師團分有之候故貴部ヲ經又遼東兵站經理部ヲ經テ當倉庫

ニ申來ラネバナラヌ程ノ次第ニハ無之ト被存候以來斯ノ如キ場合ニハ當該
兵站經理部長ヨリ直接ニ當倉庫ノ出先キノ官僚ニ掛合ニ相成リ候ハ、處辨
出來候間先方ヘハ左様御示被下度如斯御座候拜具

六月十一日

日

匹

今 井 殿

六月十二日 奉天橋元支庫長ヨリ電報午前十一時三十分奉天發

昨日着イタ。生牛七十五ノ内一ハ炭疽熱ニテ斃死、一ハ牛疫ニ罹リタルニ付
撲殺シ、七十三ヲ總經理部長ノ命ニヨリ第二軍兵站ニ交付セリ第二軍兵站監
部ハ本日北進セリ〇各軍トモ當地附近ニ於テ生牛ヲ分配スベキ部隊ナキニ
ヨリ、何レモ鐵嶺ニテ受取リタキ希望ノ由〇出來得レバ今後ハ新民屯ヨリ直
グ鐵嶺ニ送ラレタシ。

右ニ付、新民屯米田主計ヘ電報午後三時四十分大連發

生牛ハ今後鐵嶺ヘ送ルコトヲ研究セヨ。

同十二日 片山總經理部長ヨリ電報午後一時五十分大連受

交付命令上入用ニ付去ル十日現在ノ天幕方錐ト屋形トニ分チ雨覆(大小ニ分
チ)ノ員數命令濟ノモノヲ除ク承知シタシ。又爾後ハ當分ノ内毎旬電報アレ。

右返電十三日午後四時大連發

答、十日現在雨覆大千四百十六、小四千二百七十、天幕方錐七十七、屋形三千二百
八。

同十二日 曩ニ梶塚糧秣廠長ヘ依頼シタル卿右近雇員事故ノ爲メ出發延期ノ
處何時出發セシムルモ差支ナキ旨同廠長ヨリ電報アリ。依テ左ノ如ク返電セ
リ午後二時大連發

答、卿右近ヘ左ノコトヲ傳ヘラレタシ〇六月一日附雇員ヲ命ズ。月給貳拾圓
ヲ給ス。宇品碇泊場ニ至リ、大連迄便乗ヲ乞フベシ。同司令部ヘハ照會濟。

同十二日 金子支庫長ヨリ電報午前十時大連受

獨逸人「ヘーヤー」天津ヨリ昨日營口ニ來リ、今朝去レリ。目的ハ我倉庫ヲ燒ク

ニアリ。支那人之ニ連累シアリト○大ニ警戒ヲ加ヘ縮リヲ嚴ニシ居レリ。

六月十二日 新民屯米田主計ヨリ電報午後十時五分大連受

輕鐵ノ臺車ハ先ニ竹島參謀長ヘ一千臺請求セシモ二回往復セバ輸送力ハ十分ナリトノ計算ニテ七百臺渡サレタルモ破損ノ爲メ實際使用シ得ベキハ約六百臺ナルヲ以テ三回往復(一臺十二個積故約二萬一千六百個)セザレバ八百噸(約二萬捆)ヲ輸送シ難シ。然ルニ線路ハ不完全ナルガ上ニ(今ハ倉庫ノモノトナリタルガ故全部修理ヲ加フベキモ)三回往復セバ十三里餘(全線九吉米突)ニ達シ、苦力ノ勞力堪ヘ得ザルニ依リ、中間ヨリ右岸迄輸卒隊ニ遞送セシムレバ各半距離ヲ運轉スルコト、ナル故、竹島參謀長ニ協議セシニ去ル七日ヨリ當分ノ内トシテ一隊ヲ貸與セラレ(高力屯兵站部付第十師團ノ第十四隊)實行シツ、アリ。

同日又左ノ電報アリ午後九時五十分大連受

前田支庫長ヨリ電○生牛三百頭鐵嶺當倉庫宛毎日送ラレタシ○當分ノ間ハ

輸送ノ都度電アレ。

右買入レテヨクバ獸醫ニ計手一派遣ヲ願フ○買入ルレバ兵站送リトナシ差支ナキヤ○曩キニ大江部長ノ請求ニヨリ買入レ發送シタル雨覆輕鐵用トシテ千枚買ヒ入レタシ。御認可ヲ乞フ。

右返電同夜一時十分大連發

答、生牛三百頭鐵嶺支庫ヘ毎日送付アレ○利根川計手ヲ其出張所附トシテ貴地ヘヤリタル管獸醫ハ派遣スル積リ○牛ヲ兵站送リニスル場合ニハ宰領(輸卒)ヲ付スベシ○輕鐵用雨覆千枚買入認可ス○予ハ一兩日中ニ出立先ヅ營口ニ至リ、夫ヨリ貴地ニ行ク積リ。

同十二日 出張中ノ遊佐獸醫ヨリ電報午後九時二十分

昌圖附近ハ目下干草及代用品皆無ニシテ地方調辨出來ズト云フ。少ナクモ騎兵隊馬ノ爲メ出來ル丈ケ干草ノ前送ヲ望ム。

同十二日 鐵嶺前田支庫長ヨリ電報午後五時大連受

第二軍ノ老邊ノ補給ヲ中止シ其代リニ三屯子ニ於テ補給ヲ受ケタキ旨木村部長ノ請求アリ馬蜂溝ノ送り出シヲ總テ三屯子ニ向ヒ送ル様第三軍兵站ト御交渉アリタシ○同官ヨリハ貴官ヘ照會アリタル等

六月十二日

第二軍兵站經理部長ヨリ電報午後六時十分鐵嶺發

從來南老邊ニ於テ受領シツ、アリシ日々一個師團分ノ糧秣ハ今後古城子(三屯子)ニテ受領シタシ。右協議ス○返電ハ鐵嶺ヘ發セラレタシ。

同十二日

撫順假倉庫建設ノ件ニ付遼東兵站監部ヘ左ノ如ク申請案ヲ提出ス

兵站監ヨリ總兵站監宛電報案

撫順支庫ノ爲メ假倉庫約千坪戰地建築部ヲシテ至急建設セシメラレ度申請ス。

同十二日

金子營口支庫長ヨリ電報午後十一時七分大連受

大麥燕麥ハ在荷多カラザル爲メ日々水路關外ノ輸送ニ充ツルノ外餘裕ナシ依テ在庫品増加スル迄ノ間米ノミヲ當地ヨリ鐵嶺ニ送り、貴地ヨリ大麥ヲ送

ラル、ノ御都合付カザルヤ。返待ツ。

右返電

同夜一時十分大連發

答、東清線ハ米ノミ送リテヨシ○毎日一列又ハ二列丈ケ干草ヲ送ルベシ。

同十二日

鐵嶺前田支庫長ヘ電報午後十一時十分大連發

失火ニ關スル書面報告書見タ。倉庫品ニ禍ノ及バザリシ貴官ノ盡力ヲ謝ス(報告書略ス)○倉庫線ト他ノ引込線トヲ異ニスルコトハ提理部ニテモ承諾シ、早速取カ、ル管○余ハ一兩日中ニ出發營口、新民屯及撫順等ヲ經テ貴地ニ向ハントス○三面船ニ出張所ヲ置ク準備アレ、同出張所ニテハ一個師團宛第三軍ニ交付セシムベシ○小塔子ニ出張所ヲ置ク爲メ調査報告アレ○第四軍ヘ日々十個師團分渡スコトハ承諾シ得ズ。何トナレバ此ノ如クスルトキハ鐵嶺ニ集積スベキ任務ヲ遷延セザルベカラズ。此理由ニヨリ木村部長ノ請求ニ對シ斷リ置ケルナリ。而シテ各軍ガ雨季前ニ豫定糧秣ヲ貯藏シ終ル任務アリトセバ強チ然ルヲ得ズ。此件ニ就テハ總兵站監部ニ於テ双方ノ實行シ

得ラルベキ訓令ニ改メラル、ヲ要スルナラン(倉庫ハ七月中ニ一個月分ヲ其地ニ積ム任務ヲ有ス)

六月十三日 撫順小野主計正ヨリ電報午前一時大連受

來ル十五日引繼ギヲ受ケ同日ヨリ業務ヲ開始シタシ○右ニ付請求ノ要員至急配屬セラレタシ。

同十三日 金子營口支庫長ヨリ電報午前八時二十七分大連受

米田主計ヨリ日々生牛三百頭買入ル、コトナラバ十日毎ニ約五拾萬圓送付方願ハル、ヤトノ電アリ。果シテ此數量ヲ買入レシムル見込ナルヤ。前渡金請求ノ都合アリ。

右ニ付、新民屯米田主計へ電報午前九時五十分大連發

生牛買入ニ就テハ多額ノ仕拂ヲナスコト故引續キテノ契約等ハ本職自ラ其地ニ到リ實施セントス○藤田ハ本日中ニ大連發撫順、奉天ヲ經テ新民ニ行ク
答○守田見習獸醫本日發營口ヲ經テ新民ニ行ク。

同十三日 遼陽岡本主計ヨリ電報午前九時十分遼陽發

蓋平、大石橋間ニテ七列ノ貨車ニ故障デキテ來ラズ 故ニ此ノ地ヨリ續々前送ス。

同日又左ノ電報アリ午後四時五十分遼陽發

汽車三百七列ヨリ開通ス。

同十三日 遼陽岡本主計ヨリ電報午前八時十分大連受

小北河ニ架シアル橋ハ大ニ費用掛ル故取拂ヒヲ申請スルト當地平尾兵站司令官云フ該地ニハ大ニ薪、馬糧集積シアル故其儘置カレタシト交渉中ナリ。情報ス。

同十三日 高力屯村岡主計へ電報午後一時十分大連發

其出張所ニアル木炭ハ成ル丈馬蜂溝へ前送スベシ。

同日 高力屯村岡主計ヨリ電報午後一時五十分高力屯發

當地小野崎兵站司令部ハ星田兵站司令部ト明日交代シ第三軍經理部出張員

モ前進ス○是マデ交付セシ物品ノ兵站倉庫ニ殘留セル物ハ當出張所へ引繼ギ方申シ來レリ。如何取計フヤ○將來前進ニ付テハ如何ナル方針ニヨルカ。至急御指示ヲ待ツ。

右返電午後二時三十分大連發

貴地ノ上流左ノ地ニハ我倉庫ノ出張所アリ○三面船馬蜂溝三屯子及小塔子ノアル限リ前送ニ勉メヨ○第三軍兵站司令部ノ糧秣引繼ギヲ受ケヨ。

六月十三日 第六師團經理部長ヨリ電報午後二時二十七分大連受

石地式濾水器破損ノ時ハ貴部へ請求スレバ交付セラル、ヤ。返待ツ。
右返電午後三時十分大連發

答、濾水器ノ豫備ハ僅ニアルノミ。破損セル場合ニハ總經理部へ請求セラレタシ。

同十三日 午後二時發ニテ鐵嶺前田支庫長ヨリ當支庫附通譯越智高吉疑似コ

レラニ罹リ即時兵站病院へ入院トノ電報アリ。

同十三日 午後四時第三軍經理部長へ「貴部ニテ昨年買入レラレシウーラー靴紐草ノ直段聞キタシト電報セシニ左ノ返電アリ四十四日午前十時

答、昨年ノ分紐付壹圓七拾四錢、本年二月買入レ靴壹圓八拾參錢七厘、紐五錢貳厘五毛、草一斤拾錢五厘ナリ。

右烏拉靴購買ノ件ニ付テハ豫テ辻村部長ヨリ協議アリシヲ以テ、同十四日更ニ營口、遼陽、奉天、鐵嶺及新民屯ノ各支庫出張所長へ左ノ如ク電報セリ。

冬期所要烏拉靴調辨ノ目的ヲ以テ其地ニテ得ラルベキ員數價格ト其見本ヲ調査シ置クベシ。

後十六日遼東兵站經理部長ヨリ改メテ左ノ通牒アリ。

經發第四六六號

明治三十八年六月十六日

遼東兵站經理部長 辻村 楠 造

滿洲軍倉庫長 日 匹 信 亮 殿

烏拉靴(烏拉草、締紐共)四十萬足來ル十一月迄ニ購買方御取計相成度

追テ之ニ關スル書類(略ス)別紙總經發第四十六號及同四十八號並ニ該品關係書類貳冊送付候條用濟御返却相成度

(別紙總經發第四六號)

明治三十八年六月十一日

滿洲軍總經發部長 片山 中行

遼東兵站經發部長 辻 村 楠 造 殿

一 烏拉靴

四十萬足(烏拉草、締紐共)

但本年冬期防寒用

右來ル十一月迄ニ買收取計フベシ

(別紙總經發第四八號)

明治三十八年六月十一日

滿洲軍總經發部長 片山 中行

遼東兵站經發部長 辻 村 楠 造 殿

本日烏拉靴買收方貴官へ委託致候處多大ノ員數ニシテ悉ク要件ニ適合セシムルハ困難ト存候へ共昨年ノ經驗モ有之可成左ノ要件ニ準據セラレシムルコトヲ希望致候又契約濟ノ分ハ其都度納期及單價員數ヲ報告相成度右申進候也

一 牛皮ニシテ一組ノ重量百匁以上

二 文數過少ナラザルコト

三 縫糸ヲ精選シ縫方ヲ堅固ニスルコト

四 外形ニ拘ラズ實用的ニ注意スルコト

追テ別紙(略ス)御參考ノ爲メ及御送付候條用濟御返却相成度

六月十三日 留守第十師團經發部長ヨリ豫テ請求セシ軍役夫補充員三十四名ハ來ル十五日當地ヲ出發セシムトノ電報アリ。

同十三日 鐵嶺前田支庫長ヨリ電報午後七時三十分大連受

消毒其他用トシテ遼陽ニアル石灰ヲ二貨車急送方取計ヲ乞フ。

同日 遼陽岡本主計ヨリ電報午後八時五十分大連受

鐵嶺支庫ヨリ「アンペラ」縫用麻繩二萬斤買入レ委託シ來レリ。

右ニ項ニ對シ、左ノ如ク遼陽支庫へ返電セリ。

貴地ニアル普通石灰二貨車鐵嶺支庫へ送ラレタシ○鐵嶺支庫ヨリ委托ノ麻繩二萬斤買入承諾ス。

六月十三日 遼陽支庫長ヨリ電報午後七時十分大連受

小北河附近ノ薪其外整理ノ爲メ遣シタ輸卒隊歸リ來テ云フニ同地年々洪水ノ時ハ五六尺ノ高サ迄水來ル。薪其他ヲ安全ノ地へ運ブニ費用五千圓餘ヲ要ストノコト。當支庫ノ見積リモ大差ナシ。多額ナレドモ仕方ナキカ。一應伺フ。

右ニ對シ遼陽支庫長へ電報午後十一時五分大連發

小北河及北太溝ニアル物品ニシテ此際整理ヲ要スル品種數量等ノ區分直グ電報アレ。

右返電十四日午前二時一分大連受

答、小北河北太溝ニアル薪八十五萬貫粟稈二萬七千貫、稗稈二千貫、乾草二萬七

千貫、支那藁一千貫、鐵道枕木百四十本ナリ。馬糧ノ内四分ハ使用ニ堪ヘヌ見込ミ。

右ニ對シ左ノ如ク電報セリ十五日午前九時十分大連發

小北河ノ薪其他處分方研究ノ上意見申出ヅベシ○若シ水路輸送ヲナスモノトスレバ太子河ニ繋ギアル舟百五十一艘ハ使用シ得ル見込。

然ルニ同日左ノ返電アリ午後三時十分遼陽發

小北河ノ薪其外ハ水路輸送便利ナリト存ズレド送リ先キ又ハ經費等ニ付取調ベ追テ意見申出ス。

同十三日 兵站監部會報要領。

一 日本ニアル米國公使ヨリ六月九日日本外務大臣ニ照會ノ大要。

人類一般ノ利益ヲ計ル爲メ戰爭ヲ止メ平和ヲ希望ス。

右ニ對シ外務大臣ノ回答ノ大要。

平和ヲ確實ニ保證スルニ足ル條件ヲ認ムルヲ得バ戰爭ヲ止ムベシ。

總參謀長訓示ノ大要

右ノ次第ナルニ依リ談判ヲ始ムレバ休戦トナルカナラザルカハ一問題ナレドモ我軍ノ方針ニテハ可成休戦ヲ避ケル考ナリ。故ニ此等ノコトノ爲ニ油斷スルコトナク益々戦争行爲ニ勉ムベシ。

二 徒歩砲兵第三獨立中隊復員ス。

三 兵站司令部ニハ編成師團ノ稱號ヲ冠シ其師團毎ニ逐次番號ヲ付ス。但シ特別ノ場合ニハ司令官ノ姓又ハ地名ヲ付スルコトアルベシ。

四 遼河ノ水路輸送線守備隊全部交代配布ヲ終ル。

五 六月十二日「ロイタル」通信露國政府ハ全權大使ヲ任命セズ。今約束シアル會見ニ於テ單ニ日本ノ狀況ヲ露國政府ニ通知スル爲メノミニシテ若シ露國ニ於テ此條件ヲ基礎トシテ交渉ヲ開クヲ得ルト認メタルトキハ始メテ全權大使ヲ任命スベシ。

六 第二軍兵站司令部北大房身ニ開ク(開原ノ北約二里半)

六月十三日 輕便鐵道使用ニ關シ左ノ通牒アリ。

電報 六月十三日午後二時十一分大連着

兵 站 監 宛

落 合 少 將 ヨ リ

爾今輕鐵材料ノ修理ハ第二輕便鐵道班修理工場ニテ行ハシム依テ自ラ修理シ能ハザルモノハ適宜之ヲ取纏メ奉天停車場東南方ニ位置スル該鐵道班ニ送附シ修理ヲ請求セラレタシ。

各地ニ於ケル輕便鐵道ノ運轉ヲ見ルニ單ニ使用スルノミニシテ之ガ保存ニ注意スルノ度簿シ例ヘバ運搬法亂暴ニシテ衝突ヲ起シ又ハ轉覆シ殊ニ油壺ヲ備フル臺車少ナシ。

右直ニ營口、柳樹屯支庫長竝ニ撫順、新民屯、高力屯出張所長等ニ通達セリ。

同十三日 左記命令遼東兵站監ヨリ傳達セラル。

副第一、三七一號第一(六月二日付)

滿州軍總司令官ノ命令

清國內ニ於ケル軍需品及酒保品ハ軍用手票ヲ本位トシテ其價格ヲ定メ同手票ヲ以テ販賣セシムベシ

六月十三日 支那船保管ニ關シ左ノ通牒アリ。

兵 站 監 宛

總 兵 站 監 ヨリ

太子河鐵道橋ノ上流五百米突ノ地ニアル總司令部保管ノ支那船百五十艘附屬檣帆トヲ含ムハ爾今貴官ノ保管ニ移サル。

此支那船ハ解氷又ハ洪水ニ際シ渾河及ビ太子河ニ於ケル軍橋材料ニ引當テタルモノ。

右ニ付遼陽支庫長ヘ左ノ如ク電報ス三十四日午前六時

小北河ノ軍橋ハ取除クコトニ決ス○太子河ニアル舟ハ三分ノ一ヲ殘シ、他ハ渾河鐵橋附近ニ送ルコト、ナレリ。之ヲ送ル方法ヲ研究シ意見申出ヅベシ。

右ニ對シ岡本主計ヨリ左ノ返電アリ二十四日午後十一時

小北河ノ橋取除キノコト承知○太子河ノ船ハ出水豫防ノ爲メ高地ニ引揚ダ

アルモ渾河鐵橋附近ニ送ルコトナラバ之ヲ小北河ニ下シ渾河ヲ上ボス一艘ニテ二艘計リ曳船トシ時日ハ約二週間ニテ達スル見込ミナリ。費用ハ跡ヨリ申告ス。

同十三日 被服陣具類報告方ニ關シ安東縣派出所長黒田主計ヘ電報セシニ左ノ返電アリ^{午後九時三十分}大連受^三

被服陣具ノ受拂ニ就テハ報告スベキ事項ナシ。該品ハ目下兵站司令部ニテ取扱ヒ居レリ。未ダ引繼キヲ受ケズ○該品ノ取扱振ハ野戰軍ニ屬スルモノハ直接當所ニ於テシ、遼東兵站監部統轄部隊ニ屬スルモノニ限リ、兵站司令部ニ交付スル儀ト存ズ。果シテ然ラバ引繼ギヲ申込マザルベカラズ、如何○目下司令部ニハ被服品等ノ野積ニナシアルヲ見受ク。

右ニ付左ノ如ク返電ス^{二十四日夜十時}大連發^十

答、被服モ品ニヨリ倉庫ニテ扱フモノアリ。兵站司令部ニテ扱フモノアリ。一概ニ言フベカラズ。此等ハ貴官ノ見込ニテ兵站司令部ヘ掛合ハルベシ。

六月十三日 在永陵鴨綠江軍管理部ヨリ電報午後十時

過日ノ煙草尙ホ分配ヲ受ケ得ルヤ。種類ト數量ヲ併セテ返待ツ。

右ニ對シ、鴨軍經理部長へ電報四十分午前八時

酒保品貴軍管理部ヨリ煙草、後備第一師團工兵大隊ヨリ煙草ト酒ノ依頼アリ。

共ニ承知セリ。然レドモ當倉庫ニテハ斯ノ如キ小部隊各個ヨリ申越サル、

トキハ比較的手數ヲ多ク要スルノミナル故貴部ニテ取纏メ申越サル、様セ

ラレタシ 返。

右ニ對シ左ノ返電アリ 二十六日午後五時

答、當部ニテ取纏ムルハ徒ラニ手數ヲ増ス儀ニ付、今後師團及兵站經理部ニテ

纏ムルコトニ交渉シ置ケリ。

同十三日 遼陽岡本主計ヨリ電報午後十一時

李石築ヨリ左ノ電報アリ○第一軍兵站司令部前進ノ命受ク○引繼ギノ都合

アリ。明後十五日糧秣一萬人ノ一日分送ラレタシ。

右返電 午後十一時三十分大連發

答、李石築へ最早糧秣ヲ送ル要ナシ。

六月十四日 鐵嶺前田支庫長ヨリ電報午前八時五十分

第十列車ニテ黑麵麩四百六十捆(一捆九貫五百匁)送レリ。宰領者乘後レタ。

送狀ト共ニ次ノ列車ニテ送ル。

同十四日 豫テ衛生材料補給品ニ充ツル爲メ購買ヲ命ジ置キタル「クリーム」ノ

件ニ付新民屯米田主計ヨリ左ノ電報アリ 午前三時五十分大連受

「クリーム」ハ松井藥劑官試驗セシニ品質宜シク一箱ニ付平均一個ノ腐敗アル

モ三、四個月ノ貯藏ニハ差支ナシト○價ハ一箱拾貳圓(軍票此地ニ五百箱天津

ニハ千三百箱アリ。幾箱買入レテヨキヤ。

右返電 午前四時三十分大連發

電見タ。多數ノ購入不利ナリ。一千箱豫定ノ半數丈購入アレ。

同十四日 安東縣派出所長黑田主計ヨリ電報午後三時五十分大連受

今左ノ報告ニ接ス〇五月二十八日當地發外察溝行米二百六十五噸積込ノ船一艘六月三日鴨綠江上流約二百五十清里ノ地點コトウヨウチル淺瀬ノ急流ニテ轉覆シ昨夜當地ニ着セリ。積載品ハ悉ク浸水用ヲナサズ。但シ紛失ナシ。右ハ全ク旋風ノ爲メニテ不可抗カト認メラル〇未ダ率領者ヨリ報告ナシ〇右報告ス。

右直ニ遼東兵站監ヘ報告セリ。

六月十四日 撫順小野主計正ヨリ電報午後二時五分大連受

當地ノ兵站輸送力漸次増加シ從來集積ノ糧秣日々減少シ己ニ前送スベキモノナシ。毎日後方ヨリ送り來ル糧秣ノミニテハ輸送力ニ餘リアリト云フ。此ノ際ナルベク多ク前方ニ送ルノ必要ヲ感ズ。出來得レバ當分ノ内現在ノ二倍位送ラレタシ。

同十四日 安東縣派出所長黒田主計ヨリ電報午後三時五分大連受

當所ニ於ケル缺損及損敗品ノ承認並ニ處分ハ下官ニ於テ取扱ヒ然ルベキヤ。

將々一々検査ヲ受クベキヤ。返待ツ〇目下浸水品等處分ヲ要スルモノアリ。右返電午後六時五分大連發

損敗品ノ承認及處分ハ本職ニ伺ヒ出ヅルヲ要ス〇鴨綠江水路輸送ニ關スル浸水品ハ貴官之ヲ處置シ本職ニ報告スベシ。

同十四日 守田見習獸醫ヲ新民屯ニ派遣セシニ同日午後五時二十五分金子營口支庫長ヨリ守田今着イタ。明日新民ニヤルトノ電報アリ。

同十四日 安東縣派出所長黒田主計ヨリ電報午後三時十分大連受

當所人少主計計手ノ増員御詮議ヲ乞フ。旭(主計)ハ是非共當所附トセラル、様交渉アリタシ。同人ヲ歸任セシムルトキハ同人ノ分擔ニ對シ數人ノ主計ヲ要スルコト、ナル。

同十四日 鐵嶺前田支庫長ヨリ電報午前一時十分大連受

一個師團分ノ補給ノ爲メ老邊ニハ計手一ト輸卒五ヲ派遣シ吉井主計ヲシテ兼勤セシメアリ。三面船出張所モ斯ノ如キ程度ニテ可ナルヤ〇通江口ト小

塔子ノ倉庫地ハ吉井主計ヲシテ調査セシメタリ。共ニ河岸ハ浸水ノ恐れアリト○惟フニ小塔子ハ第三軍ニ便ナル丈第二軍ニ不便ナリ。又同地ハ右岸ニアル故出水時ニ交通ヲ絶ツノ恐れアラシカ。要スルニ兩所ニ出張所ヲ置クヲ可ナリトスル意見ナリ。此ノ地ノ爲メ當地輸卒一隊ヲ引當アルモ目下當地ノ業務ハ非常ニ多忙ニシテ其力不足ナリ。爲シ得レバ別ニ一隊半ヲ同所ノ爲メ派遣セラレタシ○當地着ノ糧秣貨車ハ日々約三百乃至三百五十ナリ。此儘ニテ故障ナケレバ各軍ヲシテ約二十日分ノ貯藏ヲナサシムルモ、七月中ニハ豫定量ヲ集積シ得ル見込ミアリ。

同日又左ノ電報アリ午後八時五分大連受

老邊ヲ止メ三屯子ニテ補給スルコトハ協議濟ミ。本日ヨリ實行ス。

右返電午後十一時五分大連發

三面船出張所ハ貴官ノ意見通りニテヨシ○馬蜂溝出張所目下ノ情況如何。

同兵站部ヨリノ請求ニヨリ、通常糧秣及加給品ハ直接同出張所ヨリ交付スベシ○第二第四軍ヨリ請求ノ糧秣ハ各軍ノ準備量ニ要スル分ハ交付セラルベシ(六月十二日前田支庫長宛電報參照)○小塔子ニ入用ノ輸卒隊ハ其筋へ請求中。

同十四日 第六師團經理部長ヨリ電報午後七時十分大連受

補充員到着ノ爲メ夏衣袴、襦袢、袴下大三百、中二百、小百着及垂布、日覆、防蚊覆面六百個ヅ、不足シ、支給ニ差支居レリ。貨物廠ニ請求シアルモ至急ヲ要スルヲ以テ繰替交付セラレタシ。折返シ、返乞フ。

右返電夜十二時大連發

答、夏服類ハ當庫ニ準備品ナシ。目下貨物廠ヨリ追送品アルモ、各部隊宛ノ札付品ニ付繰替難シ。

同十四日 撫順出張所小野主計正へ電報午後十時大連發

鶴、左ノ通り交付スベシ○現品ハ大連ヨリ送ル○鴨綠江軍へ百貫。

同時ニ鐵嶺前田支庫長へ電報。

稿、左ノ通り交付スベシ。○現品ハ大連ヨリ送ル。○滿洲軍總司令部ヘ二十頁、第一、第二、第三、第四軍ヘ各百七十貫。

六月十四日 大連碇泊場司令部ヨリ左ノ通牒アリ

電報同 十四日午後一時七十分東京發
午後一時五十八分大連着

宮崎 中佐 宛

運輸通信長官ヨリ

大連營口間ノ専用船トシテ更ニ勢徳、相川、田ノ浦、阿蘇山、空知、盛運、第二元山ノ七隻ヲ其部ニ專屬ス。

同十四日 撫順出張所ニ關シ、西川兵站參謀長ヨリ別紙電報寫ヲ以テ通知アリ。

(別紙)電報寫 六月十四日 午後零時十五分奉天發
午後二時十八分大連着

井口兵站 監宛

總兵站 監ヨリ

撫順ニハ滿倉支庫ヲ設置スル筈ナリシモ人員ノ不足ト支庫ヲ要セザル理由ニテ同地ニハ滿倉ノ派出所ヲ設置スルニ決定サレタリ。依テ其通り承知サ

レタシ。

右寫ヲ撫順派出所ニ送付セリ。

同十四日 補給糧秣ノ割合ニ關シ遼東兵站經理部長ヨリ左ノ通牒アリ。

總經理發五十號六月十一日付

片山總經理部長ヨリ訓令

自今各軍ニ要スル糧秣ハ左ノ割合ニ依リ交付方取計フベシ。

- 一 精米 四合
 - 一 挽割麥 二合
 - 一 携帶口糧 一個月ニ付五日分以内
 - 一 副食物 定量三分ノ二以内
- 但漬物類及調味品並ニ飲料ハ定量トス
- 一 加給品ハ一個月一名ニ付左ノ割合ニ依ル
 - 一 清酒 五合

- 一 甘味品 七十五匁
- 一 卷煙草 百五十本

- 一 大麥 五升
- 一 干草 約三百匁

但輸送便利ナル地ニハ定量迄。

右ニ付同夜二時三十分鐵嶺奉天撫順新民屯安東縣營口柳樹屯遼陽高力屯ノ各支庫長出張所長ヘ電命セリ。

但鐵嶺ニハ左ノ一項ヲ加フ○吉井主計ヘハ貴官ヨリ電命アレ。

六月十四日 遼東兵站監ヨリ左ノ命令アリ

副第一六四號

明治三十八年六月十四日

遼東兵站監 井口省吾

滿洲軍倉庫長 日 匹 信 亮 殿

近來新民屯ニ輸送シ來ル生牛ハ二百乃至三百頭アル由ニ付貴庫ニ於テ之ヲ

購入シ各軍ニ補給スベシ但シ該地ニ於テ買入ルルヲ得策トスルヤ或ハ主計ヲ派遣シ清國某地ニテ買入ル、ヲ有利トスルヤハ漸次調査ヲ爲シ又第一、第二、第四軍ニハ鐵嶺ニテ交付スベシ。

同十四日 第二軍ノ糧秣支給ニ關シ遼東兵站參謀長ヨリ左ノ通牒アリ。

電報 六月十三日 午前十一時十七分 奉天發 正午十二時大連受

西川參謀長宛

總司令部 尾野參謀ヨリ

第二軍ヘ糧秣支給ノ件ハ多少第二軍ノ計算ニ違ヒアリシ故先日電報セシ通リニ支給スルヲ要セズ。併シ貴官ノ主義トセラル、先ヅ鐵嶺ト小塔子ニ全軍ノ一ヶ月分ヲ蓄積シタル後、各軍ノ分ヲ集積スル方法ハ適當ナラザル様思ハル。是レ軍ヘノ補給ハ兩期ガ近クナル程道路惡シクナリ輸送困難トナルニ付、先ヅ各軍ノ分ヲ集積シ、然ル後チ鐵嶺等ニ集積スルヲ可トス。鐵嶺ニ一ヶ月分ヲ集積シ終リテモ軍ノ近傍ニ集積シアラザレバ万一ノ場合何ノ效能ナシ。又鐵嶺小塔子ニハ滿倉ニテ糧秣ヲ入ル、ノ設備急ニ出來ズ。目下鐵

嶺ニテモ糧秣ハ先ヅ野曝シト云フ情態ニアリ。各軍ニテハ在來ノ家屋等ヲ利用シナントカナスヲ得。依テ當方ニテ制限セシ分量ヲ超エザル以上ハドシシ支給サレテ可ナリト信ズ。

船ヤ汽車ノ輸送力増加ノコトハ大本營ニ督促サレタリ。

六月十四日 鐵嶺前田支庫長ヨリ電報午後十一時五分大連受

糧秣貨車ノ日々當地ニ着スルモノ三百六十貨車ナリ。之ヲ整頓スルニハ現在輸卒隊ノ力ニテ不足ナリ。輕便鐵道三哩臺車百臺都合ツカザルヤ。

六月十五日 第三軍兵站經理部長ヨリ電報午前零時四十分大連受

糧秣前送割合ニ付總經理部長ヨリ達セラレタリ。薪炭追送ニ就テ割合ハ定メラレザルヤ。若シ内定シタルモノアラバ當軍ヘノ追送割合承知シタシ。

右返電午前二時三十分大連發

答、薪一萬八千貫、炭五千貫ノ答〇コレハ頗ル概算ナリ。又一人割トシテ算出ノ基クトコロアルニアラズ。只貴軍ヘ送ル數量ナリ。

同十五日 遼陽岡本主計ヨリ電報午前零時五分大連受

仙金寨行キ三列車ハ仙金寨ト李石寨トノ間ニ故障アリテ李石寨ニ卸セリ。

右ニ對シ、左ノ如ク返電セリ午前九時四十分大連發

答、李石寨ヘハ糧秣ヲ卸シテハナラス。卸シタルモノハ致シ方ナシ。今後直通セザルモノハ遼陽ニ卸セ。

右ニ付鐵道提理部ヘ交渉ノ上在撫順小野主計正ヘ電報午後六時十分大連發

汽車不通ノ爲メ李石寨ヘ卸シタル糧秣ハ再ビ汽車ニテ其地ヘ輸送セラル、約束濟。

但、右仙金寨行ハ同日第十列ヨリ開通セル旨遼陽支庫ヨリ電報アリ。

同十五日 遼陽岡本主計ヘ電報午前一時大連發

醬油製造場ノ修繕ハ石井部長ニ協議濟ミ〇左ノ通り午前四時頃其地ヲ通ル藤田主計ヘ傳ヘヨ〇李石寨ト仙金寨間ノ鐵道故障アリ。貴官ハ撫順行キヲ止メテ直ニ新民ニ至ルベシ〇鹽鯛ノ直段ハ先ヅ一貫目壹圓ト定メタリ。

右ニ對シ岡本主計並ニ藤田主計ヨリ何レモ返電アリ。

六月十五日 各支庫出張所長へ電報午前一時二十分大連發

薪、雨覆其他何品ニ限ラズ、支庫出張所等ニテ現ニ使用シアルモノハ帳簿上ヨリ拂出シ、並ニ諸報告ニモ必ズ之ヲ除クヲ要ス。

同十五日 在奉天滿洲軍總經理部今井主計正へ電報午前二時三十分大連發

第二、第三、第四軍ノ爲メ日々薪約七萬貫炭約二萬貫送レトアリ。一人一日幾何ノ割ナルヤ。算出ノ基ヅクトコロ聞キタシ。

右ニ對シ、左ノ返電アリ午前九時二十三分大連受

答、薪一人一日二百五十匁炭五十匁宛ナリ。但、炭ハ日量一萬四千貫ヲ要求シアリ。

右ニ付大連、柳樹屯ヨリ營口廻シノ船ニハ薪五炭一ノ割ニテ勉メテ之ヲ上積ミトナスコト、シ、尙左ノ如ク電報セリ。

高力屯村岡主計へ夜零時五十分大連發

其地ヨリ積出ス薪炭ノ分量ヲ今後毎日日本職ト鐵嶺支庫長へ電報スベシ。

金子營口支庫長へ夜二時五十分大連發

今後其地在庫品ノ範圍内ニ於テ毎日炭一萬貫薪三萬五千貫宛水路輸送取計ラベシ。

遼陽岡本主計へ電報夜二時五十分大連發

今後毎日六十車ヲ以テ薪七萬貫炭一萬四千貫宛鐵嶺ニ前送ノ筈○貨車ハ提理部ト略ボ協議濟ミ確カナコトハ明日午前中ニ電報ス。

同十五日 新民屯米田主計ヨリ電報午前零時三十分新民屯發

過日來第三軍ニ渡シタル内三面船ニテ牛疫ニ罹リ斃レタルモノアリ。依テ七日間買入中止シ吳レト大江部長ヨリ電アリ○中止セバ折角集リカケタモノガ中絶スル恐アリ。故ニ其間日々二、三十買入レ高力屯ニ送り遼河右岸雜草繁茂セル地ニ監視ヲ附シテ飼養シ置キタシ○村岡主計トモ協議濟ミ。

右ニ對シ左ノ如ク電報ス午前九時五十分大連發

答、生牛ハ總テ鐵嶺ヘ直送ノ方法ヲ研究スベシ。毎日曳キ來ル牛ハ皆買入
レテヨシ。藤田主計昨日出發、其地ニ歸レリ。明日迄ニハ新民ニ着クナラン
同官ノ指揮ヲ受ケヨ。

六月十五日 鐵嶺前田支庫長ヨリ電報午前十一時三十分鐵嶺發

馬蜂溝出張所ハ本官直接管理シ、同地ヘ三等計手吉田利吉ヲ派遣シアリシモ、
病氣ニテ去ル十三日入院セシ故、庫手足立重雄ヲ選拔派遣シ、之ニ輸卒十名ヲ
附シアリ。

右返電午後六時十分大連發

馬蜂溝ヘ士官ノ兼務者ヲ置クベシ。

同十五日 營口ヨリ到着セシ稻垣嘉平ニ臨時通譯ヲ命ズ。

同十五日 鐵嶺前田支庫長ヨリ電報午後零時二十分大連受

先キニ報告セシ豆粕ノ件ハ其後總經理部ノ命ニ依リ見本ヲ商人ニ渡シタ。
右ニ付今度ハ總經理部ノ手ニテ賣ラル、ガ如シ。最モ未ダ判然賣却スルト

云フ命令ハナキ故、下官ノ推測ナルモ早晚賣拂フモノ、如シ○藤田今着イタ。
是レヨリ先、橋元奉天支庫長ヨリモ左ノ報告アリ六月八日付

戦利豆粕ノ件ニ付總司令部ニ於テ都合ニヨレバ賣却スル計畫アルヤニテ本
日別紙ノ書面三井店員持參致來候ニ付現品ハ一覽セシメ候間御參考マデ及
報告置候也

(別紙)

戦利豆粕ヲ都合ニヨレバ賣却セントノ積リニテ過日來尾野參謀ヨリ營口
與倉中佐ト交渉ノ所今回在營口三井支店長ヲ當部ニ派遣シ實物ヲ見セタ
シトノコトニテ本日右支店長來奉致候ニ付テハ同人ヲ貴支庫ニ出シ候間
實物ヲ一應見ルコトヲ許サレ度此段照會候也

六月八日

總司令部 小澤參謀

奉天支庫長殿

追テ尾野中佐ハ目下留守ニ付御承知アリタシ

右ニ付奉天橋元支庫長へ電報午後六時十分大連發

左ノ通り總經理部長ニ稟議セヨ。

倉庫品ヲ倉庫長ニ全然知ラサズシテ直接商人ヲ呼ビテ賣却セラレテハ倉庫長ノ顔ガ立タヌ。少ナクモ賣却前ニ商人ノ名前ト直段ト條件ヲ聞カセテ貰ヒタイ。其レヨリ有利ナル買手アラバ倉庫ニテ賣却スルコトニシテハ如何ト。

豆粕ノ見本ヲ至急營口金子へ送レ。

右ニ對シ總經理部長ヨリ左ノ返電アリ午後十時三十分大連受

奉天支庫長へ電報ノ豆粕賣却ノ件ハ未ダ決定シアラズ。決定セバ保管者へ賣却ヲ命ゼラルベシ。委細ハ藤田主計へ傳言セリ。

猶橋元支庫長ヨリモ左ノ返電アリ同夜二時大連受

電命ノ件直グ總經理部長ニ稟議シタリ。然ルニ未ダ賣却ト決定シタルニアラズ。決定セバ保管者ニ命令ナルヨシニ付御承知アリタシ。

次デ又左ノ返電アリ十六日午前八時大連受

昨夜ノ電ハ意義明瞭ヲ缺ク。賣却決定セバ其取扱ハ保管者ニ命令ナル筈トノコトナリ。

六月十五日 在テウカダイ遊佐獸醫ヨリ電報午後三時三十分大連受

第六師團騎兵及砲兵隊ニテモ干草及代用品ノ地方調辨出來ズト云フ。出來ル丈多數前送ヲ望ム。

右返電午後六時三十分大連發

答鐵嶺ニテ第四軍兵站へ干草ヲ交付シアリ。其後ノ送り方ハ軍ニテヤツテ貰イタイ。軍ノ兵站へ催促スレバヨイト答ヘヨ。

同十五日 金山第四軍兵站經理部長ヨリ電報午後二時五十分大連受

生味噌ノ輸送ヲ希望ス。若シ輸送出來ザレバ當地ニテ調辨ス。返。

右ニ付遼陽岡本主計へ電報午後六時十分大連發

其支庫ニテ出來ル丈ケノ陣中味噌ヲ日々鐵嶺へ送ルヲ要ス。返。

右ニ對シ、左ノ返電アリ午後九時二十分大連受

答、陣中味噌ハ勉メテ送リツ、アリ。

六月十五日 鐵嶺前田支庫長ヨリ電報午後五時十分鐵嶺發

各軍準備糧秣ノ補給ヲ充タス爲メ、罐詰、鹽干魚、粉味噌、砂糖、茶、乾野菜、エキス各

二百日、漬物三百日分急送セラレタシ。

右ニ付キ金子營口支庫長へ電報午後十時十分大連發

漬物百五十日、砂糖百日、罐詰八十日ノ三分ノ二ヲ至急鐵嶺へ前送セヨ○漬物、罐詰、砂糖ノ順ニ。

斯クテ、其餘ヲ大連ヨリ送付セリ。

同十五日 金山第四軍兵站經理部長ヨリ電報午後十時十分大連受

購買依頼ノ生野菜ハ目下ノ暑氣ニ堪ヘズ腐敗缺損多シ。依テ輸送ヲ止メラレタシ。

右ニ付直ニ營口金子支庫長新民屯米田主計へ其旨電報セリ。

同十五日 兵站監部會報要領。

一 鳩灣ニ輸入セシ生牛中ニ三頭ノ病牛アルヲ發見セシニ依リ、同地ノ生牛輸入ヲ禁ズ。

二 鴨綠江ノ水路輸送ハ全部止ムル筈。

同十五日 三等主計柳本鶴三郎遼陽支庫ヨリ大連本倉庫へ着任セリ。

同十五日 在奉天藤田主計ヨリ電報。

其一午後七時十分大連受

總經理部ニ至ル○(一)牛ノ件三百頭トハ各軍ガ一頭モ調辨セヌトキノ數ナレバ調辨實施ノトキニハ互ニ連絡ヲ取リテ加減ヲ要スルコト(二)豆粕賣下ゲヲ參謀部ガ行ハントセシハ總司令部ノ經理業務ヲ是迄參謀部ガヤリ來リシ結果ナルモ、今日ニテハ經理部ノ手ニ入レタリ。三井ノ評價大壹枚六、七拾錢、營口マデ送り古キモノモ混ジアル様子(三)加給品ヲ酒保品トシテ前送ノ件。酒ハ一ヶ月五合以上ノ支給ハ軍醫部ノ意見デハ有害ナリト。故ニ此以上ノ支

給ハ困ルモ、一人一月正味五合口ニ入ル様前送セラルレバヨカラシ(先ツ一升位ノ宛ニセバ以上ノ要求ニ應ズベカラシ)

其二十五分後七時二十

撫順支庫ハ單ニ鴨軍ノ爲メノミナレバ支庫ノ設置ヲ止メ、鴨軍兵站ニ讓ルト
今井ノ言ナリシモ、既ニ倉庫ノ準備モアレバ出張所ニテモヨシ、存置ヲ要スト
答ヘ置ケリ○小塔子ハ今後第三軍ノ爲メノ補給地トナル故支庫ノ小ナルモノヲ開設スルコト、ナルト○同地ヨリ或ル方面ニ輕鐵ヲ敷設セラルト云フ。

其三十分後六時五

今井ト談シタル結果左ニ○大連ニテ捕レル魚類ヲ鹽ニシテ送ルコト同意續
續前送アリタシト○又曰ク倉庫製ノ味噌ハ昨今ノ暑氣ニテ酸味ヲ帶ブト前
線ニテ云フモノ多シ。製造ニ改良ヲ望ム。又軍ノ前進ニ伴ヒ、味噌ノ製造所
ヲ鐵嶺ニ設ケル譯ニハイカヌモノカト。味噌改良ノコトハ目下研究中ナリ
ト答ヘ置キタリ。「ウーロー」ノ外ニ毛皮若干ノ調辨ヲナスヲ要スル筈ナリト。

右ニ付營口金子支庫長遼陽岡本主計ヘ電報午後十一時十分大連發

奉天出張中ノ藤田ノ報告ニ倉庫製ノ味噌ハ昨今ノ暑氣ニテ酸味ヲ帶ブト前
線ニテ云フモノ多シ製造ニ改良ヲ望ムトアリ○研究ヲ要ス。

右ニ對シ、遼陽岡本主計ヨリ十六日午前一時三十六分遼陽發

藤田主計報告味噌ノ件承知ス。

翌十六日 在奉天藤田主計ヨリ電報午前七時二十五分奉天發

今ヨリ新民ニ向フ○今朝ノ雨ニテ又當地ニ宿泊ヲ要スルヤモ知レヌ。

六月十五日 大連、營口間航行船ニ關スル電報遼東兵站參謀部ヨリ送付アリ。

電報 六月十四日午後五時十五分東京發

參謀長 宛

大島兵站總監部參謀長ヨリ

從來大連、營口間ヲ往復セシ三十五隻ノ内四隻ハ故障ヲ生ゼシニ付、本日更ニ
内地、營口間使用中ノ七隻ヲ大連、營口間ニ用キルコトニ命令セリ。本月二十
日後ニハ右ノ増加ヲ得ル見込ミ。以上ノ積荷噸數合計七万四百八十四噸ナ

リ。故ニ今後營口ニハ毎日平均一往復ニ十日ヲ要スルトシテ約七千噸即チ三十五師團分(一師團ヲ二百噸ト見積ルモ)ヲ揚ゲ得ル計算ナリ。然シテ航海某地故障ノ爲メ五分ノ一ヲ差引クモ、毎日約五千六百噸即チ二十八師團分揚陸スベキヲ以テ御希望ヲ充タヌヲ得ン。委細手紙。

六月十四日午後九時十分發電

大本營大島大佐宛

西川參謀長ヨリ

五月中實際ノ揚陸高百四十萬噸ニシテ一日ノ平均十八師團半、前送數ハ百二十萬噸ニシテ、一日平均十六師團分ナリ。此揚陸數ニ對シテ此以上ヲ前送スルハ困難ナリシ。其理由ハ海上輸送ハ天候等ニ依リ一種類ノ品ノミ續キテ到着スルコトアリ。而シテ營口ヨリ前送スル場合ニハ概ネ各種ノ物品ヲ配合シテ送り出サザルヲ得ズ。從テ營口ニ若干豫備ヲ置キ、運送船到着ノ景況ニ應ジテ前送品ノ繰合ヲナス必要アレバナリ。前方ニ於ケル豫定ノ集積日ノ所要ヲ充スニハ、兼テ電報セシ如ク、營口ヨリ日々二十六師團分(大連ヨリ

目下ノ如ク日々約十師團分ヲ送ルトシテ)ヲ送ラザルベカラズ。故ニ之ヲ基準トシテ前送ノ準備ヲナシ、遼河ノ船等ヲモ雇入レアリ。然ルニ五月中ハ十六師團以上ヲ前送シ得ザリシ。又六月ノ始メニ至リ揚陸力稍増加セシモ尙日々二十六師團分ノ揚陸數ヲ得ルニハ不足ス。其計算下ノ如シ。○運送船一隻ノ積載量ヲ師團ノ六日分(稍少キ如キモ糧秣以外ノ輸送品アル故)一隻平均一萬五千噸ト概算ス。トスレバ、毎日平均四隻ト三分ノ一即チ一個月百三十隻ノ揚陸ヲ要ス。而シテ一個月三往復半以上ヲ望ミ難キヲ以テ、三十七隻アルニアラザレバ毎日平均四隻三分ノ一ヲ揚陸スル能ハズ。三十七隻ニ豫備一割ヲ加ヘ、四十一隻ヲ所要數ト算セリ。○大連ヨリ發スル列車増加スルニ至ラバ船ノ數ヲ減ジテ可ナル理ナルモ、營口ニハ冬期準備トシテ多數ノ集積ヲナス計畫ナルヲ以テ、假設汽車ノ運轉ヲ變ゼラレテモ大連營口間ニ使用スル船ハ四十隻ヨリ減ゼザル様取計ハレタシ。

六月十五日 大連碇泊場司令部ヨリ亦左ノ通牒アリ。

電報 五月十日

一一二

大連碇泊場司令部 山口海軍中佐宛

大本營岸本參謀ヨリ

答、營口揚陸ニ就テハ最モ重キヲ置テ調査シ居レリ。五月初メヨリ五日毎ニ營口ノ集積糧秣ヲ調査シタルニ五日師團ノ五十六日分、米ノミニ付テ云フ其他概ネ之ニ準ズ、十日ニ七十日分、十五日ニ八十八日分、二十日ニ百二十一日分、二十五日ニ二百八十九日分、六月一日ニ二百三十三日分、五日ニ二百十四日分、十日ニ三百一日分アリ。漸次集積量増加シテ北方ヘノ轉送力不足ノ感アリ、又實際營口碇泊場ノ調査ニ依レバ揚陸力ハ發送力ニ優ルト云フ。又運送船ノ積荷噸數ヨリ一日營口揚陸量ヲ計算スレバ、大連營口間ノ運送船五分ノ一ハ常ニ故障ナシトシテモ、營口ヘ一日ノ揚陸量ハ内地營口間ノモノト合シテ約四千七百噸ナリ(本月中旬)然ルニ營口ヨリ北送力ハ一日平均最大限四千二百噸ナリト云フ。然ルトキハ實際ト計算ハ恰モ相合スルコト、ナル。本城モ

遼東兵站監部ノ計算ハ分ラヌト電報シ來レリ○營口揚グ石炭ハ恰モ本日ニテ發送濟トナレリ。依テ更ニ七隻ヲ大連營口間ニ増加セリ。要スルニ遼東兵站監部ハ總噸數ノミヲ計算シ、積荷噸數ヲ知ラザル結果ナラズヤト思ハル。又七月一日ヨリハ大連ヨリ汽車ハ十二列車トナル豫定ニ付、營口ヨリノ發送力ヲ滿タスタメニハ此上運送船ヲ増加スル必要ナシト存ズ。但シ實際不足ナレバ如何ナル手段ヲ取ルモ其希望ニ合スルコトヲ務ムル考ナリ○前ノ計算ハ三十隻トシテナセルモノナリ。七隻ヲ増加スレバ尙ホ増加スルコト、ナル。

六月十五日 新民屯米田主計へ電報午後十一時大連發

現今新民、高力間ノ輸送ノ狀況○一柵ニ付テノ運賃等直グ電アレ。

右ニ對シ、左ノ返電アリ詞夜三時五分新民屯發

答、輕便線ノ苦力熟練ノ結果漸次輸送力ヲ増大シ、中間ノ中繼所マデ三回ノ往復ハ優ニ運轉スルコト、ナレリ(輸卒隊ハ此所ヨリ右岸マデ運轉ス)昨日ハ總

一一三

數約七百臺ヲ運轉シ、米麥約八千七百捆ヲ運搬シ、本日(十五日)ハ三回往復シテ
總數八百六十輛運轉シ、米麥約一萬二千捆ヲ運搬ス。馬車ハ使用セズ。目下
停滯ノ糧秣ナシ。○苦力一日七拾錢、一臺二名ツ、ニテ壹圓四拾錢、米ナラバ三
十六個、麥ナラバ五十四個ヲ運搬ス。故ニ米一個參錢九厘、麥一個貳錢六厘ト
ナル。

六月十五日 鐵嶺素倉建築ノ件ニ付遼東兵站監ヘ左ノ申請電案ヲ提出セリ。

兵站監ヨリ總兵站監ヘ電案

滿倉鐵嶺支庫「プラットホーム」雨除ケトシテ吹拔素倉千八百坪戰地建築部ヲ
シテ至急建設セシメラレタク申請ス。

右ニ付鐵嶺前田支庫長ヘ電報午後十一時大連發

千八百坪ハ小塔子、通江口、馬蜂溝等ニ分ツ必要アル故鐵嶺ノ「プラットホーム」
ノ吹拔屋根千八百坪ノ建築ヲ本日總兵站監ヘ申請セリ。參考迄ニ
同十五日 鴨軍兵站經理部長ヨリ電報午前一時大連受

當兵站管區支那馬ニ要スル馬糧缺乏ニテ折角集メタル馬車モ逃グ歸ル恐レ
多シ。聞ク所ニヨレバ奉天支庫ニ戰利品高粱三萬石、豆餅百二十萬貫アリト。
之ヲ讓リ受ケタキニ付、支倉庫ヘ御命令アリタシ。奉天撫順間ノ輸送ハ當部
ヨリ直接支倉庫ニ協議シタシ。何分ノ返待ツ。

此件ニ關シ六月十九日午前十時奉天橋元支庫長ヨリモ左ノ電報アリ
鴨軍常備支那馬車用トシテ毎日豆粕約九千貫、高粱約五百石ツ、撫順ニ送ル
コトニナルト云フ。此ノコトハ總經理部ヨリ改メテ順序ヲ經テ命令ニナル
トノコト。又其レヲ送ルニハ當地ヨリ石炭運搬用トシテ毎日約三十貨車ツ
ツ仙金樂迄空車ニテ行クカラ、其レヲ利用スレバ送ルニハ差間ナシ。以上御
參考迄。

同十九日ニ至リ遼東兵站參謀長ヨリ左ノ通牒アリ。

電報午前十一時四十五分奉天發
同十一時七分大連着

參謀長宛

總兵站參謀長ヨリ

鴨軍ニ支那馬糧ノ必要アリ。滿倉奉天支庫ニアル戰利品ヲ撫順ニ移シ、毎日左ノ通り同軍ニ交付セヨ。但鐵道提理部及奉天支庫ヘハ直接交渉セリ。高粱約五百石、豆餅約九千貫。

同十九日橋元支庫長ヨリモ亦左ノ電報アリ午後十一時五分大連受

撫順方面ニ豆粕ト高粱ヲ送ルコトハ總兵站參謀長ヨリ遼東兵站參謀長ニ通牒ニナリタル由ニ付、其レヨリ貴官ニ通知アリタルコト、思フガ、差向キ今後二列車(十一車)ヨリ輸送ヲ始ムルコトニナリタルニ付報告ス。

右ニ對シ、橋元主計ヘ返電十九日夜零時三十分大連發

高粱約五百石豆餅約九千貫ヲ毎日汽車ニテ撫順滿倉出張所ヘ送附スベシ。同時ニ撫順小野主計正ヘ電報。

鴨軍ノ支那馬車用トシテ奉天支庫ヨリ毎日高粱約五百石、豆餅約九千貫送リ來ル筈。鴨軍兵站部ヘ交付スベシ。

六月十六日 李石寨出張所長坂計手ヨリ電報午前五時十分李石寨發

當地兵站部明十七日ノ糧秣ナシ。一萬人ノ一日分遼陽ヨリ本日四百七列ニテ送ラル、様命令アリタシ。

次デ又電報アリ午前六時五十分李石寨發

昨日故障ノ爲メ四百十五列車ノ精米當地ニ卸セリ。本日仙金寨ヘ送ル様提理部ヘ申請シ置ケリ。

同十六日 李石寨兵站司令部(佐本)ヨリモ左ノ電報アリ午前六時二十分李石寨發

豫テ當部糧秣缺乏ノ爲メ請求中ノ處貴官ノ御命令ナケレバ交付出來ズトノコトナリ。至急一萬人ノ一日分遼陽支庫ヨリ送付スベキ様御命令アリタシ。右ニ對シ同日午前九時三十分糧秣ハ其地出張所ヨリ受領セラレタシト返電シ、併セテ長坂計手ヘ左ノ如ク電報セリ。

李石寨兵站司令部ノ必要ナル糧秣ハ其地現在品ノ内ヨリ渡シテ報告セヨ。然ルニ同十六日長坂計手ヨリ左ノ電報アリ午前十一時十分李石寨發

當地糧秣一モナシ。只故障列車ノ米アルノミ。内六十石渡セリ。四百七列

車ニテ送ラル、様計ハレタシ。

一一八

依テ遼陽支庫へ本日十一列ノ内副食二車李石寨へ卸セト電報シ、長坂計手へ左ノ如ク返電セリ午後五時五分大連發

本日十一列(仙金寨行)ノ内副食二車其地卸シ○停車場へハ提理部ヨリ通知濟ノ筈。

此件ニ就テハ同十八日ニ至リ撫順小野主計正ヨリモ亦電報アリ。依テ左ノ如ク返電ス。

答、李石寨ニテハ最早第一軍へ糧秣交付ノ必要ナシ。其附近ニアル遼東兵站監部ノ糧秣ハ撫順ヨリ交付スベシ○李石寨出張所ハ撫順出張所へ引揚クベシ。

六月十六日 倉庫品現在高ノ報告方ニ關シ、各支庫出張所長へ電報午前十一時大連發在庫品トシテ記帳及報告シアルモノハ必ず役ニ立ツモノナラザルベカラザルコトハ屢々訓示セシトコロナリ。而ルニ某支庫ノ如ク下敷ニ用キタル薪損敗セル副食、破損セル天幕等ヲ現在品ノ員數ニ加へアルトキハ交付命令前

送計畫等ニ錯誤ヲ來タスノ失體ニ陥ル次第ニ付、此際各支庫出張所等ニ於テ表面ト現物トヲ篤ト引合セ、過不足アルモノハ其實際ヲ以テ報告スベシ。

追テ役ニ立タザル現品ヲ發見セル場合ニハ被服陣具糧秣ヲ問ハズ旬報ノ時期ヲ待タズシテ其度毎ニ電報ヲ要ス。

同十六日 老邊吉井主計ヨリ電報午前七時五分老邊發當出張所本日閉鎖ス。

同十六日 撫順小野主計正ヨリ電報午前十一時撫順發本日ヨリ倉庫業務ヲ開始ス。

右二件遼東兵站監へ報告セリ。

同十六日 鐵嶺前田支庫長ヨリ電報午後四時三十分鐵嶺發

(一)小塔子迄ノ水路ハ遼東兵站監ノ手ニ移リタルヤ(二)三面船三屯子小塔子ニハ遼東兵站司令部ヲ配置セラレタルヤ(三)三面船ノ一箇師團分(第三軍用)ト三屯子ノ三箇師團分(第二軍用)ハ

一一九

(イ) 水路輸送ノ倉庫品ヲ三面船ト三屯子ニテ遼東兵站司令部ヨリ揚陸
セシメ出張所ハ之ヲ第二第三軍へ交付スルカ

(ロ) 三屯子ノモノハ馬蜂溝ニテ三面船ノモノハ高力屯ニテ別仕立ノ船
ニ積ミ込ムカ

(ハ) 三屯子三面船トモ高力屯ニテ別仕立ニスルカ
○出張員へ示ス都合アリ。返。

右ニ對シ左ノ如ク返電セリ午後七時十分大連發

答(一)小塔子迄ノ水路ハ遼東兵站監ノ權内ニ入レリ(二)三面船三屯子小塔子ニ
ハ遼東兵站司令部ヲ置カズ。滿倉出張所ノミヲ置ク(三)三面船ノ一箇師團分
ハ第三軍へ三屯子ノ三個師團ハ第二軍へ渡ス(イ)水路輸送ノ倉庫品ノ總テヲ
出張所ニテ陸揚ゲト積込ミヲナス。又出張所ヨリ各軍へ渡ス(ロ)三面船以北
ノ倉庫品ノ取扱ニ付テハ貴官ノ意見ヲ聞キタシ(ロ)ハニ陳アル如クマダ定メ
アラズ○高力屯出張所長タル藤田一等主計ハ本日同所へ着ク筈直接ニ相談

アレ○貴官ノ指揮下ニ更ニ輸卒二隊増加スルコト、鐵嶺ノ輕鐵三哩ト臺車
百車其筋へ請求セリ。

然ルニ又左ノ電報アリ十七日午後四時十分鐵嶺發

答、三面船以北ノ補給ハ左ノ通リシタキ意見ナリ。

(一) 三面ノ一日ト三屯ノ三日分ハ高力ニテ營口ヨリ來ル船ヲ便宜編合シテ
右兩所ニマデ上ボラセ、其他ノ船ハ總テ小塔子ニ直行(馬蜂溝ニ陸揚セズ)セ
シメタシ。

(二) 小塔子ニハ吉井、三屯ニハ山内、三面ニハ鈴木主計ニ首藤一等計手ヲ附シ
派遣ノ見込。但シ鈴木ハ三面ノ業務緒ニ着ケバ首藤ヲ殘シ、鐵嶺ニ歸ラシ
ムル見込。

(三) 三面へハ直ク要員ヲ出ス。小塔子ハ命アリ次第出ス。

(四) 小塔子ニハ業務開始前糧秣保護用薪十萬束、アンペラ一萬五千、雨覆大丸
百枚送付シ置キタシ。此計算ハ差當リ百五十日分ヲ積ムトシ、一日ノ量ニ

對シ、薪四百束、アンペラ八十五、雨覆六枚ノ割

一三三

(五) 小塔子ニハ支庫ヲ置カレタシ。倉庫業務ノ擴張ト共ニ人ノ増加ヲ要ス
右返電 三十九日午前零時

三屯子ト三面船渡シノ糧秣ノコト例ノ流義ノ配合ハ受ケル方ハ易イ代リニ
出ス方ハ非常ノ骨デアル。外ニヨキ考聞キタシ。

註 例ノ流義トハ奉天戰後軍前進間補給ノ爲メ李石渠、深井子、蘇家屯、奉天、
心臺子等へ各軍ノ所要日量ヲ各品種ヲ配合シテ汽車輸送ヲナセシ例ヲ
指ス。

右ニ對シテ左ノ電報アリ 十九日午前

十時 鐵嶺發

答、三面船ト三屯子ノ補給ハ別ニ名案モナシ。併シ

(一) 同地ヲ通行スル運送船ヲ呼止メテ所要量ヲ陸揚ゲセシムルカ

(二) 右兩所ヲ碇繫場トシテ小塔子ニ至ル船ハ必ず同所ニ立ち入ラシムル
コト、シテ所要量ヲ取ルカニアリ。

六月十六日 每田柳樹屯支庫長へ電報 午後九時四十分

五分 大連發

其地ヨリ營口行糧秣ヲ一日幾艘ニ積ミ込ミ得ルヤ、其情況○輕鐵四十四哩分
ノ材料、橋梁材料、臺車ヲ其地へ陸揚グシ、當分預リ置クコト、ナルカモ知レヌ
其置場取調ベ至急電報アレ

右ニ對シ左ノ返電アリ 午後十一時

二分 大連受

答、一日ニ船二艘内外約六萬梱位ノ糧秣ハ積ミ得ル豫定ナリ○輕鐵架橋等ノ
材料臺車目下倉庫ニ餘裕アリ。預カルモ差支ナキ見込。

同十六日 第三軍兵站經理部長ヨリ六月十三日付ヲ以テ高力屯渡シノ糧秣ニ
損廢品アリシトノ通報アリ。

右ハ豫テ本倉庫并ニ各支庫員一般ニ訓示シアルトコロナルヲ以テ

(一) 營口、新民其他何レノ所ニテ損廢セシニ拘ラズ高力屯ニテ之ヲ第三軍ニ
渡ストキニ完全ナル品ノミ渡スベキ丈渡セバ先方ヨリ若情アルコトナシ
(二) 又斯ル場合ニハ電信ニテ直ク其由ヲ新民及倉庫長へ報告シ、善後策ヲ講

一三三

スベキ筈ナリ。

一一四

然ルニ事茲ニ出デズシテ却テ大江部長ノ通報ニ接セシハ頗ブル遺憾トスルト
コロナレドモ、而モ猶此ノ通報ヲ多トシテ、今後斷ジテ斯ル手抜カリナキヤウ深
ク注意セザルベカラズ。依テ高力屯出張所及ビ其他へ左ノ如ク電報セリ。

高力屯村岡主計へ

損廢若クハ不良ノ糧秣ハ總テ其出張所ニ留置キ、完全ナル品ノミ前送シ又ハ
交付セヨ○損廢品ノ處置ニ就テハ電報ニテ本職ノ指揮ヲ乞フベシ。

營口金子支庫長及新民屯藤田主計へ

高力屯ニテハ多數ノ損廢品ノ追送ヲ受ケツ、アリトノ報ニ接ス。其地ヨリ
ハ完全ノ品ニアラザレバ同方面ニ前送スルコト勿レ。

鐵嶺前田支庫長へ

高力屯ニテハ損廢品ヲ第三軍兵站へ渡シ居ル旨大江ヨリ通報ニ接セリ。貴
官ノ配下ニ於テハ決シテ斯ノ如キコトナキ様戒ムベシ。

撫順小野主計正へ

糧秣ヲ軍ニ渡ス時ハ嚴密ニ検査ヲ爲シ、損廢品又ハ不良品ヲ渡サヌ様特ニ注
意スベシ。

同時ニ大江第三軍兵站經理部長へ

高力屯ヨリ交付ノ糧秣ニ損廢品多シトノ貴官ノ通報ヲ謝ス。關係官僚ニ充
分示シ置キタリ。今後斯ノ如キ場合ニハ予ニ電報アリタシ。

六月十六日 曩ニ滿倉庶第六〇九號六月五日付ヲ以テ遼東兵站監部へ請求セ
シ銃器左ノ通り兵器本廠大連支部ヨリ交付セララル

一小銃 七百六挺

但壹挺ニ付彈藥百發宛

依テ之ヲ左ノ如ク割當テ其ノ交付發送方ヲ兵器廠支部へ依托セリ。

小銃竝ニ屬具共百七十挺 大連本部

同 百六十六挺 營口支庫

一一五

小銃並ニ屬具共 五十挺 遼陽支庫
 同 百九十挺 鐵嶺出張所
 同 五十挺 撫順出張所
 同 八十挺 柳樹屯支庫

計七百六挺

彈藥モ右小銃區分數ニ對シ一挺ニ付百發宛ノ割

六月十六日 鐵嶺前田支庫長へ電報午後六時十分大連發

其地ノ「プラットホーム」用トシテ吹抜素倉千八百坪昨日其筋へ申請シ置ケリ。

簡單ナル圖ト設計ヲ直グ送レ○建築部ノ準備アリ。高サト梁間屋根ノ勾配

其他建前ノ模様ヲ電報セヨ。

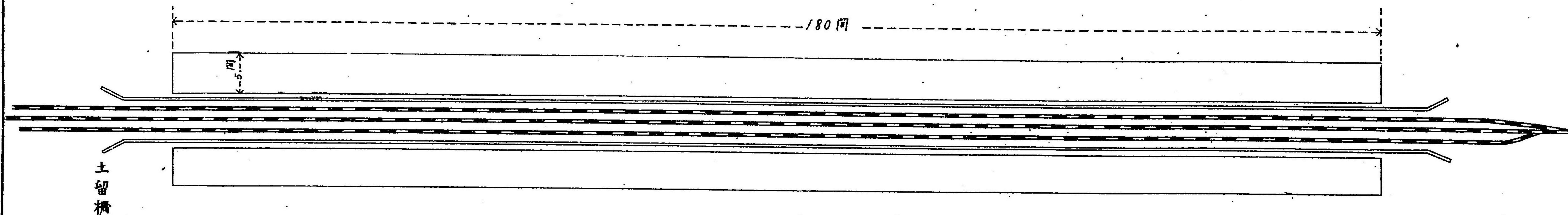
右ニ對シ左ノ返電アリ同夜零時四十分鐵嶺發

「プラットホーム」ハ軒ノ高サ十五尺、梁間三十尺、屋根六寸勾配、柱ノ土入レ三尺

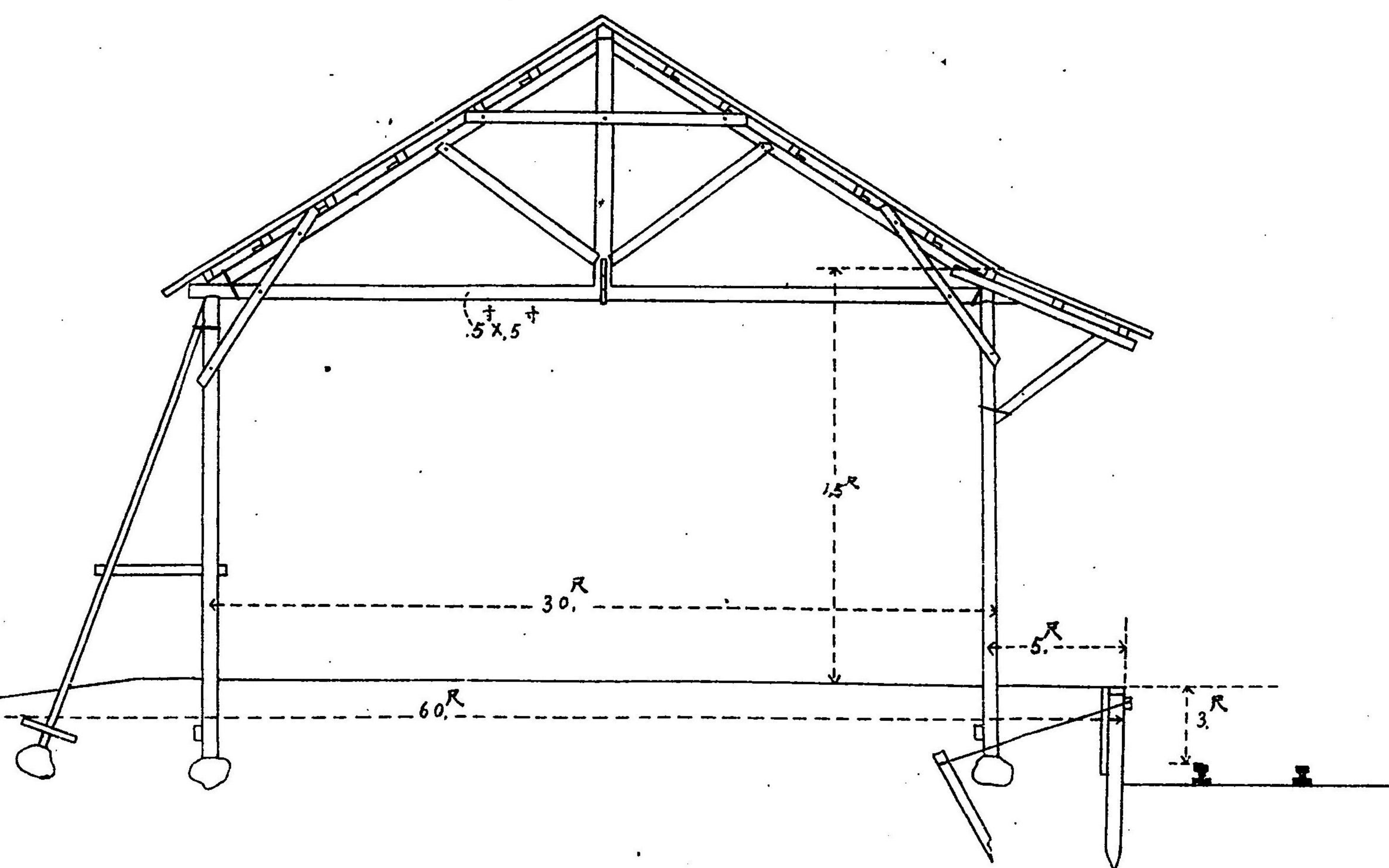
控へ柱附○倉庫建築ノ爲メ當地ニアル「ブツシユ」ノ日本大工二名、代人二名、支

滿洲軍倉鐵嶺支庫
 プラットホーム之素倉

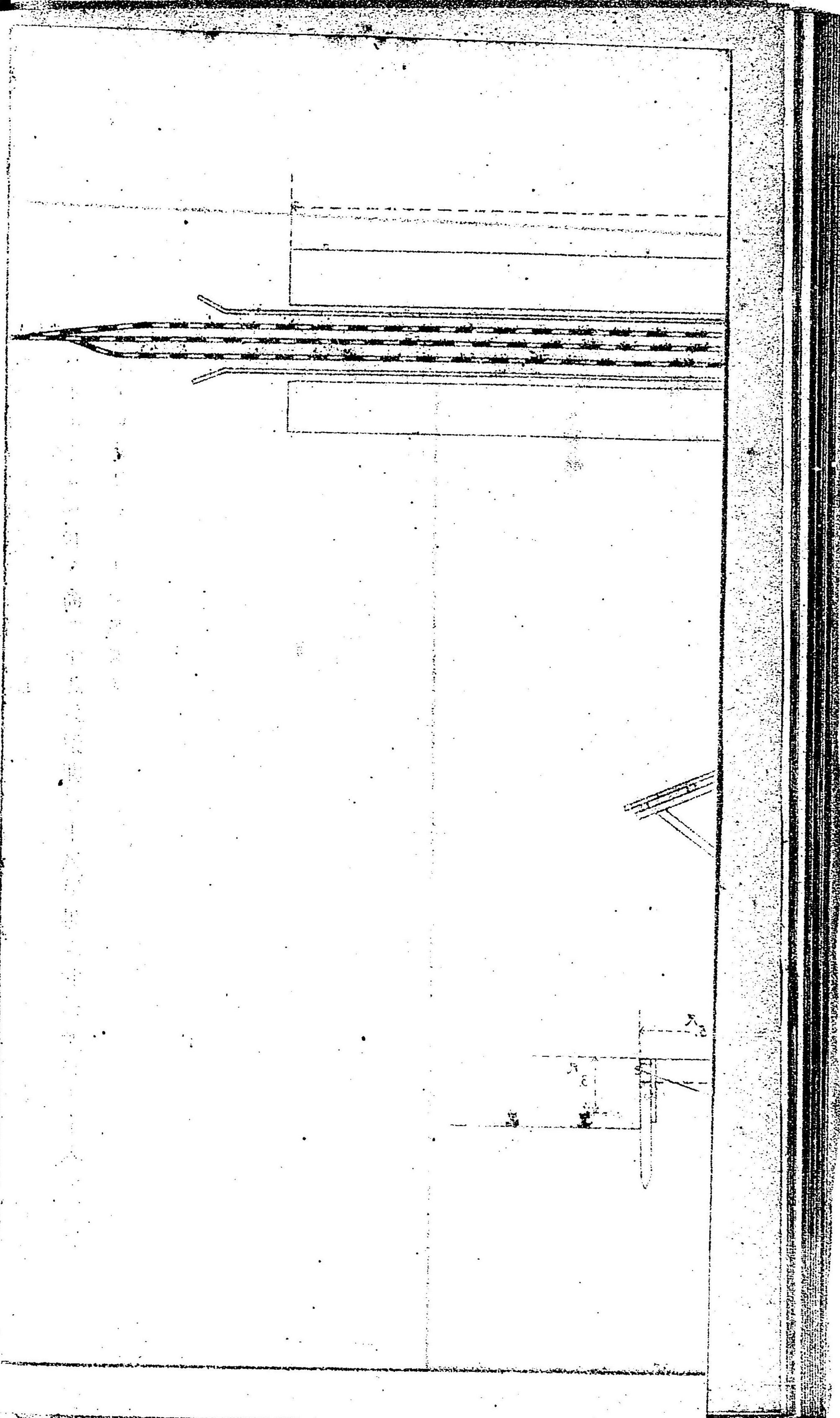
1/1200 圖置配



鐵道軌道ノ下水
 プラットホームノ長サ
 二十間毎ニ切斷面五寸平方以上ノ暗渠ヲ
 プラットホームノ下ニ設ク



1/100 圖面斷倉素



那大工二百二十二名ナリ

同十八日ニ至リ前田支庫長ヨリ倉庫用プラットホームノ設計圖面ヲ提出セリ。
左ノ如シ。

六月十七日

前田支庫長

日匹倉庫長殿

鐵嶺滿倉線プラットホーム千八百坪別紙設計圖面ノ通り至急戰地陸軍建築部ヲシテ建築セシメラレ度(参照圖)

右工事ハ第四建築班ニテ擔任シ七月一日起工シ八月三十日竣工セリ

同十六日 鐵嶺前田支庫長ヨリ電報午後十一時一十分受

第一軍兵站參謀ヨリ軍ヨリノ命ナリトテ輸卒隊ヲ滿洲軍倉庫へ貸シ渡ス旨電話アリ。何レニ附屬セラル、分ナルヤ。派遣先キ回答ノ都合アリ。返。

右返電午後二時五十分大連發

答貴官請求ノ小塔子通江口ニテ用ユル爲メ(二隊)請求シ置キタル分ナラン。

何レニテモ隨意ニ用キラレヨ○三面船ノ爲メニハ第三軍ヨリ一隊借ル積リ
ニテ下相談中。

右ニ對シテ又左ノ電報アリ四十七日午後十一時

第一軍兵站ヨリ借ル輸卒隊ハドレ程ノ期間借ル御見込ナルヤ。必要ノ時期

ニハ引揚グルコトアリトノコトナリ。斯クテハ業務計畫上ニ困ル右借ルコ

トニナリタル起リ知リタシ○取敢ヘズ當地ヘ前進スベキ様請求シ置ケリ。

右ニ付該電報ノ譯文ヲ參謀部ヘ廻送セシニ左ノ如ク付箋ヲナシテ廻付シ來レ
リ。

(付箋)第一第四軍ヨリ借リタル輸卒ハ一時借リタルモノ故野戰軍ニテ必要生
シタルトキハ取上グラル、ヤモ計リ難ク其期間ハ豫定シ難シ。

此件ニ就テハ其後尙守備軍司令部ヘモ協議ノ上、左ノ如ク電報セリ十八日午後
一時大連發
輸卒、小塔子、通江口等ニ入用故總兵站監部ヘ請求シ、第一第四軍ヨリ各一隊ツ
ツ借ルコトニナレリ。當方ニテ入用ノ間ハイツ迄モ使用スル筈○昨日計手

一其倉庫附トシテ出發セリ○主計等缺乏ニ付、人員増加ハ出來ヌト野戰經理
長官ヨリ申來レリ。缺乏トアレバ仕方ナシ。現在員ニテ十分ニ任務ヲ果ス
覺悟ナカルベカラズ○糧食品ノ検査ハヨキヤ○生牛前途ニ付、藤田ヨリ照會
アル筈盡力アリタシ。

同十八日ニ至リ、遼東兵站參謀長ヨリ左ノ通牒アリ。

電報六月十七日午後
一時四十五分大連發

第三軍兵站參謀長宛

西川參謀長ヨリ

三面船ニテ貴軍ヘ補給スル糧秣受渡ノ爲メ同地ヘ滿倉ノ部員一名ヲ派遣ス
而シテ右糧秣陸揚等ノ爲メ輸卒ヲ要スルモ當部デハ目下輸卒ノ都合付カザ
ル故右目的ノ爲メ當分貴軍ヨリ輸卒一隊借用出來マジキヤ。

右返電十八日午前一時三十分法庫門發
三時二十分大連受

參謀長宛

竹島兵站參謀長ヨリ

答、三面船ニ於テ當軍糧秣陸揚ノ爲メ輸卒使用ノ件差支ナシ。

六月十六日 撫順小野主計正ヨリ電報午後十一時十分大連受

本日受入高ハ全部拂出シニ付現在品ナシ○倉庫二百坪ノモノ五棟ノ内四棟引繼ギヲ受ク。在庫品ナシ○仙金樂ノ遼陽出張所員本日引揚ダ明日歸ル。

右ニ對シ、左ノ如ク電報セリ午後十一時十分大連發

外ニ輸卒一隊ト並ニ輕便鐵道ト臺車及ヒ附屬品等ハ讓リ受ケザリシヤ否ヤ

右ニ對シ高橋主計ヨリ左ノ返電アリ二十七日午後零時二十五分大連受時

第六師團第二十二輸卒隊昨十六日ヨリ一時當支庫へ配屬トナル。輕鐵ト臺車ハ臨時手押式輕便鐵道班ノ保管ニシテ其使用權ヲ兵站司令部ヨリ引繼ギ受ケタリ○輕鐵ハ復線トナリシモ、臺車百二十ヲ運轉三回往復スルモ、鴨軍ニ屬スル貨物多數ニシテ前送糧秣ノ半分位ヨリ運搬シ得ザル見込。目下不足ノ輸送力ハ馬車ニテ補ヒアリ。若干日經驗ノ上輸送力ヲ報告スル積リ。

六月十七日 新民屯米田主計ヨリ電報午前二時十分大連受

輕鐵臺車用雨覆七百枚第三軍兵站監部へ渡サレ今日受取レリ○之レハ「ッ

ク製ナリ○御承認ヲ經シ油引雨覆ハ既ニ三百枚ヲ買入レタリ。後ハ見合スコト、ナセリ。

同十七日 午前二時高力屯藤田主計ヨリ電報二十六日午後十時十分高力屯發

今、高力屯ニ着ク。今夜此地ニ泊ル。

同日又左ノ電報アリ午前十一時十分高力屯發

八家子對頭灣兩兵站司令官及營口へ左ノ如ク電ス○水路輸送船ノ甲板兩側ニ露出シテ糧秣品ヲ搭載セルモノ多シ。昨年モ之ガ爲メ多クノ糧秣ヲ濡ラセリ。搭載法ニ注意ヲ望ム。

同十七日 新民屯藤田主計ヨリ電報午後二時十分新民屯發

今、新民屯ニ着ク○牛ハ二百頭位ハ目下ノ狀況ニテ日々買入レラルベシ。價格モ騰貴ノ模様ナシ。但シ各軍(第三軍ヲ除ク)ノ爲メ此地ヨリ直接鐵嶺ニ送ルコトハ左ノ理由ニヨリ行ハレズ

(一)新ニ兵站線ノ設備ヲ要スルコト。

(二)牛ノ賣主ハ多ク山東人ナルヲ以テ彼等ハ牛ヲ曳キテ深ク内地ニ入ルヲ好マズ○故ニ馬三家子兵站司令部ヨリ老邊附近ニ支部ヲ置キ奉天ニ輸送シタシ○奉天支庫ヲ始メ一般ニ兵站ハ牛ノ輸送ヲ好マヌガ如シ○第三軍ノ爲ニハ別ニ輸送ノ方法ヲ大江部長ニ協議セントス○以上ノ二件ハ適當ニ取捨シテ總經理部ノ今井主計正ニ移電ヲ乞フ○今日モ買入レルベキ百餘頭アリ。奉天送リトシテ續々送リタシ。返待ツ○牛ハ十頭二十頭ヅ、持ち來ルモノヲ買ビツ、アリ。契約ヲナスノ必要ナシ。

次デ又米田主計ヨリ電報午後五時二十三分大連受

總經理部長ヨリ井戸川少佐へ牛ノ買入レニ付左ノ主旨ノ照會アリタリ○新民屯ニテ牛ノ納人ヲシテ鐵嶺マデ前送セシムルコト計策シ得ベキヤ。得レバ幾何ノ費用ヲ嵩ムベキヤ。

井戸川少佐ハ下官ニ直接回答ナシ吳レト申サレシ故左ノ如ク回電セリ○生牛買入ニ付井戸川少佐へ御問合セノ件御答ス。納人ノ之ニ應ズルモノ無シ

彼等ハ十頭二十頭若クハ五十頭百頭ヅ、持ち來リ其地ニテ賣捌クヤ、再ビ仕入ノ爲メ關内地方へ引キ返ス者ニシテ、時間ノ經濟ト輸送ノ困難牛ノ食料ヲ得ル方法及ヒ斃死ノ恐れ等トニ因リ、深ク内地ニ入ルヲ肯ンセズ。又一手ニ購入契約ヲナサントスルモノナシ。

右報告ス。

右ニ付藤田主計へ左ノ如ク返電ス午後九時十分大連發

牛ノ事ハ總經理部ト各支庫長ト各兵站經理部長トへ貴官ヨリ照會シテ都合ヨク取計フベシ。

六月十七日 藤田主計ヨリ又左ノ電報アリ午後五時六分新民屯發

今朝電セシ理由ニヨリ第十師團第十四隊ノ外更ニ一隊配屬セラレ度キコト。栗屋隊ハ輕鐵敷設ヲナシ引續キ輸送ニ從事シツ、アルヲ以テ大分熟練シアル如シ。又同隊モ倉庫附ヲ希望シ居ル成ルベク變更セヌ様取計ハレタシ○十四隊長へ一時倉庫附ノ電命其筋ヨリアリシ○第三軍へ牛ヲ送ル爲メ、遼河

ノ右岸ヲ經テ、三面船ニ至ル線路ヲ設クルヲ要スル故、趙子店、遼濱塔ノ二ヶ所ニ新ニ配屬セラルベキ輸卒隊ノ内、若干ヲ置キタキコト。○各軍第三軍ヲ除クヘ牛ヲ送ル爲メ中繼所ヲ高力屯、老邊、馬三家子、轉灣橋ニ設ケラレタキコト。在來ノ兵站線ヲ利用シ奉天鐵嶺間ハ各軍ノ兵站ニヨリ輸送スルコト。○撫順ニアル「レール」ニ哩許此地ニ送ラル、様取計ハレタシ。目的ハ停車場附近ニテ臺車ヲ使用スルノ必要アルト糧秣搭載ニ便ナルトニアリ。又高力屯ノ河岸ニモ必要アリ。○當地停車場ヘ臺車ヲ入ルベキ倉庫ヲ要ス。御考ヲ願フ。○停車場ニテ貨車ヨリ荷卸シ賃銀二十噸四圓ナルモ例ノ法ニテ驛ガ其内貳圓ハネルト(先月二十四日申來レリ。應ジ置キタリ。

右電報ノ譯文ヲ遼東守備軍參謀長ヘ廻送セシニ左ノ付箋ヲナシテ返付シ來レリ。

輸卒ノ件高力屯兵站司令官ヘハ第三軍ヨリ借リタル輸卒五隊ノ内一隊ヲ倉庫ノ使用ニ供スル様命令セラレアリ。故ニ倉庫ヨリ直接兵站司令官ニ交渉

セラルベシ。當部ヨリ特ニ第十四隊長ヘ命令スルノ必要ナシ。

六月十七日 臨時鐵道大隊(桑原)ヨリ電報午後五時四分 安東縣發

當配屬隊付西田主計ハ只今貴倉庫附命ゼラレタル旨電報アリタルモ、目下當地ニテ病氣中ニ付期日内ニ出發出來ザル見込。併シ船都合ニテ成ルベク至急赴任セシム。

同十七日 元熊本豫備病院付二等計手丸目豐吉倉庫附トシテ大連ニ到着ス。

依テ鐵嶺支庫附ヲ命シ即日出發セシム。

同十七日 庫手二名野村勇三郎、吉田芳助(到着セリ。

同十七日 新民屯米田主計ヨリ電報午後八時五分 大連受

「クリーム」ハ一箱拾壹圓五拾錢ニテ折合付キ一千箱買入レタ。○當地ニアル五百箱ハ今日受領シ、残り五百箱ハ天津ノ本店(パートラム商會)ヨリ來ル二十日迄ニ送付スル旨今同店出張員ヘ電アリタリ。依テ同日直ニ受領シ終ル筈。○二箱ヅ、梱包シ率領ヲ付シテ發送ス。奉天ヘハ其時々電報ス。

六月十七日 鐵嶺前田支庫長へ電報午後十時八分大連發

本日五列ニテ淡鹽鯛八十箱送ル。續イテ四百箱以上送ルニ付適當ニ早ク分配セヨ○此品ハ目下大連附近ニテノ漁獲品ナリ。

同十七日 鐵嶺前田支庫長ヨリ電報午後十一時四分大連受

當地野積用トシテ雨覆大千枚請求ス。目下ノ在庫品大千九百六、小三千四十一ナリ。

右ニ對シ、翌十八日午後一時、雨覆大千枚使用ノ件承認スト返電シ、同時ニ片山總經理部長へ左ノ如ク電報セリ。

豫テ倉庫用トシテ請求ノ雨覆大千枚ノ内準備品中ヨリ千枚、鐵嶺支庫用トシテ使用セリ。右報告ス○但シ遼東兵站經理部へハ通報濟ミ。

同十七日 在法庫門大江第三軍兵站經理部長ヨリ電報午後十二時大連受
病院用トシテ法庫門通江口ニテ氷入用アリ。最モ近キ所ヨリ受取ルコトヲ得バ幸ナリ。返。

翌十八日 又昨日問合せシ患者用水ノ件返待トノ電報アリ。依テ左ノ如ク

返電セリ午後二時五分大連發

答、氷ヲ送ルコトハ六ツカシカラシ。殊ニ現在品ノ餘分トテハナキモノ、如シ。

然ルニ同十九日大江部長ヨリ更ニ左ノ電報アリ十九日午後三時二分大連受

當部ヨリ人ヲ小北河ニ派遣シテ氷運ビ方見込アルヤ研究シタシ。其方法ハ水塊ヲ船ニ積ミ絶エズ解ケテ流ル、水ヲ吸ミ取り約二十日經過セシ結果ヲ見ントス。此試驗ノ結果見込ミアラバ曾テ小北河ニテ御引繼ギセシ氷ノ内若干渡サレタシ。今小北河ニハ貴倉庫ノ出張所若クハ守備隊アラバ特ニ當部ヨリ人ヲ派遣セズシテ右ノ試驗ヲ御依頼シタキ希望ナリ。返。

右ニ對シ、左ノ如ク返電セリ十九日午後五時三十分大連發

答、小北河ニテ讓リ受タタル氷ハ其儘アリ。別ニ滿倉デモ一個所ノ氷室アリ共ニ土人ニ托シアリ。貴部ニテ使用ノコト承知ス。同地ニハ出張所モナク

守備隊モナシ。若干名ノ橋梁衛兵アルモ是等ノ取扱ハ六ツカシカラシ。本件ニ就テハ西川參謀長、辻村經理部長ニモ協議セシニ何レモ同意ナリ。

六月十八日 新民屯藤田主計ヨリ電報午前二時十分大連受

左ノ件返待ツ○(一)牛ヲ送ルコト○此件決定ノ上ハ夫々關係ノ所へ準備ヲ打合セル考(二)明日(十八日)買入レ得ル牛ノ數二百頭餘リアリ。買入ルベキヤ。但シ買入レテモ前送ノ地點定マラザル以上ハ飼付ニ困ル、其邊御含ミアリクシ(三)明後日頃ヨリ後備旅團ニ給與始メル様打合セ終レリ。副食ハ高力屯ヨリ輕鐵ノ歸リニ所要量丈此地ニ運ブ○或ル兵站部ニテハ水路輸送ヲ表面ハ支那人トシ、内實ハ日本商人ヲ引込ミアリテ之ガ爲メ輸送ニ害ヲ及ボスト聞ク。至急取調ベ更ニ報告ス。

同十八日 大連ニテ購買セシ淡鹽鯛ヲ鐵嶺へ送付セシニ前田支庫長ヨリ「第三軍へモ分配スベキヤ」トノ電報アリ。依テ左ノ如ク返電セリ午前十時五分大連發

答、各軍へ交付スベシ○今後此等ノ事ハ直接總經理部長ノ意見ヲ聞キテ處置

セラレヨ。

同十八日 新民屯藤田主計ヨリ電報午前十一時新民發

當地ニ支那米千二百石アリ。豫テ御趣旨モアリ又軍へ前送ヲ止メアル今日賣却シタキ考。直段ハ能ク取調ベタル上報告ス○奉天手押式輕鐵班ニ臺車修理申立テタルモ鹵獲臺車修理ノ爲メ多忙トテ斷ラレタル故當地ニテ修理ス○牛前送ニ就テハ各所ニ照會ス○支那米賣却ノコト返アリタシ。

同十八日 安東縣派出所長黒田主計ヨリ電報午前九時五分大連受

倉庫使役人夫ハ本月五日以來兵站部ヨリ供給ヲ受ケツ、アレドモ、一日タリトモ、需要丈ケノ供給ヲ受ケタルコトナク、業務益、溢滯ス。目下陸揚グ品モ少カラズ、此儘經過セバ憂フベキ結果ヲ生ゼンコトヲ恐ル。又兵站部ハ到底供給シ得ル見込ナシ。依テ妥協時ノ條件モアリ、倉庫直備ノ必要ヲ認ム。都合ニヨレバ臨機ノ處置ヲ取ルベシ

右豫メ報告ス

六月十八日 金山第四軍兵站經理部長ヨリ電報午前十一時二分大連受

精米ヨリ少キコト割麥四十四日、茶五十三日ナリ。平均スル様渡サレタシ、

目下當地支庫ニナシ。

右返電午前十一時五分大連發

答、割麥茶追送ノ件承知ス。

同十八日 撫順出張所小野主計正ヨリ電報午後一時十分大連受

輕鐵ハ複線トナリタルモ輸送力意外ニ少ナシ。然ルニ鴨軍ノ追送還送多ク、目下汽車卸シ糧秣ハ半分ヨリ輸送出來ズ。輕鐵ノ輸送力不足ノ分ハ昨日迄停車場ニテ兵站司令部ニ渡シ、馬車輸送ヲナシタルモ、兵站司令部ニテ集メタル馬車今日俄ニ逃グ散リ、停車場ニテ渡スコト出來ヌ故、馬車ノ集ル迄停車場附近ニテ野積トセザルベカラズ。依テ糧秣一列車ノ代リニ下敷用薪ト雨覆三百アンペラ千枚急送頼ム。

六月十九日ニ至リ左ノ電報アリ午後十時十分大連受

輕鐵輸送力不足ノ爲メ仙金寨停車場ニ停滯シアル糧秣ハ至急倉庫ヘ格納セントス。之ガ爲メ所要ノ馬車ヲ兵站部ニ請求スルモ出來ズ。依テ明日ヨリ日々馬車百臺ヲ直接備入ル、計畫ナリ。

右報告ス。

同十八日 片山總經理部長ヘ電報午後二時十分大連發

追送糧秣調査ノ必要アリ。内地發送地ノ各倉庫ヨリノ案内電報ニハ必ズ左ノ件々ヲ記入セラル、様致サレタシ(一)船名(二)明細品目數量(三)送證番號(四)揚陸地點(五)經長命令番號

同十八日 遼陽岡本主計ヨリ電報午後三時十分大連受

當支庫釀造部修繕ハ建築本部ニテ材料ヲ出シテ修繕承諾アリシヤ。

右返電午後三時十分發

答、石井部長ト協議濟、三宅班長ヘハ命令サレシ答ナリ。

同十八日 遼陽岡本主計ヨリ電報午後四時十分大連受

營口ヨリ釀造器具材料全部到着セリ。

六月十八日 遼東兵站監部ヨリ左ノ通牒アリ。

電報 十八日午前十一時五十五分奉天發
午後零時四十五分大連着

井口兵站監宛

奉天總參謀長

營口及鐵嶺支庫ノ爲メ蹄鐵工長各一ヲ安東縣支庫設置ノ爲メ所要人員二二三等主計二、計手二、從卒一ヲ滿洲軍倉庫ニ配屬セラル。

右蹄鐵工長配屬ノ件ヲ營口、鐵嶺各支庫長へ通報シ、又安東縣派出所長黑田主計へ左ノ如ク電報ス午後三時二十分大連發

安東縣ニ支庫設置ノ爲メ二二三等主計二、計手二、從卒一ヲ配屬セラル。コレニテ其倉庫ノ人員ヲ調べ電報ニテ報告アレ。

右ニ對シ、左ノ返電アリ午後十一時五十分大連受

支庫設置ノ爲メ二二三等主計二、計手一、從卒一ヲ配置セラレ、在來ノ主計(所長共三、計手四ヲ合セテ計、主計五、計手六トシ、役割ヲ左ノ通りニシタシ。支庫長一、

庶務主計一、計手三、倉庫主計三、計手三、衛生部ハ此外トス。

然ルニ同三十日ニ至リ在大連西川參謀長ヨリ左ノ通牒アリ。

左ノ通り總參謀長ヨリ電アリタリ。

六月十八日命令安東縣支庫設置ノ爲メ滿倉ニ配屬人員中計手二ハ一ノ誤リニ付訂正ス。

依テ其旨直ニ黑田支庫長へ電報セリ。

同十八日 金山第四軍兵站經理部長ヨリ電報午後四時二十分大連受

五月二十五日御依頼セシ氷醋酸ハ未ダ到着セザルヤ。

右ニ付字品貨物廠大野廠長へ電報十九日午後三時三十分大連發

飯ヲ爨クトキ防府用ノ氷錯酸ヲ早ク送ラレタシ。

同時ニ金山部長へ返電。

答、氷醋酸未ダ着カヌ。早ク來ル様今盡力中。

尙同伴ニ付奉天片山經理部長へ電報

飯ヲ爨クトキ腐敗止メニ用キル氷醋酸ヲ各部ヨリ請求アリ。至急追送セラレタシ。

右ニ對シ左ノ電報アリ十九日夜零時

氷醋酸ヲ請求セシ部隊及其數量。返。

右返電同夜零時三十分大連發

氷醋酸ノ請求者ハ金山第四軍兵站經理部長ナリ。數量ハ同官ヨリ直接電報スル様談シ置ケリ。

同時ニ金山部長ヘ電報。

氷醋酸所要數量總經理部長ヘ電報セラレタシ。

六月十八日 遼東兵站參謀長ヨリ左ノ通牒アリ。

電報午前九時五十分發

西川參謀長宛

大島

仙金嶽、撫順間鐵道ノ件撫順對岸迄本鐵道ヲ延長スルコト、ナレリ。

但七月盡日迄ニ竣工ノ豫定。

同十八日 新民屯藤田主計ヨリ電報午後九時十分大連發

前田(鐵嶺支庫長)ヨリ電〇三面船一日、三屯子三日、小塔子ニ殘餘、水路ニテ輸送スル爲メ三面船三屯子ノ分ヲ高力屯ニテ配合シ、宰領ヲ附シ送ルコト倉庫長ニ伺ヒ中許可アレバ實行セラレタシト〇右ニ付、明日ヨリ高力屯司令部ニ交渉シ準備セント欲ス。差支ノ有無至急返待ツ〇支那米ハ多數故此地ニ需要者ナク、値高キ買手モナシ。殘念ナレバ更ニ買手搜索中〇今高力屯ニアル牛一頭暑サニ中リ死シタル旨報アリ。獸醫ヲ派シ検査セシム。

右返電午後十時十分大連發

高力屯ヨリ追送ノコトハ前田ト協議シテ適當ニ取計ヒアレ〇貴官ノ正シキ意見ハ概ネ予ニ採用セラルベキモノナルコトヲ確信シ斷行セヨ。

次デ又左ノ如ク電報セリ同夜零時三十分大連發

前田ヘ左ノ返電シ置ケリ(十六日記事)中十九日夜零時三十分發三屯子ト三面船渡シ糧秣

ノコト)

翌十九日ニ至リ藤田主計ヨリ左ノ電報アリ午前八時三十分新民屯發

病牛ノ情況左ノ電ノ通り○夜間ニテ充分ノ検査ヲナスコト能ハザリシモ死
セルモノニ牛疫ノ兆候ナキモノ、如シ○又一頭因腸症ニ罹リ居ル。他ノ牛
ハ隔離ス。

六月十八日 辻村遼東兵站經理部長ヨリ左ノ通牒アリ。

總發第八二號

三十八年六月十六日

滿洲軍總經理部長 片山 中行

遼東兵站經理部長辻村補造殿

去ル十一日總發第五〇號ヲ以テ訓令セシ加給品清酒一ヶ月一名ノ量ハ正味
五合給與ノ趣旨ナルヲ以テ樽取勘定ニ在テハ從來ノ經驗ニヨリ運搬途中等
ニ於ケル缺損減ヲ見込ミ一ヶ月一名一升ヲ超ヘザル範圍内ニ於テ實際ノ給
與ニ差支ヘザル様適當ニ前送交付相成度爲念通牒ス

右即日各支庫出張所へ通達セリ

同十八日 遼東兵站監部會報要領

- 一 來ル二十五日頃總兵站監大連ニ來ラル、答。
- 二 從來ノ馬蜂溝兵站司令部ハ平井兵站司令部ト交代ス
- 二 小池軍醫總監總軍醫部長兼勤。

六月十九日 金子營口支庫長ヨリ電報午後二時七分大連受

總司令部ノ意圖ナリトテ、當地ヨリ小塔子(法庫門ノ東北迄ジャンクノ直通ヲ
試ムルタメ、糧秣交付ノ儀兵站司令部ヨリ請求アリ。渡シテ差支ナキヤ。但
最初千五百梱程ナリ。米麥ハ渡サヌ積リ○右ハ急ギ居ル故、直グ返。

右返電午後三時十分大連發

答、小塔子滿倉出張所吉井主計宛ニテ發送スベシ○發送セバ其旨鐵嶺前田ト

新民ノ藤田へ通報アレ。

同十九日 高力屯藤田主計ヨリ電報午後六時二分大連受

高力屯ニ集積糧秣日々多クナルノ傾キアリ。是レ水路輸送ノ涉々シク行ハレザルニ依ル。其理由ノ一トシテ○水路上ニアル兵站部ガ其管區ニ拘泥シテ船ノ融通ヲナサズ。頗ル不利ナル陸揚グ積込ミヲナス爲メ多クノ時間ヲ徒費スル故各兵站部ニテ上流下流船ノ融通ヲナス様其筋ヲ經テ取計ハレタシ○星田(高力屯兵站司令官)ノ管區ハ馬蜂溝迄ナリト云フニヨリ、夫レヨリ上流平井(馬蜂溝兵站司令官)ノ管區即チ三屯子小塔子ニハ前田支庫長ノ協議ニ應ジ兼ヌル次第ナレバ其邊御含ミアリタシ○夕、新民ニ歸ル。

次デ又電報アリ午後七時二十分大連受

今朝牛三頭炭疽ニテ斃レ、死體ハ燒ク、其他ハ隔離中○今後買入ルベキモノハ見合スベキヤ。將夕別路巨流河城ヲ取リ奉天ニ送ルベキヤ。

六月十九日 橋元奉天支庫長ヨリ電報午後二時十分大連受

當地ヨリ鐵嶺ニ送ル牛ノ輸送ハ總兵站監ノ命ニヨリ第二軍兵站之ニ任ジ、三臺子、安心臺及大范河ニ生牛休養所ヲ設備シ、飼養品凡テ同兵站ニテ處辨スル

コトニナレリ。

同十九日 新民屯藤田主計ヨリ電報同夜零時十分大連受

橋元ノ言ニヨレバ牛ノ輸送ハ大范河、三臺子等ノ地點ニ第二軍ノ兵站ニテ生牛休養所ヲ設ケラレ實施セラル、由ナレドモ不得要領ナリ○今日買入レタル牛七十三頭ハ牛疫ノ憂ナキ地點ヲ經テ兎ニ角實驗ノ爲メ明日發六泊ノ豫定ニテ鐵嶺指シテ送ル。途中牛ノ情況ヲ見セシムル爲メ蹄鐵工長ヲ附ス。承認ヲ乞フ。

右返電同夜零時十分大連發

答、牛ヲ送ルコトハ橋元ノ通報ノ如クセバ可ナラン○其他ニ道ヲ偵察シ置クコトモ亦必要ナラン○工長ヲ派遣スルコトハ差支ナシ。

次デ又左ノ如ク電報ス。

答、橋元ヨリノ報告ニハ奉天鐵嶺間ノ牛ノ輸送ハ第二軍ノ兵站へ命ゼラレタル由ナリ○別ニ六泊ノ豫定ニテ鐵嶺ニ直送スルト、何レニスルモ貴官ノ隨意

ニ試ミテ可ナラン。

六月十九日 金山第四軍兵站經理部長ヨリ電報午後四時三十分大連受

運輸便利ノ地ハ秣ノ全定量支給セラル旨通知アリ。當地ハ全定量支給セラル、ヤ。

右返電午後五時三十分大連發

答、秣ハ只今デハ迎モ迎モ全量ノ補給ハ出來ガタシ。

同十九日 長尾嶋軍兵站軍醫部長ヨリ電報午後四時三十分大連受

貴庫撫順支庫へ寄贈毛布二百捆預ケ入レタシ。返待ツ。

右ニ對シ、直ニ毛布二百捆撫順ニテ御預リスルコト承知ス。下返電ス。

同十九日 金山第四軍兵站經理部長ヨリ電報午後七時五十分大連受

先般購買ヲ委托、セシ鹽鯛ハ當地到着ノ節已ニ腐敗シ食用ニ堪ヘザリシ。右御參考迄。

右ニ付、今後ハ先キノ供給者ヨリ買入ル、コトヲ止メ、又其他ノモノヨリ買入レ

タルモノモ前送ノ際更ニ一層嚴密ナル検査ヲ行フコト、セリ。

六月十九日 遼東兵站經理部長ヨリ左ノ通牒アリ。六月十八日付

大江第三軍兵站經理部長ヨリ辻村經理部長宛電報

通江口ニハ日々人二萬、馬五千ニ對スル一日分ヅ、追送セラレタシ。右ノ外臨時所要物ハ當部若クハ通江口倉庫長ヨリ馬蜂溝司令部ニ請求セバ追送スル様致シタシ。返。

右、倉庫長へ協議アリ。然ル上、左ノ如ク夫々發電セラル。

辻村部長ヨリ大江部長へ返電

通江口ニテ日々一個師團分渡スコト承知ス。臨時ノ所要ハ鐵嶺支庫長へ請求セラレタシ。

同部長ヨリ馬蜂溝兵站司令官へ

水路輸送糧秣ノ内第三軍ノ爲メ自今日々人二萬、馬五千ニ對スル一日分ヅ、通江口へ揚陸スルコト、ナレリ。之ガ實施ニ就テハ滿洲軍倉庫貴地出張所

長ト直接交渉セラレ度○又通江口ニハ該倉庫員派遣ノ筈

同部長ヨリ總經理部長へ

第三軍兵站經理部長ノ要求ニ應シ水路輸送糧秣ノ内ヨリ自今日々人二萬馬五千ニ對スル一日分ヅ、通江口ニ於テ交付スルコト、ナレリ。報告ス

但シ現品ノ受授ヲ確實ナラシムル爲メ滿洲軍倉庫員ヲ該地へ派遣セシム。右、即日鐵嶺前田支庫長へ電報セリ。

六月十九日 遼東兵站經理部長ヨリ左ノ通牒アリ。
經發五三一號

三十八年六月十九日 遼東兵站經理部長 辻 村 楠 造
滿洲軍倉庫長 日 匹 信 亮 殿

本月十二日請求有之候撫順支庫ノ爲メ假倉庫約千坪建築ノ件本日認可有之候ニ付倉庫へ交渉ノ上工事着手相成度旨戰地陸軍建築部へ請求致置候間御承知相成度

追テ該工事竣工ノ上ハ其旨當部へ報告有之度申添候也

同十九日 大連本倉庫附輸卒ニ交付セラルベキ銃器百七十挺ヲ受領シ、之ヲ左ノ如ク分配セリ。

- 三十五挺 第八師團第一補助輸卒隊
- 三十五挺 同 第六補助輸卒隊
- 五十挺 第十師團第十八補助輸卒隊
- 五十挺 第三師團第二十二補助輸卒隊

六月二十日 新民屯、藤田主計ヨリ電報午前零時五分新民發 同 四時大連受

今、樺岬工兵少佐來ル。其任務ハ新民法庫門間ニ機關車式輕鐵ヲ架設スル下調査ノ爲メ其ノ筋ノ命ニ依リ出張セラレタルナリ○當組、藤田組即滿倉出張所ニ宿ス。聞ク安東縣方面ノ鐵道大隊ヲ一部此ノ方面ニ使用セラル、様ナルカモ知レヌト。我出張所ノ業務益々緊要トナレリ○水路輸送ノ涉々シカラヌ原因ノ二トシテ星田司令部ニハ(東條)ト云フ商人ニ水路輸送ヲ托シ居ル

ト司令官モ公言シ居ル曰ク官業ニテハ碍明カヌト○或ル方面ヨリ聞クニ此日本人ガ五分ヅ、頭ヲハネル故船頭自身ノ利益少ナキ由眞偽未ダ分カラヌ。
右返電午後二時四十分大連發

船雇入レノ不都合ニ對シ、本日參謀長ヨリ星田へ注意セラル、等。

六月二十日 鐵嶺前田支庫長ヨリ電報午前十分大連發

今朝鈴木一等主計ニ首藤計手ト輸卒四ヲ附シ三面船ニ出發セシム○此要員ハ交通遮斷ノ爲メ出發後レタリ。

同日 新民屯藤田主計ヨリ電報午後零時三十分大連發

昨日買入レタル牛七十三頭七万四千八百八十四磅、一磅拾貳錢(内六頭砲兵旅團ノ購買員ニ讓ル)○今日豫定ノ通り六十七頭鐵嶺へ向ケ送レリ。

同日 鐵嶺前田支庫長へ電報午後二時四十分大連發

生鹽綢昨朝八十函ト今夜九時頃三百七十二函貴地ニ着ク等。現品ノ情況ト各軍へ分配ノ模様電アレ。

右ニ對シ左ノ返電アリ午後七時五十分鐵嶺發

薄鹽綢分配第一軍へ百十五、第二軍へ百三十、第三軍へ百、第四軍へ百五○昨日着ノ物ハ七十九ヲ第一軍へ交付シ一函ハ試驗用ニ供セリ。美味ニシテ腐敗ノ氣味少シモナシ○第一軍へハ前報シ昨朝交付濟ミ。第二、三、四ト第一軍ノ殘リヲ明日朝渡スコトヲ軍經理部長へ電照濟ミ。然ルニ右ニ對シ第四軍經理部長ヨリ腐敗ノ虞アル故試ミニ兵站用トシテ若干受取り、殘リハ斷レトノ由ニテ二百貫ヲ渡ス筈ナルモ、之ニテハ遺憾ナル故、明日着ノ一捆ヲ特使ニ持タセテ同官ノ許ニ遣ル手筈中。

同日 片山總經理部長ヨリ電報午後四時二十分大連發

綢ノ送付方催促アリ。曩ニ命令シタル分至急送ラレタシ。總司令部ノ分二十貫最モ急グ。

右ニ付、鐵嶺前田支庫長へ電報午後四時十分大連發

綢二十貫總司令部行ノ分間違ツテ其地へ送レリ。至急奉天支庫へ送り返ス

ベシ〇各軍へハ百七十貫ヅ、渡セシヤ〇返。

右ニ對シ左ノ返電アリ午後七時三十分鐵嶺發

答、竊總司令部行二十貫ハ率領ヲ付ケ、本日同部へ送り濟ミ〇第二、三、四ノ各軍

へモ交付濟ミ〇缺損品一個アリ。各百六十八貫ヅ、交付ノ事ニナレリ。

後更ニ前田支庫長へ電報四十一日午後四時大連發

竊一軍へ渡シタカ、マダカ。直グ返。

同時ニ片山總經理部長へ返電。

竊二十貫ハ鐵嶺ヨリ昨日貴部へ發送濟ミ〇第二、三、四軍へハ交付濟ミ〇一軍ノコトハ調へ中。

然ルニ同二十一日午後十時十五分前田支庫長ヨリ「答、竊一軍へ百六十八貫本日交付ス」トノ電報アリ。依テ其旨總經理部長へ電報セリ。

六月二十日 高力屯藤田主計ヨリ電報

高力屯星田司令部モ遂ニ左岸ノ不便ニ堪へカネ右岸ノ地ニ移ル計畫ナリ〇

然ルトキハ司令部附ノ四隊輸卒ハ我倉庫ノ一隊餘ニ比シ多キニ過グル故彼ノ四隊ノ内ヨリ一隊ヲ取リテ倉庫ニ附屬セシメラレタシ〇此ノ意見ニ對シテ其筋ニテハ倉庫ノ仕事ヲ司令部が遣レバ可ナリト云フナランモ、司令部ニハ計手ノ外經理官ナシ。糧秣業務ト密接ノ關係アル事等ニ付テハ倉庫ノ手ニアラザレバ不完全ナル點多カラシ。又目下右岸倉庫業務ハ我倉庫ノ手ニテ困難ナガラ實施居レリ。

同二十日 遼陽岡本主計ヨリ電報午後五時十分大連受

奉天支庫ヨリ割麥二百四十石ノ請求アリ。送リテヨキヤ。

右返電午後六時十分大連發

答、輸送ノ都合ツカバ割麥二百四十石奉天支庫へ渡スベシ〇奉天支庫へハ今後入用ノモノハ倉庫長ニ請求スル様貴官ヨリモ注意セヨ。

然ルニ奉天橋元支庫長ヨリモ亦左ノ電報アリ午後十一時十分大連受

當支庫ヨリ直接交付スベキ糧秣ニ不足ヲ生ジタル時ハ必要ニ應ジ、後方支庫

ニ請求シ、直グニ追送アル様致シタシ。又當地ニアル遼東兵站司令部等ヨリ
請求アリタル時ハ直グ交付シテ差間ナキ様豫メ御承認置アリタシ(特種ノモ
ノハ除ク)

右返電 午後十二時
大連發

答、倉庫ノ支出ハ倉庫長ノ命令ニヨルヲ原則トセリ。緊急ノ場合ハ例外ナリ

○貴地ニテ現在補給ヲ要スル部隊ノ兵額ヲ軍別ケニテ電報アレ。

右ニ對シ、左ノ返電アリ 二十一日午前十一時
五十分大連發

當地ニテ補給ヲ要スル部隊ハ總司令部ト其屬部人五千三百、馬二百、重砲兵旅
團各隊人一萬、馬三千ニシテ皆遼東兵站ヨリ給養ス。此外馬三家子ニ遼東兵
站部ニ屬スル若干ノ人馬アリ。

然ルニ同二十二日ニ至リ、辻村經理部長ヨリ奉天兵站司令部所要糧秣ヲ火急ノ
場合ニハ直接支庫ヘ請求ノ件ニ付、照會アリ。

右ニ對シ承知ノ旨回答セリ。

六月二十日 雇員菅原英吉、同赤沼五八郎着任ス。何レモ水産講習所卒業者ナリ

右菅原雇員ニ新民屯及高力屯出張所附ヲ命ジ、翌二十一日出發赴任セシメタリ。

同二十日 是ヨリ先、鐵嶺前田支庫長ヨリ雨覆ノ請求アリ。

右ニ付左ノ如ク電報ス 午後六時三十分
大連發

去ル十七日電報請求ノ小塔子ニ使用ノ雨覆所要數ヲ準備品中ヨリ拂出シ、其
員數ヲ電報セヨ。

右ニ付右ノ返電アリ 午後十時五十分
大連發

小塔子用雨覆九百枚本日拂出ニ立テタリ○同地ニハ何時出張所ヲ置カル、
都合ナルヤ。

右ニ對シ、左ノ如ク電報セリ 午後十一時十分
大連發

答、雨覆拂出承知ス○小塔子及通江口ヘハ直グ出張所ヲ置クベシ。

同二十日 金子營口支庫長ヘ電報 午後六時五分
大連發

貴官ヨリ當金櫃部ヘ六拾萬圓請求セシ由。斯ノ如キ大金ノ請求ノ場合ニハ

其用途ト共ニ先ヅ本職へ報告セヨ○右六拾萬圓ハ新民ニテ要スル生牛代ナルヤ。返。

右ニ對シ、左ノ返電アリ午後八時四十分 家屯發

答、爾後報告ス○新民屯ニテ要スル生牛代ニシテ十三日電ニテ伺ヒタルニ御指令ナキ内ニ遼兵監副百六十四號ノ命令ニ接シタル故請求セリ。

六月二十日 遼陽岡本主計ヨリ電報午後九時五分 遼陽發

小北河ニ在ル薪等ノ意見筆記ニテ差出シタリ。可成速ニ御決定アリタシ。右、小野支庫長ノ意見書左ノ如シ。

小北河及北太溝附近ニ集積ノ薪及馬糧等水路輸送ノ儀研究ノ上意見可申出旨電命ニ依リ職員ヲシテ實地ニ就キ利害得失取調候處水路輸送ニ在ツテハ最モ當支庫ヨリ短距離ヲ選ミ即チ先ヅ黃家堡子河畔高地ニ移轉セバ適當ト被存候乍併此運賃支那ジャンクヲ貸與シ別紙一號豫算ノ通金貳萬壹千五拾圓ヲ要シ候止ムヲ得ザルコトナレドモ如此多額ノ運賃ヲ仕拂フハ經濟上一

考スベキ儀ト被存候。

又小北河附近ニテ相當ノ地點ヲ撰定シ一時移積セントスルモ該地ハ遠ク兵站線ニ離レ他日之ヲ使用セントスルニ際シ最不便ニハ候へ共其移積入費別紙二號ノ通前段ニ比スレバ大ニ廉價ニテ相辨ジ候
右後段ノ方法ハ頗ル姑息ニハ候得共戰局ノ如何ニ依リ終ニ該薪等使用ニ及バザル事モ可有之然ル時ハ存外奇功ヲ奏スルヤモ難計被存候此段意見申出候也

明治三十八年六月十八日

遼陽支庫長 小野 運 八

倉庫長 日 匹 信 亮 殿

(別紙)

(一號)

小北河及北太溝ニアル薪ヲ黃家房子迄輸送ニ要スル費用豫算。

一金貳萬壹千五拾圓

內譯

名	稱	數	量	單	價	小	計
船		四百五十艘		一艘四拾	圓	壹萬八千圓	
馬	車	二百五十輛		一輛八	圓	貳千	
苦	力	一千五百人		一人七拾	錢	壹千五拾圓	
備	<p>船ハ小北河ヨリ黃家房子ニ至ルモノニシテ一艘ノ積載量二千二百貫ナリ單價ハ船頭ノミニシテ船ハ當方ヨリ貸與スルモノトス 馬車ハ北太溝ヨリ小北河ニ運搬スル爲メニ用ユルモノ 苦力ハ薪ヲ船積、積卸シ又ハ河岸マデ運搬スル爲メニ用ユルモノニシテ一日百五十人ト見積ル 此ノ作業日數十日ノ豫定 粟稈等ハ薪ノ上積トシテ輸送スル豫定</p>						
考							

(二號)

小北河及北太溝ニアル薪ヲ水害ノ憂ナキ安全ナル地點ニ移ス費用豫算

一金五千五百圓

內譯

名	稱	數	量	單	價	小	計
馬	車	二百五十輛		一輛八	圓	貳千	
苦	力	一千人		一人二付七拾	錢	參千五百圓	
備	<p>馬車ハ前同斷北太溝ヨリ小北河ニ運搬スル爲メニ用ユ 苦力ハ小北河ノ薪ヲ安全ナル地點ニ移ス爲メ日々五百人宛使役ス 此作業ハ十日間ノ豫定</p>						
考							

六月十九日 倉庫長ハ午後五時半ヨリ大連ニ於ケル左記倉庫、集積場ノ各一部ヲ巡視セリ。

海岸倉庫 東倉庫 山手倉庫

第三集積場

倉庫掛主任以下ノ人員極メテ少數ナル爲メ倉庫内ノ整頓ニ於テモ不備ナル點

少カラズ。殊ニ大連、柳樹屯兩倉庫ノ建築方ハ近世學術ノ思想ト倉庫業務ノ經驗ヲ毫モ參酌セズ。宛モ日清戰爭時代ノ物ト選ブ所ナシ。其結果トシテ大連ニアルモノハ不經濟不便利甚シク、隨テ倉庫品ノ損廢其他諸種ノ非難ニ對シテ特別ノ豫防ヲ要スルニ至ル。

此等ノ諸件ニ就テハ時々其筋ヘ報告若シクハ申請シアレドモ從來ノ經驗ニ徴スレバ容易ニ倉庫ノ希望ヲ容レラルベクモアラズ。故ニ倉庫員タルモノハ此上尙一層智囊ヲ傾ケ工夫ヲ廻ラシ此等不備ノ爲メニ生ズル損害ヲシテ出來得ル限リ輕減ノ方法ヲ講ゼザルベカラズ。

六月二十日 鐵嶺前田支庫長ヨリ電報午後十時五十分大連受

吉田第三軍經理部長ヨリノ電○送付アリシ厚底足袋ノ内二百四十入り六十
一ハ紺足袋ナリ。厚底ニ交換シ貫ヒタシ。若シ現品ナケレバ之ニテ可ナリト。返。

右、返電三十三日午前零時

答、吉田部長ヨリノ厚底足袋一萬五千組明日大連ヨリ送ル。之レニテ交換シ、木綿足袋ハ其支庫ヘ保管アレ。

同二十日 第三軍渡シ加給品ノ件ニ付遼東兵站經理部長ヨリ通牒。

大江第三軍兵站經理部長ヨリ遼東兵站經理部長ヘ電報

加給品ハ全軍ニ對シ約一回分ノ給與ニ充ツルノミトナレリ左ノ割合ニテ追送ヲ乞フ但シ内若干數ハ至急追送セラレタシ

三面船ヘ酒六百石、煙草八百萬本、甘味品四千五百貫

小塔子ヘ酒四百石、煙草七百萬本、甘味品三千五百貫

同二十日 曩ニ陸軍省經理局ヨリ還送獸皮處理方ニ關スル照會ニ對シ、倉庫ニテ取扱異存ナキ旨返電シ置キタリ。依テ何時取扱ヲ命ゼラル、モ差支ナキ様豫メ其手續キヲ調査シ置クベキ旨、營口支庫安東縣出張所等ヘ通達セリ。
同二十日 辻村遼東兵站經理部長ヘ左ノ電報案ヲ送ル。

總經理部長宛

遼東兵站經理部長ヨリ

大連柳樹屯ノ滿倉ニテハ割麥ト砂糖缺乏セントス。内地ヨリ積出案内ニモナシ。急送セラル、様致サレタシ。

六月二十日 金子營口支庫長ヨリ左ノ報告アリ。

一、五月分ノ水先料ハタツタ千圓バカリニ御座候昨年ノ平均月額七千餘圓ニ比スレバ七分ノ一ニ過ギズ之デハ彼社會ガ乾上ルモ無理カラスコト、存候近來益々恐慌ヲ來タシ大分頭ヲ下ゲ出シ申候此頃新來ノ船アルヨリ毎日一人位使用致シ居候

一、岸本參謀ヨリ兵站監部西川參謀長ノ電報ニヨレバ營口ニ在テハ前送力ニ比シ揚陸力劣ルトノ事ニ付取調方申來リ調査候處先月ハ左ノ比例ヲ見申候尤モ此頃水路輸送力大ニ増加致シ候ニ付汽車(東清及關外共)水路ヲ合スレバ平均六萬位發送サレ居候ニ付船線宜シキヲ得日々五六隻ノ糧秣船出入スレバ發送力ニ比シ揚陸力ノ劣ルコトナシト信ジ居リ候但シ糧秣以外輕鐵材料石炭ノ如キモノ多ケレバ其丈ハ劣ル次第ニ候

五月分揚陸高

糧秣類 約百四十萬四千三百八個
其他 約三十二萬九千八百五十一個
合計 百七十三萬四千五百五十九個
外ニ石炭 千六十四噸

五月分發送高(汽車及水路)

糧秣類 約百二十一萬六千九百三十八個
其他 十九萬二千六百九十九個
合計 百四十萬七千二百七十七個
外ニ石炭 三千五百十五噸

一、提理部行石炭約五千噸ヲ當地ニ送ラル、旨申來リ第二十六觀音丸ハ其千五百噸ヲ積ミ本月四日室蘭ヲ出帆致候也

三十八年六月十八日 營口支庫長 金子 義友

滿洲軍倉庫長 日 匹 信 亮 殿

一六八

六月二十一日 金子營口支庫長ヨリ電報午前九時十分大連受

營口ニハ牛肉ノ販賣品ナキ故當地兵站諸部隊ニ給與ノ爲メ日々若干宛屠殺シタケレドモ検査スル獸醫ナシ。新民屯ニ居ル八木沼工長ヲ引戻シ、飯田工長ヲ派遣シタシ。直ク御認可ヲ乞フ。

右ニ付、陸軍省小澤獸醫正へ電報午前九時十分大連發

獸醫不足ニテ困難ス。手塚、金森兩獸醫倉庫へ轉任ノ辭令電報ニテ直グ御取計ヲ乞フ。

斯クテ營口支庫長へ左ノ如ク返電ス午二十三時正 午大連發

八木沼ハ牛ノ輸送中其地ニテ獸醫ヲ雇入ル、コト出來ルヤ。取調べ、返。

同二十一日 鐵嶺前田支庫長ヨリ左ノ電報アリ午前九時十分大連發

昨夜熊岳蓋平間ノ鐵橋流レタル爲メ汽車不通トナリ、十五列以後ノ分ハ大連ニ止マリアリ。後ハ取調べタル上。

同二十一日 遼陽岡本主計ヨリモ亦電報アリ午前九時五十分遼陽發

熊岳城蓋平間汽車故障アリ、貨車來ラズ。此地ヨリ糧秣ヲ送ル。十三列ヨリ通ズト云フ。

同二十一日 奉天橋元支庫長ヨリモ電報午後一時五十分奉天發

蓋平以南鐵橋ニ故障アリタル爲メ貴地ニ行クベキ汽車止リタルニヨリ、其車ニテ當地ヨリ鐵嶺ニ米、麥ヲ送ル。今日約六十車、後ハ未定○撫順ハ豫定通り送リツ、アリ

同二十一日 撫順小野主計正へ電報午前零時四十分發

貴官ハ仙金樂、撫順間ノ本鐵道延長計畫ノ爲メ提理部ヨリ其地へ派遣ノ部員ト右ニ關スル協議濟ミタル上ハ、其地ノ業務ヲ高橋一等主計ニ任セテ隨意遼陽ニ歸還セラレテヨシ○撫順出張所ハ遼陽支庫ノ管轄トス。

同二十一日 小野主計正ヨリ電報午後三時十分大連受

先日引繼ギヲ受ケタル倉庫四棟ノ外更ニ二百坪ノモノ一棟、昨日鴨軍ヨリ引

一六九

繼ギヲ受タリ。第十九輪卒隊宿舍ヲ鴨軍病院ニスル爲メ移轉ノ内議ヲ受ケタルモ、現宿舍ノ外ニ輪卒隊ヲ入ル、丈ケノ家ナク、他ノ村落ニ移レバ何レモ二里以上アリ。倉庫業務ニ差支ヲ生ズ。故ニ内議ニ應ゼズ。念ノ爲メ報告ス。

次デ又電報アリ午後五時五分大連受

撫順、仙金、遼間本鐵道延長線ハ渾河ノ橋詰ヨリ百尺ノ處マデ延バス計畫ノ由。右ニ對シ異議ナキ旨答ヘタリ。○當出張所ハ本務ノ外仙金、遼停車場並ニ當所ヨリ撫順間ノ輸送、輕鐵運轉共ノ業務アリ。殊ニ創業ノ際ナルト雨季ニ入りタル等ヲ以テ諸般ノ計畫速成ヲ要ス。然ルニ高橋一人ニテハ差支エル當分ノ内主計一名臨時配屬ヲ願フ。返。

六月二十一日 鐵嶺前田支庫長ヨリ電報午前十一時十分鐵嶺發

薪、炭、乾草ノ追送計畫承知シタシ。各軍ノ要求ト總經理部長ノ交付量ノ指示ニ調和セシムル必要アリ。○之ガ爲メ當分薪八十二(内三十二)ハ下敷用炭八千

草三十貨車ノ追送アレバ前要求ニ應ズルコトヲ得。

同二十一日 金山第四軍兵站經理部長ヨリ電報午後零時二十五分鐵嶺發

雨期前ニ集積スベキ軍糧秣中主食物(割麥ヲ除ク)ハ當支庫ニアルモ副食物ハ少ナシ。目下當兵站現在高米九百十(割麥ハ二十五日)ニ對シ、副食物調味品ハ僅ニ二十五日内外ニ過ギズ。今ニシテ回復ヲ計ラザレバ今後益、此ノ差甚シクナル。軍ヨリハ度々之ガ平均ヲ督促シ來ルノミナラズ、時々其理由報告ヲ要求セラレ殆ド困難セリ。當地支庫長ヨリモ請求シアリトノコトナレドモ、尙本官ヨリモ副食物調味品ヲ多ク送ラレンコトヲ切望ス。軍ヘ報告ノ都合アリ。此希望ヲ容レラル、ヤ否ヤ。貴庫ノ狀況示サレンコトヲ望ム。

同二十一日 撫順高橋主計ヨリ電報午後七時四十分大連受

交付スル品揃ハズ困ル故、副食物、調味品編合一列車前送ヲ乞フ。

右ニ付、同日取敢ヘズ第十一列ニテ茶三、砂糖四ヲ送付セリ。

同二十一日 片山總經理部長ヨリ電報午後三時十分大連受

去ル十二日遼兵經理部長ニ電命シタル撫順第一輕鐵班ニ送ルベキ方錐形天幕三十張ハイッ發送セシヤ。返。

右ニ對シ、左ノ如ク返電セリ午後四時十分大連發

答、撫順行方錐天幕三十八在庫品大破損等ニテ發送遅レ居リシガ漸ク整ヒ本日送ル筈ナリシモ汽車不通故開通次第送ル。

六月二十一日 第三軍吉田經理部長ヨリ電報午後四時十分大連受

旅順方面ニテ使用セシズツク製水運ビ袋ノ在庫品ナキヤ。返。

右返電午後五時二十五分大連發

答、水運袋在庫ナシ。

同二十一日 留守第一師團經理部長ヨリ貴倉庫へ消防夫二十補充トシテ六月二十一日當地出發ストノ電報アリ。

同二十一日 鐵嶺前田支庫長ヨリ電報午後八時大連受

第十一師團第四輪卒隊付タリシ二等主計上田信次郎支庫附トシテ着任セリ。

何レへ赴任セシムベキヤ。命課待ツ。

右ニ對シ上田二等主計大連へ直行スル様電達アレト返電セリ。斯クテ同主計ハ二十三日大連本倉庫へ着任セリ。

同二十一日 三面船一等主計鈴木義藏ヨリ電報午後二時十五分三面船發

今、着。出張所ヲ開設セリ。

尙、鐵嶺前田支庫長ヨリモ左ノ電報アリ同夜零時五十分大連受

昨日當地發三面船ニ向ヒシ鈴木主計ヨリ本日着同地ニ出張所ヲ開始セシ通報ニ接ス○本日吉井主計ニ小塔子出張所長及通江口出張所長兼勤ヲ命ズ○山内主計ニ三屯子出張所長ヲ命ジ、吉井主計ノ同所長ヲ免ズ○小崎一等計手ニ通江口出張所附ヲ命ジタリ。

同二十一日 新民屯藤田主計ヨリ電報午後七時三十分大連受

今日午五十二頭(四萬七千八百八十八磅)奉天支庫ニ送ル○一頭百拾參圓貳拾錢(一磅拾貳錢五厘)

同時ニ又左ノ電報アリ。

牛ハ當地ニテ多數ニ集マル見込ミアルモ買入レルニ付テハ直段ハ勿論品質ノ良キヲ選ブノ外歩行ニ堪ヘ得ルモノナルヲ要ス○歩行ニ堪フルヤ否ヤニ付テハ検査ニ特殊ノ注意ヲ要スル故不合格牛ヲ多ク出ス。其邊御含ミヲ願フ。

六月二十一日 新民屯藤田主計ヨリ電報午後六時八分大連受

當地元末永兵站部ノ派出所ヲ引揚グルコトニナルト、通行人ノ宿舍ハ我出張所ニテ引受ケザルベカラザルニ付、軍務官ニ請合ヒ置キタルモ變則ナル事故念ノ爲メ伺フ○公主屯ノ西ニ敵ノ南下シ來ルモノアルヤノ情報アリ。

同二十一日 奉天總經理部長ヘ電報午後十一時十分大連發

曩ニ倉庫用トシテ請求中ノ雨覆大五千張ノ中鐵嶺支庫用トシテ九百張在庫品中ヨリ拂出セリ。報告ス○遼東兵站經理部ヘハ通報濟。

右ニ對シ、左ノ電報アリ二十二日午後五時五分大連受

今朝報告ノ雨覆九百枚ハ去ル十八日報告一千枚ノ外ナリヤ。

依テ左ノ如ク返電セリ午後四時五分大連發

答、雨覆九百張ハ千枚ノ外ナリ。各地準備品ノ現在左ノ如シ。方錐天幕ハ大連二十八、遼陽一、奉天三、計三十二ナリ。屋形ハ大連四千七百六十四、雨覆小ハ大連二十九、鐵嶺三千四十一、計三千七十。同大ハ大連二百五、鐵嶺六、計二百一ナリ。

同二十一日 鐵嶺前田支庫長ヘ電報午後十一時十分大連發

十四日電方錐天幕十九、屋形四十五、第三軍ヘ渡セシヤ○本日現在ノ雨覆大小ト天幕ノ品種ト員數ヲ電報セヨ○右ハ當分毎旬末ニ電報セヨ。但、準備品ニ限ルコト勿論ナリ。

同時ニ奉天橋元支庫長ヘ電報。

天幕ハ種類毎ニ雨覆ハ大小ヲ區分シ、準備品ニ限リ毎旬末ニ其枚數ヲ電報スベシ○其支庫ニハ方錐形天幕三個アリ。何時交付ノ命ヲ受クルモ差支ナキ様保管シ置ケ。

又、柳樹屯、營口、遼陽ノ各支庫長へ電報。

天幕ハ種類毎ニ雨覆ハ尙ホ大小ヲ區分シ、準備品ニ限り、毎旬末ニ其員數ヲ電報スベシ。

右ニ對シ、鐵嶺前田支庫長ヨリ電報時二十二日午前十一

第三軍渡シ方錐十九ハ、二十日、屋形四十五ハ十八日交付濟ミ〇本日現在雨覆

大六、小三千四十一、屋形方錐共在庫品ナシ。

同金子營口支庫長ヨリ返電時五十二日午前九

答、天幕雨覆共準備品ナシ。供用ノ雨覆ハ當支庫ニ(大)九百枚、高力屯ニ七十枚、

新民屯ニ六十枚ト(小)二十枚ナリ。

六月二十一日 遼東兵站經理部長ヨリ左ノ通牒アリ。

其一、電報午後五時五十分奉天發
同五時二十一分大連着

遼東兵站監へ

兵站總監ヨリ

遼陽滿倉支庫ニアル挽割麥ヲ成ルベク速ニ鐵嶺ニ輸送シ各軍ニ支給スベシ。

其二、電報六月十一日

遼東兵站經理部長宛

片山總經理部長ヨリ

第二軍ハ雨期前ニ集積スベキ糧秣ヲ略ボ有スルニ依リ今後ハ同軍ノ日々費
消費ノ外ニ蓄積用トシテ滿倉ニ猶豫アル時若干ノ分量(一日約一個師團分)ヲ
加ヘテ交付アレ。

同二十一日 遼東兵站監部遼陽ニ移轉ニ付兵站監ヨリ倉庫長ノ同地ニ至リア
ルコトヲ要求セラレタル故倉庫長ハ今後主トシテ遼陽ニアルベシ。

右ニ付三等藥劑正警井文二郎、一等主計矢野透、計手一ニ先發トシテ遼陽へ出發
セシム。

同二十二日 各軍糧餉部等ヨリ送り來ル還送獸皮ハ左ノ程度ニヨリ整理スル
コト、セリ。

甲 鹽皮

鹽ノ十分ナラザルモノハ更ニ若干ノ鹽ヲ撒布シ皮革ノ腐敗ヲ防グヲ程度

トスルコト。

乙 乾皮

濕氣等ヲ拂フ爲メ日光及空氣ニ曝シテ乾燥セシムルコト。

丙 甲乙共皮ニ附着セル血塊其他ノ汚物ヲ除去シ清潔ニスルコト。

丁 梱包ヲ改装スルコト。

右掛員ヲ定ムルコト左ノ如シ。

主任	三等主計	柳本鶴三郎
助手	庫手	一名
輸卒	若	干名
仲仕	一	名

其他必要ニ應ジテ支那苦力若干ヲ用フルコトヲ得。

六月二十一日 遼東兵站監部會報要領

一 遼東兵站監部ハ二十三日ニ一部、二十五日ニ其他ノ全部遼陽ニ轉進ノ等、

二 公用書留郵便物ヲ一般公用郵便物ニ混ジテ差出ス爲メ往々普通公用便

トシテ取扱ハル、コトアリ。右ハ當局者ニモ十分注意セシムベケレドモ、

差出部隊ニ於テモ必ズ區別シテ差出サレタシトノコト。

三 金州兵站司令部ヨリノ報ニ馬匹ニ破傷風病アリト。

四 從來旅順へ旅行スルモノニハ危險豫防上周密ナル手續ヲ要シタレドモ、

今ヤ是等危險物ハ一切整理セラレタルニヨリ、自後ハ軍用旅券ノ外何等ノ

手續ヲ要セザルコト。

五 徒歩砲兵獨立中隊復員ヲ命ゼラル。

六 總兵站監ヨリ露探警戒ニ關スル電報アリ。

六月二十二日 撫順小野主計正ヨリ電報午前零時五十分大連受

前三日間ノ經驗ニヨレバ輕鐵臺車ハ一日平均延百八十八車ニテ前送比例ノ

三分ノ一ヨリ輸送出來ズ。依テ臺車ヲ増加シ、延六百臺ヲ運轉ノ計畫ナリ

此結果ヲ見タ上ニテ遼陽ニ歸リタシ。

同時ニ又左ノ電報アリ。

倉庫業務上目下大ニ差支ユルニヨリ、左ノ通り奉天支庫へ電報セリ。承認アリタシ。○分捕馬糧ヲ送ルコト暫ク見合セラレタシ。前送計畫付ケバ知ラス。其上送ラレタシ。貴地ニテ確實ノ苦力頭ヲ選ビ、四百名編成ノ苦力一隊至急送ラレタシ。此苦力ニ給スル分捕ノ糧秣至急送ラレタシ。返待ツ。

右ニ付、橋元奉天支庫長ヨリ左ノ電報アリ午前二時五分大連受

撫順小野ヨリ鹵獲馬糧前送計畫ノツク迄送ルコト見合セヨトノ電アリ。左ノ通り答へ置ケリ。○其筋ノ命ニヨリ送り始メタ。且ツ鐵道輸送ノ計畫ニモ關スルコト故、一應倉庫長ニ申出デラレタシ。

次デ又橋元支庫長ヨリ電報午前九時五分大連受

撫順行馬糧輸送暫ク中止ノコトハ貴官ヨリ命令モナク、且ツ今鴨軍ノ兵站糧餉部長ガ當地ニ來タカラ、其事ヲ話シタラ、其デハ困ル、前送ノコトハ何トカスルカラ引續キ送ラレタシトノコトニ付、續イテ送ル。御承知アリタシ

右ニ付、撫順小野主計正へ左ノ如ク電報セリ午後十時十分大連發

貴地業務ノ困難ナルコト承知ス。然レドモ鴨軍ノ爲メ分捕馬糧ハ之ヲ送ルヲ要ス。適當ニ取計アレ。

六月二十二日 鐵嶺前田支庫長ヨリ電報午前八時十分大連受

各軍へ渡ス沸水車ハ何時輸送ノ都合ツクヤ。青柳第二軍經理部長ヨリ問合セアリ。各軍へ分配數合セテ返。

右返電午後一時十分大連發

答、準備品タル沸水車千三百輛現品未着ナリ。○昨年到着ノ準備品十組アリ。此ハ別ナリ。

同二十二日 鐵嶺前田支庫長ヨリ電報午後一時五分大連發

遼陽兵站病院ヨリ支庫へ轉任ノ三等主計山本龍太郎ハ本日病氣後送ノ旨同病院長ヨリ電話アリタリ

同二十二日 新民屯藤田主計へ電報午後一時十分大連發

坂井榮次郎ノ通譯ヲ免ズ、傳達セヨ。○其他ニ於テ必要アラバ、貴官ニ於テ臨時
備トシテ採用スルハ差支ナシ。

同時ニ、金子營口支庫長へ其旨電報セリ。

六月二十二日 鐵嶺前田支庫長へ電報午後五時五分大連發

第九師團ヨリ轉任セル金森獸醫ヲ遊佐獸醫不在中其支庫へ派遣ス。

同二十二日 遼陽支庫長へ電報午後二時大連發

其支庫ニアル割麥ヲ毎日一列(三十車)又ハ二列(六十車)ヅ、鐵嶺へ引續キ前送
スベシ。

同時ニ奉天片山總經理部長へ電報。

遼陽ノ割麥ハ來ル二十四日ヨリ毎日一列車以上鐵嶺へ送附ノコトニ提理部
ト協議濟ミ。

右ニ付、遼陽岡本主計ヨリ左ノ電報アリ午後十一時十分大連受

鐵嶺へ割麥送ル爲メ貨車三十ヅ、毎日計畫表ニ載セル様手配頼ム。明日ハ

當地着ノ貨車ヲ卸シ積替へ送ル。返。

右返電二十三日午前九時十分大連發

答、割麥ノ貨車三十カラ六十ヲ明日ヨリ毎日出スコト提理部へ協議濟ミ。

同二十二日 木村第二軍兵站經理部長ヨリ電報午後三時四十分大連受

奉天及ビ鐵嶺附近ニ支那米臺灣米約五百石アリ。其筋ノ命ニ依リ、同品補給
停止ニ付、此際貴倉庫へ返納シタシ。何レへ渡スベキヤ。○總經理部長ヨリ薪
ノ件日々約三萬貫鐵嶺及小塔子ニテ渡ストアリ。鐵嶺ニテハ一萬乃至一萬
五千貫ノ外渡サレズト云フ。其他ハ小塔子ニテ渡サル、ヤ、何日ヨリ受取り
得ラル、ヤ、返待ツ。

右ニ對シ、左ノ如ク返電セリ同夜零時三十分五分大連發

答、支那米ハ其附近ノ支庫へ返納セシメラレタシ。○薪ノコトハ實際三萬貫ハ
六ツカシ。先ヅ當分ノ内半分位ト見ラレテ大差ナシト思フ。小塔子ノコト
ハ前田ト打合サレタシ。

六月二十二日 營口居留者小林一生ヨリ遼東兵站監部へ差出スベキ勞働者使用願ナルモノヲ見ルニ、本倉庫長ニ於テモ此事ヲ主張シ居ル旨附記シアリ。依テ營口瀨川領事へ左ノ如ク電報セリ午後四時十分大連發

小林一生ヨリノ勞働者使用願書案ナルモノヲ見タ。其追書ニ下官モ之ヲ主張シ居ル如ク書キ加へアルモ、下官ハ之ヲ主張セシコトナシ。小林ノ話ニ同意セシノミ。同意ト主張トハ別ナリ。兎ニ角下官ニ取リテ迷惑ナリ。小林へ傳へラレタシ。

同二十二日 金子營口支庫長ヨリ電報午後六時五分大連受

奉天ニアル豆粕(豆餅)ハ牛家屯渡シノ相場(大)一枚壹圓(小)一枚六拾錢ニテ買手アリ○但シ奉天渡ナラバ各拾錢ヲ運搬費トシテ引ク。

右ニ付直ニ奉天橋元支庫長へ電報。

金子ヨリ左ノ電アリ。參考迄ニ總經理部長へ内報セヨ○(金子ヨリノ電報前項ノ如シ)

同二十二日 遼東兵站經理部長ヨリ左ノ通知アリ。

片山總經理部長ヨリ辻村遼東兵站經理部長へ電報六月十二日

雨覆(小)二百枚鴨軍へ送附方取計ヒアレ。

右ニ付、撫順小野主計正へ電報午後八時十分大連發

雨覆(小)二百鐵嶺ヨリ遼陽支庫ヲ經テ貴地へ送ル故鴨軍へ渡シタル上予ニ報告セヨ。

同時ニ鐵嶺前田支庫長へ電報。

雨覆(小)二百鴨軍宛撫順行ノ爲メ遼陽支庫へ送レ○沸水車ノ各軍へ分配數ハ書面ニテ本日送ル。

右沸水車分配表左ノ如シ

野戰重砲兵旅團 三十二 奉天渡シ

第一軍 二百九十

第二軍 三百七十